

2024 年度シラバス  
看護学部 2 年次科目

2024 年 4 月 1 日 現在



|                                       |        |                    |     |     |
|---------------------------------------|--------|--------------------|-----|-----|
| <b>プログラミング基礎</b><br>Basic Programming | 授業担当教員 | 浅田 真一・星名 賢之助・井坂 修久 |     |     |
|                                       | 補助担当教員 |                    |     |     |
|                                       | 区分     | 教養選択科目             |     |     |
|                                       | 年次・学期  | 2年次 通年             | 単位数 | 2単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|

#### 【授業概要】

仕事や業務のほとんどは、(勉強も含めて)あらかじめ(pro-)計画を立てて実行する。この計画における各手続きをいかに効率良く組む(記述する=gram)かが、仕事業務全体の達成効率を大きく左右することになる。本演習では、コンピュータープログラミングを学びのツールとして、ものごとを順序立てて考える思考力を身につけ、問題を解決に導く手順を見出す力を身につけることを目的としている。

なお、PCのプログラミングはPython3を利用します。各自のPC（Win/Macいずれも可）へのインストール方法などについては授業中（または授業直前）に指示します。

#### 【到達目標】

人が行う作業や行動などが、ひとつひとつの手順や判断が組み合わさったものであることを例をもとに説明でき、そのシミュレーションを行うことができるとともに、コンピュータープログラミングで一部をシミュレートできるようになる

#### 【授業計画】

| 回     | 授業項目           | 授業内容   | 授業方式     | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標<br>番号 | 担当教員           |
|-------|----------------|--|----------|---|------------|----------------|
| 1~5   | プロセス化          | 作業はプロセスと判断の組み合わせからなることを身近な例をもとに学ぶ<br>プロセスを図（フローチャート）としてあらわす意味とその手法について学ぶ<br>演算を論理的に取り扱う論理式について学ぶ<br>数学演算処理をプログラミングする手法について学ぶ | 講義・演習    | 予習：あらかじめ授業に関するアンケートに答えておくこと（10分）<br>復習：授業後に出される課題を実施すること。（600分） |            | 浅田<br>井坂<br>星名 |
| 6~10  | プログラミングを用いた演習1 | 文字列の演算処理について学ぶ<br>連想配列（配列変数）の取り扱いを学ぶ<br>ファイル入出力について学ぶ<br>GUIの使用法について学ぶ<br>著作権フリーの英和対応単語データベースを用いて英和辞書を作成する                   | 講義・演習・課題 | 復習：課題として出されるプログラムを完成させること（450分）                                 |            | 浅田<br>井坂<br>星名 |
| 11~15 | プログラミングを用いた演習2 | ヒト遺伝子情報データベースから特定の配列情報を取り出すプログラムの作成など、データを取り扱うプログラムを作成する   | 講義・演習・課題 | 復習：最終課題を完成させること（1040分）  |            | 浅田<br>井坂<br>星名 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名    | 著者・編者 | 出版社 |
|-----|-------|-------|-----|
| その他 | プリント他 |       |     |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他  |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|------|
| 割合   |      |      |            |      |        |      | 30%                     | 70%  |
| 備考   |      |      |            |      |        |      | 授業中の課題への取り組み態度など        | 課題内容 |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

各授業回に作業状況を見ながらコメントをします。

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー   | 研究室（部屋番号）   | Eメールアドレス             |
|--------|---|---|----------------------|
| 浅田 真一  | 月曜日～金曜日 12:10～12:45 時間外も随時可(Teamsのchatでのアポイントを受け付けます) | 薬学教育センター（FB101：F棟地下1階）@Shinichi<br>AsadaにTeamsでchatも可 | asada@nupals.ac.jp   |
| 星名 賢之助 | 月～木 15:00-18:00                                       | 薬品物理化学研究室（F棟302a）                                     | hoshina@nupals.ac.jp |
| 井坂 修久  | 月曜日～金曜日（10:00～17:00）                                  | 生体分子化学研究室（E403a）                                      | isaka@nupals.ac.jp   |

#### 【その他】

9月10日(火)、17日(火)、20(金)の3日間、各1～5限での実施を予定しています。

万一、他の授業の臨時的補講などが重なった場合には別途授業時間を取ります。

原則としてプログラミング初級者向け授業ですので、すでにプログラミングの経験が豊富、プログラミングスキルを持っている（「Python3エンジニア認定」などの資格取得者）場合は履修対象外とします。ただし、「ITパスポート試験」など、プログラミングの知識がほとんど不要で取得できる資格のみを取得している場合は本授業科目の履修対象者です。

|                   |        |                        |     |     |
|-------------------|--------|------------------------|-----|-----|
| <b>疾病の予防と治療II</b> | 授業担当教員 | 福多 真史・高橋 哲哉・藤澤 純一・小山 諭 |     |     |
|                   | 補助担当教員 |                        |     |     |
|                   | 区分     | 専門基礎必修科目               |     |     |
|                   | 年次・学期  | 2年次 前期                 | 単位数 | 2単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III/A-3、B-2、C-4、5                   |       |  |  |

#### 【授業概要】

系統別疾患に共通する代表的な症状・徴候、検査・診断・治療を学習する。  
この科目では消化器、代謝・栄養の疾患、骨格、脳血管・神経の疾患に関して対象の病態理解の基盤となる知識を修得する。

#### 【実務経験】

（福多）新潟大学医学部卒業後、県内病院で臨床を行い、ノースショア大学病院研究員、新潟医歯学総合病院助教、新潟大学脳研究所 准教授の経験を得て、2015.10国立病院機構西新潟中央病院神経部長に就任し、2021.4現在の臨床研究部長に至る。2017.4より、新潟医療技術専門学校看護学科にて、病態学の外部講師として現在に至る。  
（高橋）新潟大学医学部卒業後、県内病院で臨床を行い、スタンフォード大学研究員、新潟医歯学総合病院助教の経験を得て、2017.4国立病院機構西新潟中央病院神経内科医長に就任し、2021.4現在の神経部長に至る。2017.4より、新潟医療技術専門学校臨床検査技師学科にて、生理機能検査学の外部講師として現在に至る。  
（藤沢）1997年4月、医師免許取得。新潟大学整形外科に入学。新潟大学医歯学総合病院、秋田赤十字病院整形外科、荘内病院整形外科、刈羽郡総合病院整形外科に勤務歴有。2008年2月より、新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センターに在籍し、地域医療、専門研修プログラムに関する業務にもあたる。2020年9月学位取得。2021年4月より、国立病院機構西新潟中央病院整形外科に勤務。  
（小山）1988年5月、医師免許取得。新潟大学消化器一般外科（旧、第一外科）に入学。新潟大学医歯学総合病院、秋田赤十字病院、秋田組合総合病院、新潟市民病院、佐渡総合病院、下都賀総合病院、水戸済生会病院などに勤務歴あり。2015年4月より新潟大学大学院保健学研究科に勤務。

#### 【到達目標】

1. 脳神経系疾患の症状と病態生理、その早期発見、検査・治療を理解する。
2. 運動器系疾患の症状と病態生理、予防と早期発見、検査・治療を理解する。
3. 消化器系疾患の症状と病態生理、予防と早期発見、検査・治療を理解する。

#### 【授業計画】

| 回  | 授業項目           | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号 | 担当教員 |
|----|----------------|---|------|---|--------|------|
| 1  | 脳神経系疾患の症状と病態生理 | 脳・神経障害の主な症状と病態生理：<br>神経障害とは、意識障害、高次機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、自律性のある機能の障害、頭蓋内圧亢進・脳嵌入、髄膜刺激症状、頭痛、めまい  | 講義   | 予習：神経障害の症状について教科書を用いて、講義範囲を事前に確認し、理解を深めておくこと。（120分）                           | 1      | 高橋   |
| 2  | 検査・診断と治療       | 主な検査：神経学的検査、画像診断、電気生理学的検査、脳脊髄液検査<br>主な治療法：<br>【内科的療法】薬物療法、血漿交換療法、その他<br>【外科的治療法】開頭術、脳血管内治療、神経内視鏡手術、穿頭術、V-Pシャント術、椎弓切除術・椎弓形成術、頸椎前方到達法         | 講義   | 復習：検査について理解を深めるため、教科書を用いて、講義内容を再度確認すること。（120分）                                | 1      | 高橋   |
| 3  | 疾患の理解－1        | 脳疾患：脳血管障害、脳腫瘍、脳外傷、<br>脊髄疾患：脊髄血管障害、脊髄炎、<br>抹消神経障害：DM性・アルコール性・ニューロパシー、ギランバレー症候群、単神経障害、神経痛、顔面神経通<br>脳疾患：脳腫瘍、脳外傷                                | 講義   | 復習：それぞれの疾患について理解を深めるため、教科書を用いて、講義内容を再度確認すること。（120分）                           | 1      | 高橋   |
| 4  | 疾患の理解－2        | 筋疾患・神経筋接合部疾患<br>脱髄・変性疾患<br>脳神経系の感染症   | 講義   | 復習：それぞれの疾患について理解を深めるため、教科書を用いて、講義内容を再度確認すること。（120分）                           | 1      | 福多   |
| 5  | 疾患の理解－3        | 中毒<br>認知症<br>パーキンソン病、サルコイドーシス、甲状腺機能低下症<br>てんかん  | 講義   | 復習：それぞれの疾患について理解を深めるため、教科書を用いて、講義内容を再度確認すること。（120分）                           | 1      | 福多   |
| 6  | 運動器系疾患の症状と病態生理 | 運動器障害の主な症状とその病態生理<br>疼痛とその起こり方、疼痛の評価法、器官による疼痛の分類<br>形態の異常：奇形と変形、機能的要因別変形、部位別変形<br>関節運動の異常：関節拘縮、硬直、動揺関節<br>神経の障害：運動麻痺、感覚障害、異常歩行（跛行）、筋肉障害、その他 | 講義   | 予習：系統看護学講座「運動器」第3章を中心に、第1,2章にも触れます。（120分）                                     | 2      | 藤澤   |
| 7  | 検査・診断と治療       | 主な検査<br>問診、視診・触診、神経観察<br>画像検査：X線、MRI、超音波、関節造影・脊髄造影・椎間板造影、血管造影、シンチグラフィ、骨密度測定<br>主な治療<br>電気生理学検査、関節協検査  | 講義   | 予習：系統看護学講座「運動器」第4章を中心にお話します。（120分）  | 2      | 藤澤   |
| 8  | 疾患の理解－1        | 骨折<br>捻挫<br>神経の損傷<br>筋・腱・靭帯損傷   | 講義   | 予習：系統看護学講座「運動器」第5章I. 外傷性（外因性）の運動器疾患を中心にお話します。（120分）                           | 2      | 藤澤   |
| 9  | 疾患の理解－2        | 【先天性疾患】<br>骨・関節の炎症性疾患<br>骨腫瘍<br>代謝性骨疾患、腱・神経・筋疾患   | 講義   | 予習：系統看護学講座「運動器」第5章II. A～Fを中心にお話します。（120分）                                     | 2      | 藤澤   |
| 10 | 疾患の理解－3        | 【脊椎疾患】<br>上肢・上肢帯、および下肢・下肢帯疾患<br>ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、廃用性症候群   | 講義   | 予習：系統看護学講座「運動器」第5章II. G～Mを中心にお話します。（120分）                                     | 2      | 藤澤   |
| 11 | 消化器系疾患の症状と病態生理 | 消化器障害の主な症とその病態生理<br>嚥下困難、おくび・胸やけ、嘔気・嘔吐、腹痛、吐血・下血、<br>下痢・便秘、腹部膨満、食欲不振、体重減少、腹水、黄疸、肝性脳症   | 講義   | 予習：消化器症状について予め、自己学習しておくことが望ましい。（120分）   | 3      | 小山   |
| 12 | 検査・診断と治療       | 主な検査<br>視診・聴診・打診・触診・直腸指診<br>糞便検査、肝機能検査、尿外分泌機能検査、超音波検査、<br>内視鏡検査、肝生検、放射線検査（X-P、CT、MRI、PET）<br>主な治療<br>薬物療法、栄養療法、食事療法、手術療法、放射線療法              | 講義   | 予習：前回の講義内容を復習し整理して授業に出席することが必要である。また、消化器系の検査について予め、自己学習しておくことが望ましい。（120分）     | 3      | 小山   |
| 13 | 疾患の理解－1        | 食道疾患：食道がん、食道アカラシア、胃食道逆流症<br>胃・十二指腸疾患：機能性胃腸症、胃炎、胃・十二指腸潰瘍<br>胃がん<br>腸および腹膜疾<br>腸炎、腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、消化管憩室、<br>腸管ポリープ・ポリポージス、大腸癌、肛門疾患           | 講義   | 予習：前回の講義内容を復習し整理して授業に出席することが必要である。また、上部及び下部消化器疾患について予め、自己学習しておくことが望ましい。（120分） | 3      | 小山   |

| 回  | 授業項目    | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号 | 担当教員 |
|----|---------|--|------|---|--------|------|
| 14 | 疾患の理解－2 | 肝臓・胆嚢の疾患<br>肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全、肝がん<br>胆石、胆管・胆嚢がん、胆嚢ポリープ、<br>膵臓の疾患<br>膵炎、膵臓がん<br>急性腹症、腹部外傷   | 講義   | 予習：前回の講義内容を復習し整理して授業に出席することが必要である。また、肝胆膵疾患について予め、自己学習しておくことが望ましい。(120分) | 3      | 小山   |
| 15 | 疾患の理解－3 | 代謝疾患の主な症とその病態生理<br>るい瘦、肥満、関節炎症、神経障害、血管障害、循環器障害、腎障害<br>主な検査<br>糖尿病、高脂血症、高尿酸血症<br>糖尿病の診断・コントロール、インスリン分泌・合併症評価に関わる検査<br>脂質異常診断・治療に関わる検査、尿酸値検査<br>主な疾患<br>糖尿病、高脂血症、高尿酸血症 | 講義   | 予習：前回の講義内容を復習し整理して授業に出席することが必要である。また、代謝疾患について予め、自己学習しておくことが望ましい。(120分)  | 3      | 小山   |

【教科書・参考書】

| 種別  | 書名            | 著者・編者  | 出版社  |
|-----|---------------|--------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座「脳・神経」 | 井手隆文、他 | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座「運動器」  | 田中栄、他  | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座「消化器」  | 南川雅子、他 | 医学書院 |

【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

【課題に対するフィードバック方法】

【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|-------|---------|--------------------|----------|
| 福多 真史 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |
| 高橋 哲哉 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |
| 藤澤 純一 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |
| 小山 諭  | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |

|                  |        |          |     |     |
|------------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>疾病の予防と治療Ⅲ</b> | 授業担当教員 | 青木 定夫    |     |     |
|                  | 補助担当教員 |          |     |     |
|                  | 区分     | 専門基礎必修科目 |     |     |
|                  | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |  |       |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎Ⅲ / B-2、C-4、5 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|

#### 【授業概要】

系統別疾患に共通する代表的な症状・徴候、検査・診断・治療を学習する。  
この科目では感覚器の疾患に関して対象の病態理解の基盤となる知識を修得する。

#### 【実務経験】

病院において30年以上患者さんの診断治療に従事した経験がある。

#### 【到達目標】

1. 耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。
2. 眼疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。
3. 皮膚疾患の症状と病態生理、検査・治療を理解する。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目     | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|----------|---|------|--|--------|------|
| 1 | 耳鼻咽喉疾患 1 | 症状とその病態生理、検査と治療   | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(180分) | 1      | 青木   |
| 2 | 耳鼻咽喉疾患 2 | 疾患の理解 1<br>耳疾患、鼻疾患  | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 1      | 青木   |
| 3 | 耳鼻咽喉疾患 3 | 疾患の理解 2<br>口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害                    | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 1      | 青木   |
| 4 | 眼疾患 1    | 症状とその病態生理、検査と治療・処置  | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 2      | 青木   |
| 5 | 眼疾患 2    | 疾患の理解<br>機能の障害、部位別の障害（眼瞼、結膜、涙器、角膜、網膜・硝子体、水晶体）、外傷、全身疾患との関連 | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 2      | 青木   |
| 6 | 皮膚疾患 1   | 症状とその病態生理、検査と治療・処置  | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 3      | 青木   |
| 7 | 皮膚疾患 2   | 疾患の理解 1<br>表在性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患、脈管系の異常による皮膚疾患      | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 3      | 青木   |
| 8 | 皮膚疾患 3   | 疾患の理解 2<br>物理・化学的皮膚異常、腫瘍及び色素異常症、感染症、全身性疾患に伴う皮膚病変          | 講義   | 予習：教科書の該当部分をあらかじめ読んでおく。(100分)<br>復習：講義内容、プリント、確認テストの見直し。(120分) | 3      | 青木   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                | 著者・編者  | 出版社  |
|-----|-------------------|--------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 | 小松浩子ほか | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座専門分野Ⅱ 眼    | 大鹿哲郎ほか | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座専門分野Ⅱ 皮膚   | 渡辺晋一ほか | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー | 研究室（部屋番号） | Eメールアドレス           |
|-------|---------|-----------|--------------------|
| 青木 定夫 | 授業終了後   | 講義室       | saoki@nupals.ac.jp |

|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>感染症と微生物</b> | 授業担当教員 | 渡邊 香奈子   |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門基礎必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III / C-3、4                         |       |  |  |

#### 【授業概要】

微生物学の基礎を学び、感染を防ぐ生体の反応である免疫や感染症について、炎症の分類、炎症性変化、感染症の成り立ちおよび生体防御などを学ぶ。また、疫学的観点から、病因と微生物感染症について基礎的な知識を学ぶ。さらに、感染予防や制御の意義と方法を理解し、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、病院感染対策等の取り組みの理解と、地域の危機管理に対する多職種との連携を学ぶ。

#### 【実務経験】

細菌・ウイルス検査24年の実務経験、教員として11年の臨床検査検査技師教育の経験を有する教員が、この経験を活かして、本科目「感染症と微生物」の講義を行う。

#### 【到達目標】

1) 真菌・細菌・ウイルスの大きさ、構造、増殖の特徴などの違いを説明できる。2) 感染の成立過程について説明できる。3) 感染源を断つ、あるいは感染経路を遮断することが感染制御につながることを説明できる。4) ワクチンの種類による長所や短所を説明できる。5) 代表的な滅菌方法とその条件を説明できる。6) 代表的な消毒薬の消毒効果による分類、適用対象について説明できる。7) 標準的予防策の対象物とその実施方法について説明できる。8) 代表的な薬剤耐性菌の性質、特徴について説明できる。9) 代表的な病原細菌の病原性、感染経路、引き起こす病態、診断、治療、予防法、感染制御法について説明できる。10) 病原ウイルス、病原真菌の病原性、感染経路、引き起こす病態、診断、治療、予防法、感染制御法について説明できる。11) 代表的な呼吸器系感染症の病態、治療、予防法を説明できる。12) 代表的な消化器系感染症の病態、治療、予防法を説明できる。13) 代表的な性行為感染症の病態、治療、予防法を説明できる。14) 代表的な中枢神経系感染症の病態、治療、予防法を説明できる。15) 代表的な全身性感染症の病態、治療、予防法を説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                       | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|----------------------------|--|------|--|--------|------|
| 1 | 微生物学の歴史<br>微生物学の基礎（生物学的特徴） | 微生物学の歴史と感染症の現状と解決すべき問題を学習する。<br>病原微生物である細菌、真菌、病原因子であるウイルス、プリオンの基本的な特性を学習する。              | 講義   | 予習：微生物学の歴史、微生物学の基礎を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）        |        | 渡邊   |
| 2 | 微生物と感染症                    | 感染が成立する要因について学習する。<br>目に見えない微生物が、どのようにヒトや動物の体内に入り感染を広げるのかを理解することで、微生物を制御し、感染から身を守ることを学ぶ。 | 講義   | 予習：微生物と感染症を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）                |        | 渡邊   |
| 3 | 感染症の制御                     | 予防接種とワクチンについて学習する。<br>標準的予防策（スタンダードプリコーション）について学習する。<br>代表的な滅菌方法と消毒薬について学習する。            | 講義   | 予習：感染症の制御を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）                 |        | 渡邊   |
| 4 | 化学療法と耐性菌                   | 代表的な薬剤耐性菌の性質、特徴について学習する。<br>薬剤耐性菌の現状と、それに対する対策の必要性を学ぶ。                                   | 講義   | 予習：化学療法と耐性菌を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）               |        | 渡邊   |
| 5 | 細菌学各論                      | 代表的な病原細菌の病原性、感染経路、病態、診断、治療、予防法、感染制御などを学習する。  | 講義   | 予習：細菌学各論を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）                  |        | 渡邊   |
| 6 | ウイルス学各論<br>真菌学各論           | 代表的な病原ウイルスおよび病原真菌の病原性、感染経路、病態、診断、治療、予防法、感染制御などを学習する。                                     | 講義   | 予習：ウイルス学各論と真菌学各論を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）          |        | 渡邊   |
| 7 | 臓器・組織別感染症 1                | 代表的な呼吸器系感染症と消化器系感染症について学習する。   | 講義   | 予習：呼吸器系感染症と消化器系感染症を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分）        |        | 渡邊   |
| 8 | 臓器・組織別感染症 2                | 代表的な性行為感染症、中枢神経系感染症、全身性感染症について学習する。  | 講義   | 予習：性行為感染症、中枢神経系感染症と全身性感染症を通読する（30分）<br>復習：教科書を用いて、授業内容を確認する（30分） |        | 渡邊   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                   | 著者・編者 | 出版社       |
|-----|----------------------|-------|-----------|
| 教科書 | 感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 | 増澤俊幸  | 羊土社       |
| 参考書 | 微生物学・感染症学            | 中野隆史編 | 南江堂       |
| 参考書 | 微生物学・感染制御学           | 辻明良編  | メヂカルフレンド社 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 90%  |      |            |      |        |      | 10%                     |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      | 観察記録                    |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|--------|---------|--------------------|----------|
| 渡邊 香奈子 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |



|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>生活支援技術論</b> | 授業担当教員 | 川崎 久子    |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 2単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）                              | 保健師課程 |  |  |
|              | II〇、III〇、/A-2-2)、A-3-1)、A-4-1)、A-6-1)、A-6-2)、C-2-3)、D-2-2)、D-2-3) |       |  |  |

#### 【授業概要】

生活環境を整え、対象の持つ自然治癒能力を高めるための技術、身体の清潔にするための技術、食事を摂取し、栄養状態を保つための技術、排泄に関する技術など対象の日常生活行動における不足する部分を補う技術に関して、その技術を支えるための理論的知識を方法論的知識を学修する。また、運動、知覚、循環、呼吸、排泄などの日常生活に必要な様々な機能を維持促進する技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。

#### 【実務経験】

(川崎) 看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。

#### 【到達目標】

- 1) 生活を支援する技術とはなにかを述べるができる。
- 2) 生活を支援する際に必要な感染予防の基礎知識と方法を述べるができる。
- 3) 療養環境に求められるもの列挙でき、環境調整方法を述べるができる。
- 4) 睡眠と休養、活動の状態のアセスメントとその調整方法を述べるができる。
- 5) 移動動作のアセスメント、援助の方法を述べるができる。
- 6) 衣服の役割りと衣生活の援助の方法を述べるができる。
- 7) 皮膚・粘膜などの清潔のアセスメントと清潔を保持する方法について述べるができる。
- 8) 食生活のアセスメントと食生活を支援するための方法について述べるができる。
- 9) 排泄のアセスメントと自然排便・排尿を支援するための方法について述べるができる。

#### 【授業計画】

| 回  | 授業項目         | 授業内容  | 授業方式    | 授業外学習（予習・復習）                            | 到達目標<br>番号 | 担当<br>教員 |
|----|--------------|---|---------|---|------------|----------|
| 1  | 生活支援技術の基盤    | 科目ガイダンス<br>看護技術の提供における安全・安楽・自立の捉え方、感染予防の技術（手指衛生・個人防護具の取り扱い）について理解する。                | 講義      | 復習：配布資料の復習                              | 1.2        | 川崎       |
| 2  | 生活環境を整える技術①  | 療養生活の生活環境について理解し、ベッドメイキングの技術を学ぶ。  | 講義      | 予習：ベッドメイキングの動画の視聴<br>復習：配布資料の復習         | 1.3        | 川崎       |
| 3  | 活動と休息を支援する技術 | 基本的活動とはなにか、姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの活用方法、体位保持・体位変換の技術について理解する。                              | 講義      | 予習：体位変換の動画の視聴<br>復習：配布資料の復習             | 1.4        | 川崎       |
| 4  | 生活環境を整える技術②  | リネン交換・臥床患者のシーツ交換における基本的技術を理解する。   | 講義      | 予習：シーツ交換の動画の視聴<br>復習：配布資料の復習            | 1.3        | 川崎       |
| 5  | 睡眠と休息を支援する技術 | 睡眠の基礎知識と睡眠習慣の改善に向けての援助、リラクゼーションへの援助について理解する。  | 講義      | 予習：自分の睡眠日誌を記録する<br>復習：配布資料の復習           | 1.4        | 川崎       |
| 6  | 安楽を確保する技術    | 安楽とは何かを問い直し、冷電法・温電法・マッサージ法の適応とその技術について理解する。   | 講義      | 予習：水の性質について<br>復習：配布資料の復習               | 1.4        | 川崎       |
| 7  | 移動を支援する技術    | 立位、座位、歩行のアセスメントと歩行の援助、移乗・移送の援助の技術について理解する。  | 講義      | 予習：車いすとストレッチャーの仕組み<br>復習：配布資料の復習        | 1.5        | 川崎       |
| 8  | 衣生活を支援する技術   | 衣服の役割り、衣服気候、衣生活のアセスメント、寝衣の選択と寝衣交換の技術について理解する。                                       | 講義      | 予習：和式寝衣の名称<br>復習：配布資料の復習                | 1.6        | 川崎       |
| 9  | 清潔を保持する技術①   | 皮膚・粘膜の構造と知識、清潔の保持が人体に与える影響、清潔援助の概要について理解する。   | 講義      | 予習：皮膚の構造<br>復習：配布資料の復習                  | 1.7        | 川崎       |
| 10 | 清潔を保持する技術②   | モーニングケア、全身清拭の技術について理解する。  | 講義      | 予習：市販の洗浄剤（ビオレなど）の成分を調べる<br>復習：配布資料の復習   | 1.7        | 川崎       |
| 11 | 清潔を保持する技術③   | 足浴、手浴、陰部洗浄、シャワー浴の技術について理解する。  | 講義      | 復習：配布資料の復習                              | 1.7        | 川崎       |
| 12 | 清潔を保持する技術④   | 洗髪を支援する方法である、ケリーパッド法、洗髪車法、洗髪台を用いた方法の適応とその技術を理解する。                                   | 講義      | 予習：市販のシャンプー・リンスの成分と働きを調べる<br>復習：配布資料の復習 | 1.7        | 川崎       |
| 13 | 食生活を支援する技術   | 食事を援助するためのアセスメントを学び、経口摂取における支援の方法を理解する。   | 講義      | 復習：配布資料の復習                              | 1.8        | 川崎       |
| 14 | 排泄行動を支援する技術  | 排泄をメカニズムを理解し、患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメントを理解する。自然排便と自然排便を援助の方法と自然排便を促進するための技術について理解する。 | 講義      | 復習：配布資料の復習                              | 1.9        | 川崎       |
| 15 | まとめ          | これまでの学習内容を想起し、生活を支援する看護についてまとめる   | グループワーク | 予習：これまでの配布資料の復習                         | 1          | 川崎       |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                           | 著者・編者      | 出版社       |
|-----|------------------------------|------------|-----------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 | 任和子他       | 医学書院      |
| 参考書 | 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ      | 深井喜代子編集    | メジカルフレンド社 |
| 参考書 | 看護技術が見える①基礎看護技術              | 医学情報学研究所編集 | メディックメディア |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2  | 茂野香ほる他     | 医学書院      |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート               | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|--------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 70%  |      |            |      |        | 30%                |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 事前学修とまとめグループワークに配点 |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

提出されたレポートには、配点をして返却する。

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー         | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|-------|-----------------|---------------------|------------------------------|
| 川崎 久子 | 水曜日 16:00~17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（323） | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

定期試験の得点とレポート得点の合計が60点になっていることで合格とする。



|                      |   |        |                  |     |     |
|----------------------|---|--------|------------------|-----|-----|
| <h1>ヘルスアセスメント演習</h1> |   | 授業担当教員 | 戸田 肇・川崎 久子・橋本 有紀 |     |     |
|                      |   | 補助担当教員 | 澁谷 公崇・松沢 朱西美     |     |     |
|                      |   | 区分     | 専門教育必修科目         |     |     |
|                      |   | 年次・学期  | 2年次 前期           | 単位数 | 1単位 |
| 看護学部<br>看護学科         | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）                        |        | 保健師課程            |     |     |
|                      | ◎ I、II、III、IV/A-1、2、3、4、5、6、B-1、2、3、C-1、2、3、4、5、D-1、2、3、4、5 |        |                  |     |     |

### 【授業概要】

看護の対象となる人々の個性や状況に応じた看護を実践するためには、対象者を生物学的にかつ生活者として把握するヘルスアセスメントが不可欠となる。そこで、看護におけるヘルスアセスメントの概念と意義を理解し、アセスメントするために必要な知識・技術・態度の修得を通して基礎的能力を身につける。

### 【実務経験】

（戸田）看護実践、看護学教育の経験を40余年有する。臨地の側から教育の側と共同して学生を支える実習指導者の育成に25余年責任者として取り組んできた実務経験も踏まえ「看護人材として求められる基本的な資質・能力」を培う講義・演習を行う。  
（川崎）看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。  
（大野）看護師として急性期病院での20余年の臨床経験と専門学校専任教員の経験を持つ。  
（橋本）臨床経験13年、教育経験専門学校看護学科専任教員として7年の経験を持つ。

### 【到達目標】

1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念と意義について説明することができる。
2. ヘルスアセスメントの視点、基本的な知識・技術について説明することができる。
3. 対象へ関心を寄せ、目的意識をもって観察し、ヘルスアセスメントを実施することができる。
4. 対象者から得られた情報の意味を考え説明することができる。
5. 学生同士で看護師・患者役となるヘルスアセスメント演習を通して、対象者の立場から援助を考えることができる。
6. 事例演習を通して対象者に必要なヘルスアセスメントについて説明することができる。

### 【授業計画】

| 回  | 授業項目                         | 授業内容  | 授業方式  | 授業外学習（予習・復習）                               | 到達目標番号                 | 担当教員                |
|----|------------------------------|---|-------|--|------------------------|---------------------|
| 1  | ヘルスアセスメントとは何か                | ・ヘルスアセスメントは、対象者を生物学的にかつ生活者として把握する看護過程における事実の情報化として位置づけられる。<br>・看護観の表現である看護技術は看護の本質に照らして、対象者の全体像・対象特性・日常生活力をどのようにアセスメントし、患者像を思い描いているのかによって決まることを再確認する。 | 講義・演習 | 予習：教科書、資料を読む（40分）<br>復習：授業内容をまとめる          | 1                      | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 2  | ヘルスアセスメントに必要な基本技術            | ・ヘルスアセスメントに必要な基本技術には、問診、視診、聴診、打診、触診があることを理解し、目的に応じて使えるよう、その基礎を身につける。  | 演習    | 予習：教科書、資料を読む<br>復習：授業内容をまとめる（50分）          | 1. 2.<br>3.            | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 3  | バイタルサインズとアセスメント①             | ・バイタルサインズ（生命兆候）とは何かを理解し、対象者の生命を維持する力（循環・呼吸・体温）をアセスメントすることの必要性と視点を理解し、その基礎を身につける。  | 講義・演習 | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成（40分）<br>復習：授業内容をまとめる | 1. 2.<br>3.            | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 4  | バイタルサインズとアセスメント②             | ・バイタルサインズの測定を通して、自己の健康状態と突き合わせ対象者の健康状態をアセスメントする。  | 演習    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成<br>復習：授業内容をまとめる（40分） | 1. 2.<br>3. 4.         | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 5  | 呼吸器系と循環器系のアセスメント①            | ・呼吸器系と循環器系の基本的な観察方法と得られた情報の意味を理解し、対象者の生命を維持する力をアセスメントする基礎を身につける。  | 講義・演習 | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成（40分）<br>復習：授業内容をまとめる | 1. 2.<br>3. 4.         | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 6  | 呼吸器系と循環器系のアセスメント②            | ・モデルや学生同士で看護師・患者役に立場を変換しながら実施する呼吸器系と循環器系のヘルスアセスメントを通して、対象者の健康障害とレベルに応じた援助を考える基礎を身につける。  | 演習    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成<br>復習：授業内容をまとめる（40分） | 1. 2.<br>3. 4.<br>5.   | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 7  | 筋・骨格系のアセスメント①                | ・筋・骨格系の基本的な知識を再確認し、観察方法と得られた情報の意味を理解し、対象者の生活の土台と移動を担い、その人らしい生活をつくり出す力をアセスメントする基礎を身につける。   | 講義・演習 | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成（40分）<br>復習：授業内容をまとめる | 1. 2.<br>3. 4.         | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 8  | 筋・骨格系のアセスメント②                | ・学生同士で看護師・患者役に立場を変換しながら実施する脳神経系・感覚器のヘルスアセスメントを通して、対象者の健康障害とレベルに応じた援助を考える基礎を身につける。   | 演習    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成<br>復習：授業内容をまとめる（50分） | 1. 2.<br>3. 4.<br>5.   | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 9  | 消化器系のアセスメント①                 | ・対象者の摂取（食べる）・自己化・排出（排泄）の観点から、健康でその人らしい生活をつくり出す力を捉える看護の視点とアセスメントする基礎を身につける。  | 講義    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成（40分）<br>復習：授業内容をまとめる | 1. 2.<br>3. 4.         | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 10 | 消化器系のアセスメント②                 | ・学生同士で看護師・患者役に立場を変換しながら実施する筋・骨格系のヘルスアセスメントを通して、対象者の健康障害とレベルに応じた援助を考える基礎を身につける。  | 講義    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成<br>復習：授業内容をまとめる（50分） | 1. 2.<br>3. 4.<br>5.   | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 11 | 脳神経系と感覚器のアセスメント①             | ・今までの学修内容を振り返り、生命を維持し、全身の機能を統括し、健康でその人らしい生活を作り出す力には脳神経系と感覚器が関係していることを理解し、全人的に統合してアセスメントする基礎を身につける。  | 講義・演習 | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成（40分）<br>復習：授業内容をまとめる | 1. 2.<br>3. 4.         | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 12 | 脳神経系と感覚器のアセスメント②             | ・学生同士で看護師・患者役に立場を変換しながら実施する脳神経系・感覚器のヘルスアセスメントを通して、対象者の健康障害とレベルに応じた援助を考える基礎を身につける。   | 演習    | 予習：教科書、資料を読む、ワークシート作成<br>復習：授業内容をまとめる（50分） | 1. 2.<br>3. 4.<br>5.   | 戸田<br>川崎<br>橋本<br>他 |
| 13 | シュミレーショントレーニング① 事例を用いた実践的な演習 | ・課題事例に対して、対象者を生物学的にかつ生活者の観点から統合してアセスメントし、その人のもてる力を引き出す看護の必要性を考える。   | 演習    | 予習：事例の把握（50分）<br>復習：授業内容をまとめる              | 1. 2.<br>3. 4.<br>5.   | 戸田<br>川崎<br>他       |
| 14 | シュミレーショントレーニング② 事例を用いた実践的な演習 | ・課題事例に対して、対象者を生物学的にかつ生活者の観点から統合してアセスメントし、その人のもてる力を引き出す看護の必要性を考え、実施する。   | 講義・演習 | 予習：事例の把握<br>復習：授業内容をまとめる（40分）              | 1. 2.<br>3. 4.<br>5. 6 | 戸田<br>川崎<br>他       |
| 15 | 授業のまとめ（振り返り）                 | ・課題事例に対して、自分たちが考え、実施したヘルスアセスメントは、対象者のもてる力を引き出す看護につながる捉え方になっていたかを振り返り、まとめる。  | 講義・演習 | 復習：授業内容の確認（40分）                            | 1. 2.<br>3. 4.<br>5. 6 | 戸田                  |

【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                      | 著者・編者      | 出版社      |
|-----|-------------------------|------------|----------|
| 教科書 | 系統看護学講座 基礎看護技術 I        | 茂野香おる他     | 医学書院     |
| 教科書 | 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント | 医療情報科学研究所編 | メディクメディア |
| 参考書 | 看護のための人間論 ナースが視る人体      | 薄井坦子       | 講談社      |
| 参考書 | 看護のための疾病論 ナースが視る病気      | 薄井坦子       | 講談社      |

【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート          | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他    |
|------|------|------|------------|------|--------|---------------|-------------------------|--------|
| 割合   |      |      |            |      |        | 80%           |                         | 20%    |
| 備考   |      |      |            |      |        | 課題レポート・ワークシート |                         | 技術修得状況 |

【課題に対するフィードバック方法】

疑問が解消され、学修の方向性が見出せるように授業の中でフィードバックを行う。

【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー                   | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|-------|---------------------------|---------------------|------------------------------|
| 戸田 肇  | 火曜日 授業終了後、水曜日 12:30～14:00 | 西新潟中央病院キャンパス2階（206） | toda@nupals.ac.jp            |
| 川崎 久子 | 水曜日 16:00～17:00           | 西新潟中央病院キャンパス3階（323） | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |
| 橋本 有紀 | 授業終了後                     | 演習室                 |                              |

【その他】

講義・演習には、ワークシートの作成など予習内容に取り組んだうえで出席すること。演習は、学生同士で実施する演習と、モデルや事例を活用した演習がある。アセスメント技術は、学生同士で互いに繰り返す自己学習によってより身につく。

【成績評価基準】 課題レポートやワークシートの提出、技術修得確認（100点満点）のうち60点以上を合格とする。詳細は授業中に提示する。

|                 |        |                         |     |     |
|-----------------|--------|-------------------------|-----|-----|
| <b>生活支援技術演習</b> | 授業担当教員 | 川崎 久子・石綿 啓子・大野 直子・橋本 有紀 |     |     |
|                 | 補助担当教員 | 澁谷公崇・犬伏真実               |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目                |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 前期                  | 単位数 | 2単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）                                  | 保健師課程 |  |  |
|              | II〇、III〇、IV〇/A-2-2)、A-3-1)、A-4-1)、A-6-1)、A-6-2)、C-2-3)、D-2-2)、D-2-3)、 |       |  |  |

**【授業概要】**

「生活支援技術論」における学修を基盤にして、日常生活を支援するための感染予防、環境の整え、活動と休息、清潔、衣、食事、排泄等の基礎的な技術について学修する。技術演習を通して、理論的知識と方法論知識の統合を図り、看護技術の一つひとつの意味を踏まえて看護技術を修得する。また、看護職者としてふさわしい態度や看護の役割を果たすための姿勢を学ぶ。演習は1ベッドに学生4名を配置、教員1名が3ベッドを担当する少人数教育で実施し、グループワークを取り入れた主体的な技術演習を行う。

**【実務経験】**

(川崎) 看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。  
(石綿) 病院に16年間勤務した経験を持つ。  
(大野) 看護師としての臨床経験と専門学校専任教員3年の経験を持つ。

**【到達目標】**

- 1) 安全・安楽・自立に考慮した看護技術を見につける。
- 2) 日常生活を援助する際に求められる感染予防の行動がとれる。
- 3) 基本的活動、睡眠・休息、身体の清潔、衣生活のアセスメントをもとに援助を実施できる。
- 4) 車椅子・ストレッチャーの点検および移乗と移送を安全に実施できる。
- 5) 臥床患者のシーツ交換・寝衣交換・全身清拭・陰部洗浄・足浴・洗髪が安全に実施できる。
- 6) 体温管理・安楽を促進する技術として冷罨法と温罨法を安全に用いることができる。
- 7) 臥床患者の食事介助・口腔が安全に実施できる。
- 8) プライバシーに留意して臥床患者の便器と尿器の当て方とおむつ交換を安全に実施出来る。
- 9) 実施する援助について対象者に同意を得ることができる。

**【授業計画】**

| 回     | 授業項目         | 授業内容   | 授業方式    | 授業外学習（予習・復習）             | 到達目標番号      | 担当教員           |
|-------|--------------|--|---------|--------------------------|-------------|----------------|
| 1~2   | 生活支援技術と感染予防  | 科目ガイダンス<br>実習室の使い方<br>手指衛生・個人防護具の取り扱いの技術を演習を通して学ぶ。                   | 講義・演習   | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2         | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 3~4   | 生活環境を整える技術①  | リネン類畳み方、ベッドメイキングを演習を通して学ぶ。   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・5       | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 5~6   | 活動と休息を支援する技術 | ポジショニング（背抜き・体位保持）・体位変換（左右移動・側臥位・上方移動・仰臥位から長坐位・長坐位から端坐位）について演習を通して学ぶ。 | 演習      | 予習：事後課題の作成<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・9     | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 7~8   | 生活環境を整える技術②  | 臥床患者のシーツ交換・環境整備の技術を演習を通して学ぶ。   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・5・9     | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 9~10  | 移動を支援する技術    | 車椅子への移乗と移送、ストレッチャーへの移乗、移送の技術を演習を通して学ぶ。                               | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・4・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 11~12 | 衣生活を支援する技術   | ガウンタイプの寝衣からセパレートタイプの寝衣交換を演習を通して学ぶ。                                   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・9     | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 13~14 | 看護技術の展開①     | 事例に対して看護技術を展開する。   | 演習      | 予習：技術の練習<br>復習：技術の振り返り   | 1・2・5・9     | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 15    | 安楽を支援する技術①   | 冷罨法と温罨法を安全で安楽に用いることを演習を通して学ぶ   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・5・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 16    | 安楽を支援する技術②   | リラクゼーションとしてのマッサージ（軽擦法）を演習を通して学ぶ                                      | 演習      | 予習：事前課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・9     | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 17~18 | 清潔を保持する技術①   | 全身清拭の技術を演習を通して学ぶ。  | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・5・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 19~20 | 清潔を保持する技術②   | 足浴、陰部洗浄、おむつ交換の技術を演習を通して学ぶ。   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・5・8・9 | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 21~22 | 清潔を保持する技術③   | ケリーパッドを用いた洗髪・洗髪車を用いた洗髪法を演習を通して学ぶ。                                    | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・5・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 23~24 | 食生活を支援する技術   | 食事摂取の介助と口腔ケアの技術を演習を通して学ぶ。  | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・7・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 25~26 | 排泄行動を支援する技術  | 便器と尿器の使用方法・腹部マッサージを演習を通して学ぶ。   | 演習      | 予習：演習課題の予習<br>復習：事後課題の作成 | 1・2・3・8・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 27~28 | 看護技術の展開②     | 事例に対して看護技術を展開する。   | 演習      | 予習：技術練習<br>復習：技術の振り返り    | 1・2・3・5・9   | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 29~30 | 看護技術の応用      | 事例に対しての援助を考える。   | グループワーク | 予習：事例を理解する               | 1~9         | 川崎<br>石綿<br>橋本 |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名                             | 著者・編者      | 出版社       |
|-----|--------------------------------|------------|-----------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野 1 基礎看護技術II 基礎看護学3 | 任和子他       | 医学書院      |
| 参考書 | 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II       | 深井喜代子編集    | メジカルフレンド社 |
| 参考書 | 看護技術が見える①基礎看護技術                | 医学情報学研究所編集 | メディックメディア |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学2   | 茂野香ほる他     | 医学書院      |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他                |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|--------------------|
| 割合   |      |      |            |      |        | 60%  |                         | 40%                |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         | 事例に対する看護技術の展開状況を評価 |

**【課題に対するフィードバック方法】**

提出されたレポートには、配点をして返却する。

**【連絡先】**

| 氏名    | オフィスアワー         | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|-------|-----------------|---------------------|------------------------------|
| 川崎 久子 | 水曜日 16：00～17：00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（323） | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |
| 石綿 啓子 | 授業終了後           | 西新潟中央病院キャンパス3階（322） | ishiwata@nupals.ac.jp        |
| 大野 直子 | 授業終了後           | 演習室                 |                              |
| 橋本 有紀 | 授業終了後           | 演習室                 |                              |

**【その他】**

看護技術の展開の得点とレポート得点の合計が60点になっていることで合格とする。ただし、看護技術の展開の得点が、60%未満の場合は、再試験を課す。演習時の服装および持参物品は、演習内容によって異なるので、事前に指示がある。

|              |   |        |             |     |     |
|--------------|---|--------|-------------|-----|-----|
| 地域・在宅看護関係法規  |   | 授業担当教員 | 小山 歌子・野原 真理 |     |     |
|              |   | 補助担当教員 |             |     |     |
|              |   | 区分     | 専門教育必修科目    |     |     |
|              |   | 年次・学期  | 2年次 前期      | 単位数 | 1単位 |
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>○III、IV、V/A-7,B-2 | 保健師課程  |             |     |     |

#### 【授業概要】

地域で生活する人々とその家族を支援する職種や機関、活用できるサービスを理解し、社会資源の活用における看護職の役割について学修する。

#### 【実務経験】

- (小山) 行政保健師、地域保健課長としての実務経験を活かし、本科目の講義を行う。  
(野原) 行政保健師として実務経験をもつ教員が、社会を形作る制度と健康との関連を踏まえて講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1) わが国の社会保障制度と社会資源活用における看護職の役割を理解し、説明できる。
- 2) 医療保健制度の概要と給付の仕組みを理解し、説明できる。
- 3) 後期高齢者医療制度の概要について理解し、説明できる。
- 4) 介護保険制度の目的、要介護認定と介護サービス計画、サービス内容、介護報酬の概要を説明できる。
- 5) 生活保護制度の概要について説明できる。
- 6) 在宅療養者・家族を支える制度について理解し、説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目           | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                        | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|----------------|--|------|-------------------------------------|--------|------|
| 1 | わが国の社会保障制度の概要  | 社会保障制度の全体像と社会保障給付費の推移について講義する。                   | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)     | 小山   |
| 2 | 医療保険制度         | 医療保険制度の仕組みと後期高齢者医療制度について講義する。                    | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 2) 3)  | 野原   |
| 3 | 介護保険制度(1)      | 介護保険制度設立の背景と、介護保険の理念、仕組みと利用の流れについて講義する。          | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 4)     | 小山   |
| 4 | 介護保険制度(2)      | 地域包括支援センターの機能、ケアマネジメントについて講義する。                  | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 4)     | 小山   |
| 5 | 在宅療養者を支える制度(1) | 在宅難病療養者を支える制度、子どもの在宅療養者を支える制度について講義する。           | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 6)     | 小山   |
| 6 | 在宅療養者を支える制度(2) | 障害者の在宅療養を支える制度、在宅療養者の権利を擁護する制度について講義する。          | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 6)     | 小山   |
| 7 | 在宅療養者を支える制度(3) | 経済的困窮者を支える制度について、社会資源の種類について講義する。                | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 5)     | 小山   |
| 8 | 社会資源の活用        | 在宅療養者・家族が社会資源を活用する目的と、社会資源の活用に関わる看護職の役割について講義する。 | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 6)  | 野原   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                               | 著者・編者          | 出版社    |
|-----|----------------------------------|----------------|--------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門基礎分野「健康支援と社会保障制度3」     | 福田素生           | 医学書院   |
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア」地域・在宅看護論① | 臺有佳 石田千絵 山下留理子 | メディカ出版 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー          | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                |
|-------|------------------|---------------------|-------------------------|
| 小山 歌子 | 木・金曜日15:00～17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（317） | koyama@nupals.ac.jp     |
| 野原 真理 | 水曜日11:00～13:00   | 西新潟中央病院キャンパス3階（314） | marinohara@nupals.ac.jp |



|              |  |        |  |     |     |
|--------------|--|--------|--|-----|-----|
| 地域・在宅看護技術演習  |  | 授業担当教員 | 小山 歌子・明神 一浩・古地 順子・中垣 紀子・定方 美恵子・齋藤 智子・佐藤 七重 |     |     |
|              |  | 補助担当教員 | 松沢 朱西美                                     |     |     |
|              |  | 区分     | 専門教育必修科目                                   |     |     |
|              |  | 年次・学期  | 2年次 前期                                     | 単位数 | 2単位 |
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目(中項目)                   | 保健師課程  |  |     |     |
|              | ◎Ⅲ、Ⅳ、○Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ/A-1,2,3,4,5,6,7, B-2,3, C-1,2,3,4,5, D-1,2 |        |  |     |     |

#### 【授業概要】

地域で暮らす様々な発達段階にある対象(小児、母性、成人、老年等)や健康支援が必要とされる状況にある対象(妊婦、精神疾患等)に対して、ライフステージ別に地域・在宅看護に必要な知識・技術について演習を通して学修する。

#### 【実務経験】

- (小山) 行政保健師、地域保健課長としての実務経験を活かし、本科目の講義を行う。  
(明神) 臨床17年、訪問看護ステーション3年の経験と、看護専門学校2年、大学非常勤講師2年の教育経験を持つ。  
(古地) 大学病院に12年間勤務した経験を持つ。実務経験をもとに本科目の各授業において具体的事例を用いるとともに看護の実践的課題にも言及する内容の講義を行う。  
(中垣) 小児専門病院で27年間、小児看護に携わっていた。この実務経験をもとに、本科目の講義を行う。  
(定方) 病院で6年間の実務経験、看護教員として38年間保健医療機関で実習指導を行った経験を持つ。この経験を生かして、本科目の講義を行う。

#### 【到達目標】

1. 様々な発達段階にある対象別に在宅療養者とその家族に対する看護援助の方法が理解できる
2. 在宅での看護介入において、生活者の視点に沿った支援の方向性が理解できる
3. 在宅での生活ニーズの捉え方と生活者の視点でのアセスメントについて説明できる
4. 地域・在宅看護で必要とされる看護技術が理解できる

#### 【授業計画】

| 回  | 授業項目                       | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習(予習・復習)   | 到達目標番号  | 担当教員  |
|----|----------------------------|---|------|--|---------|-------|
| 1  | オリエンテーション<br>在宅看護における看護技術1 | 1. 科目概要の説明<br>2. 家庭訪問・初回訪問<br>3. 訪問看護マナーの基本<br>4. 看護過程の展開技術   | 演習   | 予習: シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく。教科書「在宅療養を支える技術」p18~31を熟読しておく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、学びを深める(60分)         | 1・2・3・4 | 小山 明神 |
| 2  | 在宅看護における看護技術2              | 1. フレイルと日常生活<br>2. 予防支援のポイント<br>3. フレイルを持つ在宅療養者の情報収集・情報の統合  | 演習   | 予習: フレイル・ICF・関連図の書き方を調べておく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、学びを深める(60分)                                       | 1・2・3・4 | 明神 小山 |
| 3  | 在宅看護における看護技術3              | 1. フレイルをもつ在宅療養者のアセスメント<br>2. 援助計画立案   | 演習   | 予習: 介護予防事業について調べておく(60分)<br>復習: 初回訪問のロールプレイができるように準備する(60分)                                      | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 4  | 在宅看護における看護技術4              | 1. 援助計画に基づく初回訪問看護の演習(訪問看護マナー演習含む)<br>2. 振り返り  | 演習   | 予習: 初回訪問のロールプレイができるように準備する(60分)<br>復習: 演習を振り返り、学びを深める(60分)                                       | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 5  | 在宅看護における看護技術5              | 1. パーキンソン病を持つ在宅療養者と日常生活上の課題<br>2. 情報収集、情報の統合(関連図の作成)、アセスメント   | 演習   | 予習: パーキンソン病を持つ在宅療養者と日常生活上の課題を調べておく(60分)<br>復習: 演習を振り返り、学びを深める(60分)                               | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 6  | 在宅看護における看護技術6              | 1. 活用できる社会資源<br>2. パーキンソン病を持つ在宅療養者の援助計画立案   | 演習   | 予習: 活用できる社会資源について調べておく(60分)<br>復習: 援助計画等発表できるように準備する(60分)  | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 7  | 在宅看護における看護技術7              | パーキンソン病を持つ在宅療養者の訪問看護計画等の発表・討議・修正  | 演習   | 予習: 援助計画等を発表できるように準備しておく(60分)<br>復習: 演習を振り返り、学びを深める(60分)   | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 8  | 在宅看護における看護技術8              | 療養者、家族を主体とした援助計画<br>1. 必要でないケアを要求される事例<br>2. 療養者と家族の意見が対立する事例など   | 演習   | 予習: 事前配布資料を読んで、援助方法を整理しておく(60分)<br>復習: 演習を振り返り、学びを深める(60分)                                       | 1・2・4   | 明神 小山 |
| 9  | 成人期在宅療養者の在宅看護における看護技術1     | 1. ストマ(回腸導管)造設者とその日常生活<br>2. ストマ管理を行う成人期在宅療養者が有する日常生活上の問題と看護計画の立て方  | 演習   | 予習: 予習: 膀胱のつくりとはたらきについてノートに図解してくる 復習: 講義内容をノートにまとめ、要点を書き出す(50分)<br>復習: 講義内容をノートにまとめ、要点を書き出す(40分) | 1・2・3・4 | 古地    |
| 10 | 成人期在宅療養者の在宅看護における看護技術2     | 1. ストマ管理を行う成人期在宅療養者の情報収集、アセスメント、計画立案 2. ストマ管理を行う成人期在宅療養者への看護演習  | 演習   | 予習: テキストの「排尿ケア」「ストマ管理」「疼痛管理」の項を読んでくる(50分)<br>復習: 講義内容をノートにまとめ、要点を書き出す(40分)                       | 1・2・3・4 | 古地    |
| 11 | 成人期在宅療養者の在宅看護における看護技術3     | 1. 薬物療法・がん化学療法を必要とする人とその日常生活<br>2. 薬物療法、輸液・栄養管理を行う成人期在宅療養者が有する日常生活上の問題  | 演習   | 予習: テキストの「薬物療法」「がん外来化学療法」「輸液管理」の項を読んでくる(50分)<br>復習: 講義内容をノートにまとめ、要点を書き出す(40分)                    | 1・2・3・4 | 古地    |
| 12 | 成人期在宅療養者の在宅看護における看護技術4     | 1. 薬物療法を必要とする成人期在宅療養者の情報収集、アセスメント、計画立案<br>2. 薬物療法、輸液・栄養管理を行う成人期在宅療養者への看護演習  | 演習   | 予習: テキストの「薬物療法」「がん外来化学療法」「輸液管理」の項を読んでくる(50分)<br>復習: 講義内容をノートにまとめ、要点を書き出す(40分)                    | 1・2・3・4 | 古地    |
| 13 | 老年期在宅療養者の在宅看護における看護技術1     | COPD、Afで在宅酸素療法(HOT)中の高齢者への入浴援助技術<br>1.COPD、Afの病態、HOT治療、生活状況の概要<br>2.事例1の情報、アセスメントの方法、入浴援助計画の立案方法<br>3.援助計画の修正、入浴援助方法の実演 | 演習   | 予習: テキストの「在宅酸素療法(HOT)」について読んでおく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、学びを深める(60分)                                  | 1・2・3・4 | 佐藤    |
| 14 | 老年期在宅療養者の在宅看護における看護技術2     | COPD、Afで在宅酸素療法(HOT)中の高齢者への入浴援助技術(グループワーク)<br>1.事例2の情報、アセスメント、入浴援助計画の立案<br>2.発表及び意見交換                                    | 演習   | 予習: テキストの「在宅酸素療法(HOT)」について読んでおく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、学びを深める(60分)                                  | 1・2・3・4 | 佐藤    |
| 15 | 老年期在宅療養者の在宅看護における看護技術3     | 老年期で遷延性意識障害状態にある在宅療養者への援助技術<br>1. 遷延性意識障害状態の概要<br>2. 情報収集、アセスメント、計画立案   | 演習   | 予習: テキストの寝たがり状態にある高齢療養者について読んでおく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、次回までの課題について調べ学修を行う(60分)                     | 1・2・4   | 佐藤    |
| 16 | 老年期在宅療養者の在宅看護における看護技術4     | 1.老年期で遷延性意識障害状態にある在宅療養者の看護に関する演習。社会資源の活用を含め検討する(グループワーク)<br>2.計画したことについて検討する。   | 演習   | 予習: テキストの寝たがり状態にある高齢療養者について読んでおく(60分)<br>復習: 講義を振り返り、学びを深める(60分)                                 | 1・2・4   | 佐藤    |

| 回  | 授業項目                       | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号  | 担当教員 |
|----|----------------------------|---|------|--|---------|------|
| 17 | 疾病や障がいを持つ小児の事例検討1          | 疾病や障がいを持つ小児在宅療養児の事例について、情報収集、アセスメント、計画立案（グループワーク）   | 演習   | 予習：障がい児や疾患を持つ小児と家族について看護過程を考えておく（60分）<br>復習：演習を振り返り、学びを深める（60分）            | 1・2・3   | 中垣   |
| 18 | 疾病や障がいを持つ小児の事例検討2          | 疾病や障がいを持つ小児在宅療養児の事例について、情報収集、アセスメント、計画立案（グループ毎に発表）  | 演習   | 予習：発表内容を検討しておく（60分）<br>復習：演習を振り返り、学びを深める（60分）                              | 1・2・3   | 中垣   |
| 19 | 疾病や障がいを持つ小児の在宅における看護技術1    | 疾病や障がいを持つ小児在宅療養児の事例について、演習する。<br>1. 吸引<br>2. 経管栄養   | 演習   | 予習：吸引および経管栄養について学習しておく（60分）<br>復習：演習を振り返り、学びを深める（60分）                      | 1・2・3・4 | 中垣   |
| 20 | 疾病や障がいを持つ小児の在宅における看護技術2    | 疾病や障がいを持つ小児在宅療養者の呼吸管理に関する演習<br>1. 呼吸の観察<br>2. 呼吸管理  | 演習   | 予習：呼吸の観察および呼吸管理について学習しておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                   | 2・4     | 中垣   |
| 21 | 産後の母親への授乳支援・子育て支援1         | 1. 母乳育児に問題を抱える母親に寄り添う授乳支援<br>・授乳各期の母親の思いと支援<br>・母親と家族を支える地域の支援リソース                        | 演習   | 予習：母乳育児のWHO/UNICEFの動き、母乳育児推進の日本の動きについて調べておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分） | 1・2・3・4 | 定方   |
| 22 | 産後の母親への授乳支援・子育て支援2         | 1. 母乳育児の困難さを抱える母親の理解<br>2. ケース紹介(グループワーク)   | 演習   | 予習：母乳育児のWHO/UNICEFの動き、母乳育児推進の日本の動きについて調べておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分） | 1・2・3・4 | 定方   |
| 23 | 産後の母親への授乳支援・子育て支援3         | 1. 母乳育児の困難さを抱える母親のアセスメント、計画立案（グループワーク）  | 演習   | 予習：ケースの状況を読み込み、看護に必要な情報と看護の具体策を考えておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）        | 1・2・4   | 定方   |
| 24 | 産後の母親への授乳支援・子育て支援4         | 1. 母乳育児の困難さを抱える母親への看護技術の実際<br>1) 授乳指導、2) エモーションサポート、3) 授乳・離乳の支援ガイド<br>2. 事例への看護（G発表と意見交換） | 演習   | 予習：母乳育児を支援する看護技術を調べておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                      | 1・2・4   | 定方   |
| 25 | 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術1 | 精神疾患を持つ在宅療養者の特徴や関わり方、必要な看護援助に関する演習  | 演習   | 予習：精神疾患を持つ在宅療養者の特徴や関わり方について考えておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）            | 1・2・4   | 明神齋藤 |
| 26 | 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術2 | 精神疾患を持つ在宅療養者に対する情報収集、アセスメント、看護計画の立案   | 演習   | 予習：精神疾患を持つ在宅療養者について考えておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                    | 1・2・4   | 明神齋藤 |
| 27 | 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術3 | 精神疾患を持つ在宅療養者に対して行う認知行動療法に関する演習  | 演習   | 予習：テキストの「認知行動療法」について読んでおく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                   | 1・2・3・4 | 明神   |
| 28 | 精神疾患を持つ在宅療養者の在宅看護における看護技術4 | 精神疾患を持つ在宅療養者の服薬管理に関する演習   | 演習   | 予習：テキストの「服薬管理」について読んでおく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                     | 1・2・3・4 | 明神   |
| 29 | 地域・在宅看護における看護管理1           | 1. 地域・在宅における看護管理<br>1) リスクマネジメント<br>2) 情報管理   | 演習   | 予習：テキストの「看護管理」について読んでおく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                     | 1・2     | 小山明神 |
| 30 | 地域・在宅看護における看護管理2           | 1. 地域・在宅看護における看護管理<br>3) 感染対策<br>2. 地域・在宅看護における今後の課題                                      | 演習   | 予習：地域包括ケアシステム構築上の課題を整理しておく（60分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める（60分）                  | 1・2     | 小山明神 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                              | 著者・編者          | 出版社      |
|-----|---------------------------------|----------------|----------|
| 教科書 | ナーシンググラフィカ「地域療養を支えるケア」地域・在宅看護論① | 臺有桂、石田千絵、山下留理子 | メディカ出版   |
| 教科書 | ナーシンググラフィカ「地域療養を支える技術」地域・在宅看護論② | 臺有桂、石田千絵、山下留理子 | メディカ出版   |
| 教科書 | 写真でわかる訪問看護                      | 押川真喜子          | インターメディカ |
| 参考書 | 各領域指定の教科書                       |                |          |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   |      |      |            |      |        | 100% |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

授業内発表、演習時の提出物についてはその都度フィードバックいたします。

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー                   | 研究室（部屋番号）            | Eメールアドレス                |
|--------|---------------------------|----------------------|-------------------------|
| 小山 歌子  | 木・金曜日12:30～17:00          | 西新潟中央病院キャンパス3階（317）  | koyama@nupals.ac.jp     |
| 明神 一浩  | 月・木曜日 12：30～17：00         | 西新潟中央病院キャンパス2階（212）  | k-myoujin@nupals.ac.jp  |
| 古地 順子  | 火・水・金曜日12：10～17：00        | 西新潟中央病院キャンパス3階（318）  | kochi@nupals.ac.jp      |
| 中垣 紀子  | 水曜日13時～17時                | 西新潟中央病院キャンパス3階（321）  | n-nakagaki@nupals.ac.jp |
| 定方 美恵子 | 水 12時30分～13時、木 12時30分～17時 | 西新潟中央病院キャンパス1階（学部長室） | sadakata@nupals.ac.jp   |

#### 【その他】

演習は小グループで実施しますので技術の根拠を考えながら主体的に学んで下さい。技術の習得にはセルフトレーニングが必要となります。提出された課題にはコメントを付けて返却します。



|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>成人看護学概論</b> | 授業担当教員 | 古地 順子    |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |  |       |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎ I ○ III / A-1,2,3,4,5,6,7,8,9, B-1,2,3,C-1,2,D-3,4,6,E-1,2 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|

#### 【授業概要】

成人期にある人の特徴についてライフサイクル、生涯発達視点から理解すると共に、ライフスタイルや環境から生じる健康問題と健康レベルに応じた看護アプローチの基本を理解する。成人期にある人の特徴に基づき、家庭や職場・地域社会における役割を持つ人々の日常生活および健康問題に対する理解を深め、成人期にある人の健康生活を支援する看護について学修する。

#### 【実務経験】

大学院に12年間勤務した経験を持つ。実務経験をもとに本科目の各授業において具体的事例を用いるとともに看護の実践的課題にも言及する内容の講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1) 成人期にある人の特徴についてライフサイクル、生涯発達視点から説明できる。
- 2) 成人期にある人を取り巻く環境と生活について説明できる。
- 3) 成人を取り巻く保健、医療、福祉システムの概要を説明できる。
- 4) 成人期にある人の健康を構成する要素を説明できる。
- 5) 成人期にある人の生活の多様性および健康破綻をもたらす要因を説明できる。
- 6) 成人期にある人の看護に有用な概念および援助技術について説明できる。
- 7) よりよい看護を提供するための看護的思考プロセスについて説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                          | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号            | 担当教員 |
|---|-------------------------------|---|------|--|-------------------|------|
| 1 | 成人看護学の目的と学習方法、生涯発達と成人期にある人の特徴 | 本科目の授業計画、予習と復習の仕方について、そして本授業で扱うテーマ、本授業と「健康の慢性的な揺らぎのある成人の看護」「急激な健康破綻をきたした成人の看護」「成人看護技術演習」との関連性についても説明します。そして看護の対象としての成人、ライフサイクルの考え方、生涯発達という概念、成人各期にある人の特徴と発達課題について学修します。 | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第1章から第2章の項を読んできてください。(45分) シラバス持参のこと。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分) | 1) 2) 7)          | 古地   |
| 2 | 成人の健康と生活                      | 生活を営むということ、大人の生活からとらえる健康、健康をおびやかす要因とそこに必要とされる看護について学修します。   | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第5章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                      | 1) 2) 4) 5)       | 古地   |
| 3 | 健康生活と予防                       | 成人期にある人の健康観の多様性とそれによる生活に関連した健康障害として生活習慣病・職業性疾患、また成人を取り巻く保健、医療、福祉システムの概要を理解し、生活と健康を守りはぐくむ看護援助の考え方とその方法について学修します。   | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第4章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                      | 1) 2) 3) 4) 5) 7) | 古地   |
| 4 | 生活ストレスと看護                     | 健康をおびやかす因子、生活習慣・余暇・職業とライフスタイル、セクシュアリティおよび更年期、ストレスに関連する健康障害とそこに必要とされる看護について学修します。  | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第7章から第8章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                 | 1) 2) 4) 5) 7)    | 古地   |
| 5 | 成人期にある人への看護アプローチの基本（1）        | 成人の健康行動のとらえ方、病みの軌跡・セルフケアの考え方、セルフマネジメントを促進する看護技術、危機理論の考え方と看護、危機状況への対処・患者－看護師関係について学修します。   | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第10章から第11章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)               | 2) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 6 | 成人期にある人への看護アプローチの基本（2）        | 危機・適応・自己効力、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人へのアプローチ方法、ケア/ケアリングの概念、集団へのアプローチ方法、看護マネジメント、看護における倫理判断について具体例に基づいて学修します。   | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第3章、第6章、第12章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)             | 2) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 7 | 人生の最期のときを支える看護                | 人の死について考察し、人生の最期のときを過ごしている成人とその家族の特徴を理解し、終末期医療、緩和ケア、デス・エドケーション、グリーフワーク/グリーフケアについて学修します。   | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第9章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                      | 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 古地   |
| 8 | 退院調整のための看護                    | 患者とその家族にとっての入院・退院、外来通院の意味について考察し、外来看護、継続看護、退院調整活動および退院をめぐる医療制度について学修します。  | 講義   | 予習：教科書成人看護学概論の第13章の項を読んできてください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                     | 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 古地   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                       | 著者・编者 | 出版社  |
|-----|--------------------------|-------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座-専門分野II 1 成人看護学概論 | 小松浩子他 | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 60%  |      |            |      |        | 40%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー            | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス           |
|-------|--------------------|---------------------|--------------------|
| 古地 順子 | 火・水・金曜日12：10～17：00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（318） | kochi@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

各授業は教科書および随時配布する資料を主体とする。

【成績評価基準】レポート評価の観点の詳細は授業中に開示する。定期試験ならびにレポート評価（計100点満点）のうち60点以上を合格とする。

|                          |        |                     |     |     |
|--------------------------|--------|---------------------|-----|-----|
| <b>健康の慢性的揺らぎのある成人の看護</b> | 授業担当教員 | 平山 恵美子・清水 詩子・田口 めぐみ |     |     |
|                          | 補助担当教員 |                     |     |     |
|                          | 区分     | 専門教育必修科目            |     |     |
|                          | 年次・学期  | 2年次 前期              | 単位数 | 2単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎III、○V / A2, C-2,3,4,5,E-1 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|

#### 【授業概要】

慢性疾患やがんの発症およびその経過途上における健康の慢性的な揺らぎのある成人とその家族の特徴を理解し、QOLを維持・向上していくための日常生活管理に必要な看護について学修する。慢性疾患やがんが人体に及ぼす影響および対象者とその家族の心理・社会的状況について理解し、長期にわたる健康の自己管理支援に向けた看護の基礎的知識を修得する。

#### 【実務経験】

臨床現場で活動した経験を持つ教員が、実務経験をもとに本科目の「健康の慢性的揺らぎのある成人の看護」で講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1) 慢性疾患やがんによる人体への影響について説明できる。
- 2) 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族の体験と反応および健康問題の特徴を説明できる。
- 3) 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族に対する看護の役割を説明できる。
- 4) 呼吸・循環・脳神経・消化器・腎泌尿器・代謝系における身体観察から健康の揺らぎについて判断できる。
- 5) 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族に対する日常生活の自己管理支援の根拠が説明できる。
- 6) 治療・検査および長期にわたる健康管理の目的と看護上の問題について説明できる。
- 7) 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族の理解を促進するために必要な理論について説明できる。

#### 【授業計画】

| 回  | 授業項目                           | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号               | 担当教員 |
|----|--------------------------------|--|------|---|----------------------|------|
| 1  | 健康の慢性的揺らぎのある成人とその家族の理解         | 1.健康の慢性的揺らぎをもたらす健康障害の特徴<br>2.慢性病患者の特徴  | 講義   | 予習：「看護学概論」、「成人看護学概論」の復習を行い、授業に臨む。(30分)<br>復習：配布資料を用い授業内容の確認(60分)                                      | 1) 2) 3) 7)          | 平山   |
| 2  | 健康の慢性的揺らぎのある成人への看護援助の基本となる看護理論 | 「病みの軌跡」理論を用いた事例検討<br>—Aさんの病みの軌跡を考え、必要な看護を検討する—<br>課題レポート①                      | 講義   | 予習：「病みの軌跡」理論について調べておく(30分)<br>復習：課題レポートに取り組む…課題事例を熟読し、「病みの軌跡」理論を用いて患者の理解とその看護について考える(60分)             | 1) 2) 3) 7)          | 平山   |
| 3  | 呼吸器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)       | COPD：病態（Co2ナルコーシス含む）、検査（スパイロメーター他）、治療（HOT含む）、看護の特徴                             | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 4  | 呼吸器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(2)       | 喘息：病態、検査（ピークフロー測定含む）、治療、看護の特徴<br>結核：病態、検査（ガフキー、ツベルクリン反応含む）、治療、看護の特徴、結核の院内対策・予防 | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 5  | 循環器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)       | 狭心症・心筋梗塞：病態生理、検査、治療、看護の特徴  | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 6  | 循環器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(2)       | 慢性心不全：病態生理、検査（CTR含む）、治療、看護の特徴（心不全の分類と症状、NYHA心機能分類“日常生活動作時の自覚症状による分類”）          | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 7  | 代謝系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)        | 糖尿病：分類と病態の違い、慢性合併症・急性合併症、検査、治療（薬物療法、食事療法、運動療法）                                 | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 清水   |
| 8  | 代謝系の健康障害をもつ人とその家族の看護(2)        | 糖尿病患者教育：薬物療法、食事療法、運動療法、フットケア、足病変、シックデイ   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 清水   |
| 9  | 腎・泌尿器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)     | 慢性腎不全：病態生理、検査、治療、看護の特徴   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 10 | 腎・泌尿器系の健康障害をもつ人とその家族の看護(2)     | 透析：種類とその特徴、シャント管理、副作用、看護（自己管理指導含む）   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 11 | 脳神経系の健康障害をもつ人とその家族の看護(1)       | 脳梗塞：病態生理、検査、治療、看護の特徴   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 田口   |
| 12 | 脳神経系の健康障害をもつ人とその家族の看護(2)       | ALS：病態生理、検査、治療、看護の特徴   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 田口   |
| 13 | 消化器系の健康障害をもつ人とその家族の看護          | 肝硬変：病態生理、検査、治療、看護の特徴（代償期、非代償期）   | 講義   | 予習：疾患に関連する器官・系統の解剖整理、病態生理・症状・検査、治療などの関して復習して臨むこと(60分)<br>復習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)      | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 14 | がん看護(1)                        | 病態の特殊性、治療の特徴、がん治療を必要とする人の看護  | 講義   | 予習：テキスト及び資料を再度熟読し、授業内容と照らし理解し整理する。(30分)<br>復習：がんの病態の特殊性、治療の特徴、がん治療を必要とする人の看護について理解を深める。(60分)          | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |
| 15 | がん看護(1)                        | 終末期にある英人看護：終末期にある人とその家族の特徴、全人的苦痛、死の受容プロセス、看護の特徴、グリーフケア<br>まとめ<br>課題レポート        | 講義   | 予習：前回配布された資料を精読し、授業に臨む。(30分)<br>復習：レポート課題「終末期にある成人の死の受容プロセスの分析」に取り組む。レポート課題は、自分の言葉で考察を深めることを目指す。(60分) | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 平山   |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名                        | 著者・编者       | 出版社  |
|-----|---------------------------|-------------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学2呼吸器    | 川村雅文        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学3循環器    | 吉田俊子        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学4血液・造血管 | 飯野京子        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学5消化器    | 松田明子        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学6内分泌・代謝 | 吉岡成人        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学7脳・神経   | 井手隆文        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学8腎・泌尿器  | 川邊博史        | 医学書院 |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱがん看護学        | 小松浩子        | 医学書院 |
| 参考書 | 糖尿病療養指導の手引き               | 日本糖尿病学会（編集） | 南江堂  |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート               | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|--------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%                |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 2, 15回目でレポート課題を課す。 |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

レポート評価を定期試験期間後に開示

**【連絡先】**

| 氏名     | オフィスマワー        | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                   |
|--------|----------------|---------------------|----------------------------|
| 平山 恵美子 | 水曜日13:00～17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（319） | emikohirayama@nupals.ac.jp |
| 清水 詩子  | 授業終了後          | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス）  |                            |
| 田口 めぐみ | 授業終了後          | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス）  |                            |

**【その他】**

各授業はテキストと配布されるプリントで行う。

【成績評価基準】 レポートの評価の観点の詳細は授業中に開示する。

|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>老年看護学概論</b> | 授業担当教員 | 柄澤 清美    |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |
|--------------|---|-------|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎ I、○Ⅲ / A-7-2)、B-1,2,3、C-1,2,3、D-3-4)、D-4-5) | 保健師課程 |
|--------------|---|-------|

#### 【授業概要】

発達段階の老年期を生きる人の加齢や病気に伴う諸変化を理解し、身体的、精神心理的、社会的側面から高齢者の健康及び生活への影響について学修する。また、高齢社会における今日的課題や高齢者をとりまく保健・医療・福祉の社会的状況から、高齢者の倫理的課題と対応策について考察し、高齢者看護の役割・機能を学ぶ。そして、人生の最終段階を生きる高齢者の終末期医療について理解を深め、その人らしい最期を迎えられるようにするための看護について考察する。

#### 【実務経験】

看護師として病院勤務

#### 【到達目標】

1. 高齢者の定義、人口学的指標の動向、関連する統計資料から、高齢社会の現状と課題について説明できる。
2. 老年期の発達課題・健康課題について説明できる。
3. 高齢者の生活を知り、老年期を生きることの意味や価値を想像・探索することができる。
4. 保健・医療・福祉の場での高齢者に関する制度について理解し、高齢者看護の機能と役割について説明できる。
5. 高齢者の人権擁護について説明でき、高齢者観、高齢者看護観について考え、述べるができる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                                 | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                               | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|--------------------------------------|--|------|--|--------|------|
| 1 | 「老い」を考え「高齢社会」を知る<br>(1) 高齢者観と高齢社会の現状 | 高齢社会の概観<br>統計的輪郭、老年期の定義、生きてきた時代<br>高齢者の定義、加齢・Aging | 講義   | 予習：該当部分の教科書の精読<br>復習：老いについてまとめる            | 1      | 柄澤   |
| 2 | (2) 高齢者の生活実態                         | 要介護度、要介護の要因、死因、健康寿命<br>高齢者世帯、社会との交流、生きがい、経済状況      | 講義   | 予習：該当部分の教科書の精読<br>復習：高齢者と家族についてまとめる        | 1・3    | 柄澤   |
| 3 | 高齢者を理解する<br>(1) 高齢者の心理               | 発達課題、老いの自覚と適応<br>喪失感、孤独感、主観的幸福感                    | 講義   | 予習：該当部分の教科書を読む<br>復習：加齢変化とそのアセスメントについてまとめる | 2・3    | 柄澤   |
| 4 | (2) 高齢者の身体的特徴                        | 呼吸・循環機能、消化機能、代謝・排泄機能<br>認知・知覚機能、運動機能、フレイル          | 講義   | 予習：該当部分の教科書を読む<br>復習：加齢変化とそのアセスメントについてまとめる | 2      | 柄澤   |
| 5 | 高齢者と社会の関係を理解する<br>(1) 社会における高齢者      | 社会的役割の変化、エイジズム、高齢者虐待<br>アドボカシー、成年後見制度              | 講義   | 予習：該当部分教科書を読む<br>復習：保健医療福祉制度についてまとめる       | 3・5    | 柄澤   |
| 6 | (2) 高齢者を支えるソーシャルサポート                 | ソーシャルサポート、地域包括ケア<br>保健-医療-福祉制度、多職種連携               | 講義   | 予習：該当部分の教科書を読む<br>復習：高齢者の権利擁護についてまとめる      | 4      | 柄澤   |
| 7 | (3) 高齢者と家族                           | 家族における高齢者の役割、高齢者介護                                 | 講義   | 予習：該当部分の教科書を読む<br>復習：高齢者の健康についてまとめる        | 3・5    | 柄澤   |
| 8 | 授業のまとめ                               | 高齢者看護の役割と特徴（理念・目標・役割）<br>授業のまとめと到達度の確認             | 講義   | 予習：1～7の復習                                  | 1～5    | 柄澤   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                | 著者・編者     | 出版社  |
|-----|-------------------|-----------|------|
| 教科書 | 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 | 北川公子、鳥羽研二 | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験                   | レポート                            | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------------------------|---------------------------------|-------------------------|-----|
| 割合   |      |      |            |      | 70%                      | 30%                             |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      | 8回目の授業の中で、知識・理解について確認する。 | 授業毎に「振り返り」として、理解度の確認や意見・感想を求める。 |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

授業毎の「振り返り」については次の授業でフィードバックする。

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|-------|---------|--------------------|----------|
| 柄澤 清美 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |

|                 |        |                               |     |     |
|-----------------|--------|-------------------------------|-----|-----|
| <b>老年の疾病と治療</b> | 授業担当教員 | 青木 定夫・大平 徹郎・小山 諭・関井 愛紀子・藤澤 純一 |     |     |
|                 | 補助担当教員 |                               |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目                      |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 前期                        | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III / B-2、C-4、5                     |       |  |  |

#### 【授業概要】

高齢者の生理的特徴、疾患と治療の特徴を学ぶ。  
生理的特徴として認知・呼吸・循環、消化・吸収・排泄・運動・免疫機能の老化、疾患と治療の特徴として認知症、精神・神経疾患、呼吸・循環器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、自己免疫疾患、血液疾患、運動器疾患腎泌尿器疾患、皮膚・泌尿器疾患、歯・口腔疾患と薬物療法を学ぶ

#### 【実務経験】

病院において30年以上患者さんの診断治療に従事した経験がある(青木)。  
(小山) 1988年5月、医師免許取得。新潟大学消化器一般外科(旧、第一外科)に入局。新潟大学医歯学総合病院、秋田赤十字病院、秋田組合総合病院、新潟市民病院、佐渡総合病院、下都賀総合病院、水戸済生会病院などに勤務歴あり。2015年4月より新潟大学大学院保健学研究科に勤務。  
臨床看護師として15年、看護教員として26年の勤務経験を経て現在看護部長として精神科病院で看護管理に従事しています。専門は精神看護学です。(関井)

#### 【到達目標】

- 1.高齢者の加齢変化と特徴について説明できる。
- 2.高齢者の疾患特徴について説明できる。
- 3.高齢者に多い疾病について系統的に学び、その疾患の症状及び治療、看護について説明できる。
- 4.高齢者と薬物療法について特徴と課題について説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目      | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|-----------|--|------|---|--------|------|
| 1 | 高齢者の生理的特徴 | 老年看護学概論において学んだ加齢変化についての概観<br>高齢者の疾患の特徴<br>老年病症候群<br>高齢者の疾患の特徴と課題<br>手術療法<br>薬物療法 | 講義   | 予習：老年看護学概論の復習(100分)<br>復習：高齢者の疾患の特徴についてまとめる(120分)                           | 1.2    | 青木   |
| 2 | 高齢者に多い疾患1 | 循環器系疾患の特徴と治療、看護<br>心不全、不整脈、虚血性心疾患<br>腎泌尿器疾患                                      | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく(100分)<br>復習：高齢者の循環器系疾患の特徴についてまとめる(120分)  | 2.3    | 青木   |
| 3 | 高齢者に多い疾患2 | 呼吸器系疾患の特徴と治療、看護<br>COPD、肺炎腫、肺がん  | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく<br>復習：高齢者の呼吸器系疾患の特徴についてまとめる              | 2.3    | 大平   |
| 4 | 高齢者に多い疾患3 | 認知症、精神・神経疾患  | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく(100分)<br>復習：認知症、精神・神経疾患の特徴についてまとめる(120分) | 2.3    | 関井   |
| 5 | 高齢者に多い疾患4 | 消化器疾患、内分泌・代謝疾患   | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく<br>復習：高齢者の消化器系、内分泌系疾患の特徴についてまとめる         | 2.3    | 小山   |
| 6 | 高齢者に多い疾患5 | 運動器疾患  | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく<br>復習：高齢者の運動器系疾患の特徴についてまとめる              | 2.3    | 藤澤   |
| 7 | 高齢者に多い疾患6 | 自己免疫疾患、血液疾患、皮膚、歯・口腔疾患  | 講義   | 予習：病気の成り立ちと回復の促進の授業の当該部分について復習しておく(100分)<br>復習：高齢者の疾患の特徴についてまとめる(120分)      | 2.3    | 青木   |
| 8 | 授業のまとめ    | 1～7回の授業の到達度確認  | 講義   | 予習：老年看護学概論の復習(100分)<br>復習：高齢者の疾患の特徴についてまとめる(120分)                           | 4      | 青木   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名          | 著者・編者 | 出版社  |
|-----|-------------|-------|------|
| 教科書 | 老年看護 病態・疾患論 | 鳥羽研二  | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス           |
|--------|---------|--------------------|--------------------|
| 青木 定夫  | 授業終了後   | 講義室                | saoki@nupals.ac.jp |
| 大平 徹郎  | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |                    |
| 小山 諭   | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |                    |
| 関井 愛紀子 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |                    |
| 藤澤 純一  | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |                    |



|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>小児看護学概論</b> | 授業担当教員 | 中垣 紀子    |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III、○V / A-2,3,5,6                  |       |  |  |

**【授業概要】**

小児看護学の基本的概念枠組みである発達・健康・生活の理解に基づき、乳幼児期、学童期、思春期・青年期の、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、成長・発達の特徴と課題を学ぶ。近年の子どもを取り巻く環境との相互作用を理解し、成長・自律・セルフケアに向けた小児看護の役割を理解する。また、次世代を担う子どもが健やかに心と身体を育むことができるよう、小児保健の動向及びヘルスプロモーション、子どもの健康に関わる制度、地域の資源等を学び、看護の視点から支援するための基礎となる考え方を学修する。

**【実務経験】**

小児専門病院で27年間、小児看護に携わっていた。この実務経験をもとに、本科目の講義を行う。

**【到達目標】**

- 1.小児看護の理念、目標および看護の役割について理解できる。
- 2.小児の成長・発達に関わる基本的考え方や健康との関わりについて説明できる。
- 3.小児期の形態的・機能的な発達と評価方法が理解できる。
- 4.日常生活習慣と健康との関連性および基本的な援助方法について理解できる。
- 5.小児期の健康問題と健康にかかわる制度、社会資源について理解できる。
- 6.入院生活をしている子どもへのケアの基本となる援助が理解できる。

**【授業計画】**

| 回 | 授業項目                       | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|----------------------------|--|------|--|--------|------|
| 1 | 小児看護の理念と特徴                 | 授業ガイダンス、小児看護の理念と目標、小児看護の対象と変遷、小児保健統計                                 | 講義   | 予習：小児保健統計の部分を読む。<br>復習：今日の授業で学んだ内容を整理しまとめる。                      | 1      | 中垣   |
| 2 | 子どもの成長・発達の特徴：新生児期、乳児期      | 小児の成長発達の原則、形態・機能的発達と評価、心理社会的発達と看護に必要な発達理論<br>乳児期・幼児期の成長発達の特徴と援助、健康問題 | 講義   | 予習：教科書の成長発達について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。                       | 2.3    | 中垣   |
| 3 | 子どもの成長・発達の特徴：幼児期、学童期、思春期   | 幼児期、学童期、思春期の成長発達の特徴と援助、健康問題  | 講義   | 予習：教科書の成長発達について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。                       | 2.3    | 中垣   |
| 4 | 子どもを取り巻く現代社会               | 子どもを取り巻く現代社会と家族、子どもの権利と尊厳、倫理と関連法規について                                | 講義   | 予習：教科書の「子どもと家族を取り巻く社会」と「小児における倫理」について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。 | 5.6    | 中垣   |
| 5 | 子どもの基本的な生活習慣の確立と学校保健       | 子どもの日常生活習慣の確立と成長・自律・セルフケアに向けた援助について<br>学校保健について                      | 講義   | 予習：教科書の学校保健について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。                       | 4.5    | 中垣   |
| 6 | 病気、障がいを持つ子どもの看護            | 子どもの日常生活習慣の確立と成長・自律・セルフケアに向けた援助について<br>学校保健について                      | 講義   | 予習：教科書の病気・障害を持つ子どもの看護について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。             | 5.6    | 中垣   |
| 7 | 子どもの検査・治療・処置の特徴と看護         | 健康障害をもつ子どもと家族へのかかわりの基本、<br>子どもの検査・治療・処置の特徴と子どもの権利を尊重した看護について         | 講義   | 予習：教科書の検査・処置を受ける子どもの看護について読む。<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。            | 5.6    | 中垣   |
| 8 | 小児看護学 病気を持つ子どもの看護について知識の確認 | 1～7回の学修を復習し、小児看護学についての知識について確認する                                     | 講義   | 予習：これまで学んできた内容を確認する<br>復習：授業で学んだ内容を整理しまとめる。                      | 1~6    | 中垣   |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名               | 著者・編者 | 出版社  |
|-----|------------------|-------|------|
| 教科書 | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 | 奈良間美保 | 医学書院 |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

**【連絡先】**

| 氏名    | オフィスアワー    | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                |
|-------|------------|---------------------|-------------------------|
| 中垣 紀子 | 水曜日13時～17時 | 西新潟中央病院キャンパス3階（321） | n-nakagaki@nupals.ac.jp |

|                 |        |          |     |     |
|-----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>小児の疾病と治療</b> | 授業担当教員 | 遠山 潤・ほか  |     |     |
|                 | 補助担当教員 |          |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III/A-3、B-2、C-4、5                   |       |  |  |

#### 【授業概要】

小児の特徴、疾患と検査・治療の特徴を学ぶ。  
小児の発達と障害、先天異常による疾患、新生児疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、感染症、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、血液疾患を学び、疾病や検査・治療による心の影響や生活の変化について学ぶ。

#### 【実務経験】

新潟大学医学部卒業。県内外で臨床を行い、新潟大学歯学部総合病院助手、鳥取大学附属病院助手、ノースカロライナ大学研究員の経験をへて2000年4月国立療養所西新潟中央病院、2004年4月より国立病院機構西新潟中央病院小児科医長に就任。2013年10月臨床研究部長、2015年4月統括診療部長、2019年4月副院長に就任し現在に至る。2009年より新潟大学特任准教授、2015年より新潟大学特任教授併任。2017年4月より新潟医療技術専門学校看護学科にて、病態学の外部講師として現在に至る。

#### 【到達目標】

1. 先天異常、新生児の疾患を理解できる。
2. 小児の代謝性疾患、内分泌疾患、免疫疾患、アレルギー疾患、感染症を理解できる。
3. 小児の呼吸・循環器疾患を理解できる。
4. 小児の消化器疾患、血液造血器疾患、悪性疾患が理解できる。
5. 小児の腎・泌尿器疾患、神経疾患、運動器疾患が理解できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目       | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|------------|--|------|---|--------|------|
| 1 | 小児期の健康障害-1 | 染色体異常、先天異常：ダウン症候群、トリソミー<br>新生児の疾患：分娩損傷、低体重児疾患、成熟異常、高ビリルビン血症  | 講義   | 予習：染色体、遺伝子について病理学の教科書を用いて事前確認すること。（120分）<br>復習：代表的な染色体異常、新生児疾患について再度確認すること。（120分） | 1      | 遠山   |
| 2 | 小児期の健康障害-2 | 代謝性疾患：糖尿病、ムコ多糖症、アセトン血性嘔吐症<br>内分泌疾患：下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患   | 講義   | 予習：内分泌の代謝経路について教科書を用いて事前確認すること。（120分）<br>復習：小児の代表的な代謝性疾患、内分泌疾患について再度確認すること。（120分） | 2      | 遠山   |
| 3 | 小児期の健康障害-3 | 免疫疾患：原発性免疫不全症、リウマチ疾患<br>アレルギー疾患：食物アレルギー、気管支喘息  | 講義   | 予習：免疫、アレルギーについて病理学の教科書を用いて再確認する。（120分）<br>復習：小児の代表的な、免疫、アレルギー性疾患について再確認する。（120分）  | 2      | 遠山   |
| 4 | 小児期の健康障害-4 | 【感染症】<br>こどもの感染症の特徴と病期<br>主な感染症：ウイルス感染症（麻疹・風疹・水痘・ムンプス・ポリオ）、細菌感染症（髄膜炎・百日咳・結核）、真菌感染症（カンジダ症・アスペルギルス症・クリプトコッカス症）             | 講義   | 予習：細菌、ウイルスについて教科書を用いて事前確認する。（120分）<br>復習：小児の代表的な感染症と、感染予防期間について再確認する。（120分）       | 2      | 遠山   |
| 5 | 小児期の健康障害-5 | 【感染症】<br>こどもの感染症の特徴と病期<br>主な感染症：ウイルス感染症（麻疹・風疹・水痘・ムンプス・ポリオ）、細菌感染症（髄膜炎・百日咳・結核）、真菌感染症（カンジダ症・アスペルギルス症・クリプトコッカス症）             | 講義   | 予習：人の循環動態について事前確認する。（120分）<br>復習：小児の代表的な呼吸器疾患、先天性心疾患について確認する。（120分）               | 3      | 遠山   |
| 6 | 小児期の健康障害-6 | 【消化器疾患】<br>口腔疾患（唇裂・口蓋裂）、食道疾患（食道狭窄・閉鎖症）、胃十二指腸疾患（先天性腸狭窄・閉鎖症、ヒルチスプリング病、クローン病）、腹膜・腹壁疾患（ヘルニア、腹膜炎、陰嚢水腫）、肝・胆道疾患（胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症） | 講義   | 予習：消化器系の解剖について教科書で事前確認する。（120分）<br>復習：それぞれの消化器疾患について講義の内容を再確認し理解を深める。（120分）       | 4      | 遠山   |
| 7 | 小児期の健康障害-7 | 血液・造血器疾患：貧血、先天性・後天性凝固障害、血友病、白血病<br>悪性腫瘍：脳腫瘍、網膜芽細胞腫、神経芽腫、腎・泌尿器・生殖器疾患：先天性腎尿路異常、慢性腎臓病、急性腎障害、ネフローゼ症候群、停留精巣、尿道下裂              | 講義   | 予習：人の造血系の分化について教科書で事前確認する。（120分）<br>復習：それぞれの疾患について講義の内容を再確認し理解を深める。（120分）         | 5      | 遠山   |
| 8 | 小児期の健康障害-8 | 神経疾患：てんかん、もやもや病、脳梗塞、脳性麻痺、レックリングハウゼン病、ギランバレー症候群、筋ジストロフィー、先天性非進行性ミオパチー<br>運動疾患：股関節形成不全症、先天性斜頸、先天性内反足、脊柱側弯症                 | 講義   | 予習：遺伝の基礎とメンデル遺伝形式について教科書で事前確認する。（120分）<br>復習：それぞれの疾患について講義の内容を再確認し理解を深める。（120分）   | 5      | 遠山   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                | 著者・編者  | 出版社  |
|-----|-------------------|--------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座「小児臨床看護各論」 | 奈良間美穂他 | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名   | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|------|---------|--------------------|----------|
| 遠山 潤 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |



|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>母性看護学概論</b> | 授業担当教員 | 定方 美恵子   |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎ I、○III/C-2、3、D-1、3、5、E-1、2         |       |  |  |

#### 【授業概要】

母性看護学は、リプロダクティブヘルス/ライツの理念を基盤に据え、看護の対象と看護の役割を理解し、看護実践に必要な基礎的な能力を教授する科目である。対象を身体・心理・社会的存在として捉え、生殖の生理、生殖の過程を学ぶとともに、母性の概念や女性のライフサイクル/ライフコース、母性の心理、母子保健の水準と法や施策、母子を取り巻く社会的な課題を幅広く学習する。思春期、成熟期、更年期にある女性の健康課題や問題に対するウイメンズヘルスの視点からのアプローチを理解する。

#### 【実務経験】

病院で6年間の実務経験、看護教員として37年間保健医療機関で実習指導を行った経験を持つ。この経験を生かして、本科目「母性看護学概論」の講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1) 母性看護の基盤となる概念を説明できる。
- 2) 母性看護実践を支える概念を説明できる。
- 3) リプロダクティブヘルス/ライツとは何か説明できる。
- 4) 生物学的性、社会的性や性の多様性について説明できる。
- 5) リプロダクティブヘルスの動向について、母子保健の指標、法律、施策をもとに説明できる。
- 6) 生殖に関する生理について、解剖生理、性周期をもとに説明できる。
- 7) 女性のライフステージ各期の健康と看護について説明できる。
- 8) 妊孕性に関わる不妊に関する健康問題の特徴と支援について説明できる。
- 9) 加齢による女性のホルモン変化による健康問題と看護を説明できる。
- 10) リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題について説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目   | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|--|--|------|--|--------|------|
| 1 | 母性看護学を支える基本概念                                  | 母性看護学の基盤となる概念ならびにその実践を支える概念は母性看護学とは何を指し、どのような対象の健康にかかわるかを理解する上で重要である。母性はどのように発達するか、家族の発達とは何かを学習するとともに、女性中心の看護、家族中心の看護が目指すものを説明する。  | 講義   | 予習：本科目で使用使用するテキストに目を通し、ルビンの理論をもとに母親のアイデンティティを調べる。(30分)<br>復習：講義プリントとテキストを用い、母性看護学の基盤となる概念の理解を深める。(60分)           | 1) 2)  | 定方   |
| 2 | リプロダクティブヘルス/ライツと母性看護学                          | リプロダクティブヘルスとライツの定義とその歴史を理解することで、セクシャルヘルス、セクシャルライツの考え方や母性看護学としての立ち位置を理解するとともに、倫理的課題について説明する。セクシャリティとジェンダー、性の発達について理解することを通して、性の多様性について学ぶ。性同一性障害とその実態や生きるうえで障壁と医療や支援について講義する。            | 講義   | 予習：リプロダクティブヘルスとライツの定義を調べる、リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題について一つ選び調べる。(30分)<br>復習：LGBTQ、SOGI、などの性の多様性に関わる社会的な実情を調べ考察する。(60分) | 3)     | 定方   |
| 3 | 統計からみたリプロダクティブヘルスの動向                           | 統計から出生に関する動向、周産期の死亡に関する動向を理解し、日本の医療の水準や課題を諸外国とも比較し講義する。また、リプロダクティブヘルスに関しては家族の形成にかかわる統計も現在の社会的課題との双方から概観して説明する。   | 講義   | 予習：出生率と合計特殊出生率の推移を事前に調べる。(30分)<br>復習：日本の医療水準と課題について、妊産婦死亡、周産期死亡のデータから考察する。(60分)                                  | 4)     | 定方   |
| 4 | リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援                         | 母子保健を支える様々な法律や施策を策定の歴史を踏まえながら講義する。子供と母性の保護、就労する母性の保護、子育て支援などの現状を解説するとともに、周産期医療システムの仕組みを講義する。リプロダクティブヘルス/ライツを守るうえで、就労する女性の保護、暴力予防の法律や課題について講義する。  | 講義   | 予習：妊娠の届け出、母子健康手帳、記載項目について調べる。(30分)<br>復習：母子保健に対応する施策と、リプロダクティブヘルス/ライツに対応する施策を一覧にして整理する。(90分)                     | 5)     | 定方   |
| 5 | 生殖の生理<br>ライフステージの健康課題<br>(1) 生殖に関係する女性の健康問題と看護 | 生殖器の解剖と機能について説明し、第二性徴と女性の性周期についてその特徴を理解し母性保護の重要性を考えるとともに、妊娠に結び付く生殖のメカニズムとなる一連の過程を講義する。女性のライフステージ各期とウイメンズヘルスからのアプローチについて説明する。次いで、生殖に関係する女性側からの健康問題として、月経異常、性感染症、等の女性特有の健康問題と看護の要点を講義する。 | 講義   | 予習：性周期（ホルモン、卵巣の変化、子宮内膜の変化）について調べる。(30分)<br>復習：妊娠に至るメカニズムについて、その過程を正確にまとめる。(60分)                                  | 6)     | 定方   |
| 6 | ライフステージの健康課題<br>(2) 女性特有の生殖器の腫瘍と不妊症            | 女性のライフステージ各期に共通して生じる女性生殖器の腫瘍・不妊症を取りあげ、女性の健康や生活や心理に与える影響を示し、どのような保健や看護のアプローチが必要かを講義する。  | 講義   | 予習：女性生殖器の腫瘍の種類について、不妊症の原因と治療(30分)<br>復習：不妊カップルの心理・社会的反応と支援についてまとめる。(60分)   | 7) 8)  | 定方   |
| 7 | ライフステージの健康課題<br>(3) 加齢とホルモンの変化と健康問題            | 女性のライフステージの中で更年期、老年期にはホルモンの変化や加齢の影響を受け、特有の健康障害を生じやすい。この時期の女性に生じやすい頻度の高い疾患である更年期障害、脂質異常等を取りあげ、女性の健康や生活や心理に与える影響を示し、どのような保健や看護のアプローチが必要かを講義する。   | 講義   | 予習：更年期障害についてテキストで調べる。(30分)<br>復習：ホルモン補充療法について使用する薬剤、使用方法、注意すべき事項、管理方法について調べてまとめる。(60分)                           | 9)     | 定方   |
| 8 | 母性看護学領域の倫理的課題<br>まとめ                           | 母性看護学領域にはリプロダクティブヘルス/ライツ、セクシャルヘルス/ライツに関わる倫理的課題が多岐にわたる、生じている。実践的な取り組み方を理解する。  | 講義   | 予習：倫理的課題への発表ができるように資料を準備して、最終回に臨む。(90分)  | 10)    | 定方   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                                    | 著者・編者             | 出版社    |
|-----|---------------------------------------|-------------------|--------|
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ「母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護」 | 中込さと子、小林康江、荒木奈緒編集 | メディカ出版 |
| その他 | 講義プリントを配布                             |                   |        |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート                  | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|-----------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%                   |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 前期講義後・後期講義後にレポート課題を課す |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー                   | 研究室（部屋番号）            | Eメールアドレス              |
|--------|---------------------------|----------------------|-----------------------|
| 定方 美恵子 | 火 12時30分～13時、木 12時30分～17時 | 西新潟中央病院キャンパス1階（学部長室） | sadakata@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

各授業は配布されるプリント主体で行う。

【成績評価基準】 レポート評価の観点の詳細は授業中に開示する。レポート評価（100点満点）のうち60点以上を合格とする。

|                 |        |              |     |     |
|-----------------|--------|--------------|-----|-----|
| <b>女性の疾病と治療</b> | 授業担当教員 | 定方 美恵子・石田 道雄 |     |     |
|                 | 補助担当教員 |              |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目     |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 前期       | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎III/C-4、C-5、D-3、 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|

#### 【授業概要】

女性のライフステージにおける産婦人科疾患の病態について生理学的・病理学的に学び、診断・治療の最新の知識を学ぶ。妊娠・分娩・産褥・新生児の基礎を踏まえ、産科疾患の病態・診断・治療を統合的に教授する。

#### 【実務経験】

（石田）新潟大学医学部附属病院、佐渡総合病院、上越総合病院などで産婦人科医師として臨床実務経験を有する、その間新潟県立看護短期大学、佐渡看護専門学校で看護学の教育経験あり。2021年4月～新潟青陵大学教授就任。この経験を生かして、本科目「女性の疾病と治療」の講義を行う。

（定方）病院で6年間の実務経験、看護教員として38年間保健医療機関で実習指導を行った経験を持つ。この経験を生かして、本科目「女性の疾病と治療」の講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1.女性生殖器の構造と機能を説明できる。
- 2.婦人科・乳腺科で行われる診察・検査・処置とその看護のポイントを説明できる
- 3.周産期の正常経過の概要が分かる
- 4.月経異常、性感染症、性分化疾患、不妊症、不育症、の病態、検査、治療を説明できる。
- 5.女性生殖器疾患の病態、検査、治療を説明できる。
- 6.性分化疾患、子宮形態異常とその看護が理解できる。
- 7.加齢によるホルモン変化と健康障害を説明できる。
- 8.周産期において起こる異常と疾患を説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目  | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---|---|------|--|--------|------|
| 1 | 女性生殖器の構造と機能<br>婦人科・乳腺科で行われる診察・検査・治療・処置とその看護 | 女性生殖器の解剖生理、生殖生理と婦人科・乳腺科で行われる主な診察・検査・治療・処置と看護を学ぶ                             | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、女性生殖器の解剖生理、生殖生理を理解して臨む。(30分)<br>復習：講義プリントとテキストを用い、主な診察・検査・治療・処置と看護の理解を深める。(60分)                | 1.2    | 定方   |
| 2 | 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常な経過                         | 妊婦の身体の正常な経過、胎児の器官形成と発育、新生児の発達と検査・ケアの時期、産褥期の体の正常な経過を学ぶ                       | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、妊娠・分娩・産褥・新生児の正常な経過を理解して臨む。(30分)<br>復習：講義プリントとテキストを用い、正常な経過の理解を深める。(60分)                        | 1.3    | 定方   |
| 3 | 月経に関連する疾患<br>性器の炎症・性感染症                     | 月経異常など月経に関連する疾患、及び性器の炎症・性感染症の症状・検査・治療について学ぶ                                 | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、女性生殖器の構造と機能、月経のメカニズムを調べて臨む。(30分)<br>復習：月経に関連する疾患、性感染症の理解を深める。(60分)                             | 4      | 石田   |
| 4 | 子宮の疾患<br>卵巣の疾患<br>乳房の疾患                     | 子宮内膜症、子宮筋腫、子宮悪性腫瘍の病態・症状・検査・治療、卵巣腫瘍の病態・症状・検査・治療、乳房の疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ      | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、女性生殖器の疾患について調べて臨む。(30分)<br>復習：女性生殖器疾患の種類・原因を整理し、病態・症状・検査・治療の理解を深める。(60分)                       | 5      | 石田   |
| 5 | 性分化疾患・性器形態異常<br>不妊症・不育症                     | 性分化のメカニズムを理解し、疾患・性器形態異常の病態・症状・検査・治療を学ぶ<br>不妊症・不育症の病態・症状・検査・治療及び生殖補助医療について学ぶ | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、性分化のメカニズムを調べて臨む。(30分)<br>復習：性分化の疾患・性器形態異常の病態・症状・検査・治療及び不妊症・不育症の病態・症状・検査・治療・生殖補助医療の理解を深める。(60分) | 6      | 石田   |
| 6 | セクシュアリティに関連する健康問題                           | セクシュアリティに関連する健康問題（加齢と共に変化するホルモン変化）及び更年期・老年期疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ             | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、加齢によるホルモン変化と健康障害を調べて臨む。(30分)<br>復習：更年期・老年期疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深める。(60分)                          | 7      | 石田   |
| 7 | 妊娠・分娩・産褥期の異常と疾患                             | 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常と予防、疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ                                  | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常を調べて臨む。(30分)<br>復習：妊娠・分娩・産褥期の異常と予防、疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深める。(60分)               | 8      | 石田   |
| 8 | 新生児期の異常と疾患                                  | 新生児期に起こりやすい異常と予防、疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ                                       | 講義   | 予習：使用テキストで授業内容の予習をし、新生児期に起こりやすい異常調べて臨む。(30分)<br>復習：新生児期の異常と予防、疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深める。(60分)                          | 8      | 石田   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                            | 著者・編者                   | 出版社         |
|-----|-------------------------------|-------------------------|-------------|
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ母性看護学②<br>母性看護の実践  | 編者:小林康江 中込さと子<br>荒木奈緒 他 | 株式会社 メディカ出版 |
| 教科書 | ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑨<br>女性生殖器 | 編者:苛原 稔 渡邊浩子 他          | 株式会社 メディカ出版 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー      | 研究室（部屋番号）            | Eメールアドレス              |
|--------|--------------|----------------------|-----------------------|
| 定方 美恵子 | 火 12時30分～14時 | 西新潟中央病院キャンパス1階（学部長室） | sadakata@nupals.ac.jp |
| 石田 道雄  | 授業終了後        | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス）   |                       |

|                |        |          |     |     |
|----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>精神看護学概論</b> | 授業担当教員 | 日下 修一    |     |     |
|                | 補助担当教員 |          |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |
|--------------|---|-------|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎ I、○II、V/A-1、A-4-1、A-5、A-7、B-1、B-2、B-3、C-1、C-2、D-1 | 保健師課程 |
|--------------|---|-------|

**【授業概要】**

精神的に問題を抱える対象の理解は、時代とともに変化してきた。精神的問題を抱える対象には健康者も含まれる。精神看護学概論では次の3つの視点で教授する。①精神障害者に対する社会の見方の変遷と精神医療史、精神看護史②精神看護の理論（ペプロウの精神力動看護・オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）と精神看護③精神障害に関する法規

**【実務経験】**

精神科病院で8年の実務経験を持ち、看護部長としての実務経験もある。

**【到達目標】**

- 1) 心の健康と障害を理解し、精神看護の基礎について理解できる。
- 2) 精神障害者に対する社会の見方の変遷と精神医療史、精神看護史を学習し、精神障害者への偏見の問題について考える事ができる。
- 3) 精神看護の理論（ペプロウの精神力動看護・オレム・アンダーウッドのセルフケア理論）を学び、精神障害者のアセスメントの基本事項を理解できる。
- 4) 精神障害に関する法規について理解できる。
- 5) 精神障害者の人権擁護について理解できる。

**【授業計画】**

| 回 | 授業項目                       | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                        | 到達目標<br>番号 | 担当教員 |
|---|----------------------------|--|------|-------------------------------------|------------|------|
| 1 | 精神看護と心の健康                  | 精神看護とは何か、精神科看護と精神看護の違いについて概観する。精神看護の基礎として、人間の心の働きと脳、精神の健康について講義する。   | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)         | 日下   |
| 2 | 心の健康と障害                    | 人間の心の働き、神経生理学との関連、精神の健康と精神の障害の概略について講義する。                            | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)         | 日下   |
| 3 | 精神看護の歴史                    | 古代から近世までの精神医学、精神看護の歴史を講義する。  | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 2)4)5)     | 日下   |
| 4 | 精神力動看護（患者－看護師関係、コミュニケーション） | ペプロウの精神力動看護の考え方の基本を講義する。看護師と患者関係の4段階と看護師の役割、防衛機制などについて講義する。          | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 3)      | 日下   |
| 5 | 振り返り・リエゾン看護                | リエゾン看護、自己の振り返りについて講義する。プロセスレコードを用いて、演習を行う。                           | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)         | 日下   |
| 6 | オレム・アンダーウッドのセルフケア理論と入院環境   | オレム・アンダーウッドのセルフケア理論の基本及びアセスメントの基本、入院環境について講義する。                      | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 3)      | 日下   |
| 7 | 精神障害に関する法律                 | 精神保健福祉法、障害者支援法など、精神障害を抱える人への法律、文化・社会との関連について講義する。                    | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 4)5)       | 日下   |
| 8 | 精神科病棟の患者管理と人権              | 精神科病棟における患者管理と行動制限・安全について、患者の人権、精神障害者の人権擁護の観点から講義する。グループで人権について討議する。 | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 4)5)       | 日下   |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名  | 著者・編者 | 出版社       |
|-----|---|-------|-----------|
| 教科書 | 新体系看護学全書 精神看護学概論/精神保健（第5版）及び<br>新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護（第5版） | 岩崎弥生  | メヂカルフレンド社 |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

**【連絡先】**

| 氏名    | オフィスアワー             | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス              |
|-------|---------------------|---------------------|-----------------------|
| 日下 修一 | 火曜日・金曜日 10:30～13:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（316） | s-kusaka@nupals.ac.jp |

**【その他】**

各授業は教科書及び配布プリントで行う。

【成績評価基準】試験100点満点のうち60点以上を合格とする。

|                 |        |          |     |     |
|-----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>精神の疾病と治療</b> | 授業担当教員 | 日下 修一    |     |     |
|                 | 補助担当教員 |          |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 前期   | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎IV/C-4、C-5 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|

**【授業概要】**

精神疾患の病因、主な症状・状態、主な検査・心理検査と診断・分類、治療を学ぶ。

主な精神疾患として、発達障害、統合失調症、気分障害、神経症、アディクション、てんかん、パーソナリティ障害など精神疾患や精神症状についての基本的知識を学び、看護師として必要な精神障害者の理解につなげる。

**【実務経験】**

（日下）精神科病院で8年の実務経験を持つ。

**【到達目標】**

- ①精神医学の構造、精神疾患の病因を理解する。
- ②精神科治療の内容（非薬物療法・薬物療法）を概説できるようになる。
- ③主要な精神疾患における精神症状、対処法、治療法を理解ができる。

**【授業計画】**

| 回 | 授業項目                | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                          | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|---------------------|---|------|---------------------------------------|--------|------|
| 1 | オリエンテーション<br>精神医学入門 | 精神障害に関する診断基準、正常と異常の判断、検査法、治療法等について概観する。   | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ①      | 日下   |
| 2 | 統合失調症               | 統合失調症の症状、診断、治療について学ぶ。   | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 3 | 気分障害                | 単極性障害、双極性障害、適応障害など気分障害関連疾患についての症状、診断、治療について学ぶ。                                    | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 4 | 知的障害・発達障害・認知症       | 知的障害・発達障害・認知症など知能と関連する疾患について、症状、診断、治療について学ぶ。                                      | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 5 | 神経症性障害・ストレス関連障害・心身症 | 神経症性障害・ストレス関連障害・心身症の症状、診断、治療について学ぶ。   | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 6 | パーソナリティ障害・てんかん      | パーソナリティ障害・てんかんの症状、診断、治療について学ぶ。  | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 7 | 物質依存症               | 物質依存症（アルコール依存症・薬物依存症）の症状、診断、治療について学ぶ。   | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |
| 8 | 対人関係依存・行為依存         | 性依存症、恋愛依存症、ギャンブル依存症、買い物依存症、DV、摂食障害、クレプトマニアなどの症状、診断、治療について学ぶ。また、自殺と自傷行為の問題についても学ぶ。 | 講義   | 予習：テキストを読み授業に備える。<br>復習：学習した内容の復習を行う。 | ②③     | 日下   |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名              | 著者・編者     | 出版社  |
|-----|-----------------|-----------|------|
| 教科書 | 精神医学 マイテキスト 第4版 | 武田雅俊監修    | 金芳堂  |
| 参考書 | 看護のための精神医学 第2版  | 中井久夫、山口直彦 | 医学書院 |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

**【連絡先】**

| 氏名    | オフィスアワー             | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス              |
|-------|---------------------|---------------------|-----------------------|
| 日下 修一 | 火曜日・金曜日 10：30～13：00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（316） | s-kusaka@nupals.ac.jp |

**【その他】**

各授業は教科書及び配布プリントで行う。

【成績評価基準】試験100点満点のうち60点以上を合格とする。

|            |        |          |     |     |
|------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>栄養学</b> | 授業担当教員 | 原 義隆     |     |     |
|            | 補助担当教員 |          |     |     |
|            | 区分     | 専門基礎必修科目 |     |     |
|            | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III/A-3、B-2、C-4                     |       |  |  |

#### 【授業概要】

人間の健康における栄養の摂取の意義と機能を内部環境や代謝の機能を基盤として学習し、さらに、人間のライフステージの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定方法や、健康障害と食事療法の実践を学び、栄養管理に必要な知識を学ぶ。

#### 【実務経験】

1995.4～国立療養所西群馬病院付属看護学校にて栄養学講師、2008.4～国立病院機構千葉医療センター付属看護学校にて栄養学・臨床栄養学講師、2011.4～国立療養所多摩全生園准看護師養成学校にて、栄養学、臨床栄養学講師、2014.4～国立病院機構新潟病院付属看護学校にて栄養学・臨床栄養学講師、2020.4～新潟医療技術専門学校看護学科にて、栄養学・臨床栄養学外部講師、現在に至る。

#### 【到達目標】

1. 人間にとっての栄養の概念、栄養素と健康の関わりを理解する。
2. 健康を維持増進のための食生活を理解する。
3. 健康障害時における栄養・食事管理を理解する。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目        | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                          | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|-------------|---|------|---------------------------------------|--------|------|
| 1 | 栄養学の概念と健康   | 栄養の概念：定義、栄養・食事の関係<br>健康と栄養：栄養状態の評価・判定、栄養ケア・マネジメント     | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 1      | 原    |
| 2 | 健康増進と栄養     | ライフステージと栄養<br>健康づくりと食生活                               | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 2      | 原    |
| 3 | 栄養障害と食事療法－1 | 病院食<br>栄養補給法：経腸栄養法、経静脈栄養法                             | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |
| 4 | 栄養障害と食事療法－2 | 症状別食事療法<br>やせ・低栄養、肥満、メタボリックシンドローム<br>下痢・便秘<br>摂食・嚥下障害 | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |
| 5 | 栄養障害と食事療法－3 | 呼吸・循環器疾患患者の食事療法<br>腎臓疾患患者の食事療法                        | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |
| 6 | 栄養障害と食事療法－4 | 消化器疾患患者の食事療法<br>栄養・代謝疾患患者の食事療法                        | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |
| 7 | 栄養障害と食事療法－5 | 食物アレルギー患者の食事療法<br>血液疾患患者の食事療法                         | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |
| 8 | 栄養障害と食事療法－6 | 骨粗鬆症、がん患者の栄養管理<br>低体重児・高齢者の食事・栄養管理                    | 講義   | 復習：教科書を用いて、講義内容を再度確認し、理解を深めること。(120分) | 3      | 原    |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名           | 著者・編者 | 出版社  |
|-----|--------------|-------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座「栄養学」 |       | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名   | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|------|---------|--------------------|----------|
| 原 義隆 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |



|             |        |          |     |     |
|-------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>人間工学</b> | 授業担当教員 | 飯島 淳彦    |     |     |
|             | 補助担当教員 |          |     |     |
|             | 区分     | 専門基礎必修科目 |     |     |
|             | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III、○IV/A-3、B-2、3、C-2               |       |  |  |

**【授業概要】**

人間工学は、人間が安全・快適で豊かな生活を実現できるように、人とそれに関わるものとのよりよい関係を求めるための学際的な学問である。本講義では、人間の解剖生理学的特徴をまとめながら、人間工学の基本的な手法、ボディメカニクス、生活・仕事への応用について学ぶ。さらに人間工学を看護技術へ応用する方法についても述べる。

**【到達目標】**

1) 人間工学の理解に必要な人体の構造と機能が説明できる。2) 人間工学の定義を理解し説明できる。3) 人間の諸特性と姿勢・動作について説明できる。4) 人間機械系について説明できる。5) 生活の中の人間工学を意識し、その特徴を説明できる。6) 看護における人間工学の意義を理解し、その有用性を説明できる。7) 人間工学の理解に必要な物理や数学の知識が活用できる。

**【授業計画】**

| 回 | 授業項目          | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号        | 担当教員 |
|---|---------------|--|------|--|---------------|------|
| 1 | 人間工学とは        | 人間工学の歴史的背景，定義を概説する   | 講義   | 予習：人類の工学に関する歴史を調査し，大まかな流れを整理しておく（60分）<br>復習：授業で取り扱った周辺領域の人間工学の歴史を調査する（30分） | 1, 2          | 飯島   |
| 2 | 生活の中の人間工学     | 身近な生活の中に見られる人間工学的工夫を発見し，それらの特徴についてまとめる．  | 講義   | 予習：身の回りの人間工学的要素の詰まった道具を探し，その特徴をまとめる（30分）<br>復習：注目した道具を工学的側面から考察する（60分）     | 2, 5          | 飯島   |
| 3 | 人間の姿勢と動作      | 人間の姿勢や動作を，人体の構造と機能の観点から述べる．  | 講義   | 予習：骨格筋や骨の場所と名称を調べておく（30分）<br>復習：姿勢維持や主たる運動に重要な筋骨格系をまとめる（30分）               | 1, 3, 7       | 飯島   |
| 4 | 人間と機械との関係     | 人間機械系について概説し，その具体例を考えながら特徴を理解する．   | 講義   | 予習：日頃使っている家電について，その理由と特徴をまとめる（30分）<br>復習：人間機械系の特徴について，具体的例を挙げて説明する（60分）    | 1, 4, 7       | 飯島   |
| 5 | 道具と人間工学       | 様々な道具と人間の関係性を考えながら，人間の生活に役立つ工学の方向性を理解する．                                       | 講義   | 予習：使っていて道具さを感じる道具について，その概要を調べる（30分）<br>復習：役に立つ道具の必要要件をまとめる（30分）            | 2, 3, 4, 5    | 飯島   |
| 6 | ボディメカニクス      | 人体の構造と機能を復習しながら，人体の力学的特性の基礎を学び，生理学と解剖学の知識を活用して体の動かし方や姿勢について理解する．               | 講義   | 予習：人体の構造と機能の筋骨格系についてまとめてくる（30分）  | 1, 3, 7       | 飯島   |
| 7 | 看護における人間工学    | 看護の現場で必要となるボディメカニクスを整理し，安全で負担の少ない看護動作を考える．                                     | 講義   | 予習：代表的な看護動作について，その動きの仕組みと特徴をまとめる（30分）                                      | 1, 3, 6       | 飯島   |
| 8 | 医工学，看護理工学への応用 | 融合領域である医工学や看護理工学の最新情報に触れ，よりよい医療を実現するための技術を人間工学的な観点で俯瞰し，今後の看護の現場でどのように役立てるか考える． | 講義   | 予習：医療現場に見られる先端技術についてまとめる（30分）<br>復習：今後の看護の現場に役立つ技術をまとめる（60分）               | 1, 2, 5, 6, 7 | 飯島   |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名        | 著者・編者 | 出版社 |
|-----|-----------|-------|-----|
| その他 | 講義プリントを配布 |       |     |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート            | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|-----------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 50%  |      |            |      |        | 50%             |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 講義期間内にレポート課題を課す |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

**【連絡先】**

| 氏名    | オフィスアワー | 研究室（部屋番号）          | Eメールアドレス |
|-------|---------|--------------------|----------|
| 飯島 淳彦 | 授業終了後   | 講師控室（西新潟中央病院キャンパス） |          |

|               |        |          |     |     |
|---------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>社会保障と法</b> | 授業担当教員 | 小林 恵子    |     |     |
|               | 補助担当教員 |          |     |     |
|               | 区分     | 専門基礎必修科目 |     |     |
|               | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）        | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III, ○V/A-1, A-5, A-7, B-2-5, B-2-5, E-2-1 |       |  |  |

#### 【授業概要】

人々が健康な暮らしと生活をするためには医療のみならず、社会福祉政策も大きく影響する。医療者は健康及び障害の状況に応じ、社会資源を活用等の支援も不可欠である。この科目では法に基づく社会保障制度の全体像を把握するとともに、医療と社会福祉の連携について学ぶ。

#### 【実務経験】

(小林) 行政保健師(新潟県庁、保健所)の実務経験を13年、大学等で看護師・保健師教育経験を32年有する。実践現場での教育や研究をもとに実践例をもとに講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1.ヘルスプロモーションの目標であるHealth for All、および日本国憲法第24条に基づく社会保障や公衆衛生行政の役割を理解できる。
- 2.医療保健福祉に関連する法制度や施策の歴史の変遷と社会情勢との関連について理解できる。
- 3.社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生および医療の社会保障制度の概要と看護職として対象への社会資源の活用支援の方法について理解できる。
- 4.多職種連携、協働の必要性と看護職が法制度の中でどのように業務連携・分担をしていくかについて理解できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                       | 授業内容   | 授業方式          | 授業外学習(予習・復習)   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|----------------------------|--|---------------|--|--------|------|
| 1 | プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション     | プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーションの考え方および、Health for Allの考え方について、実践例を紹介しながら講義する。                       | 講義            | 予習：プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーションについて、調べ、説明できるように準備して授業に臨む。(60分)             | 1      | 小林   |
| 2 | 日本における社会保障、および公衆衛生行政の役割    | 日本国憲法第24条に基づく保健医療福祉行政、社会保障制度および関係法規の概要について、具体例を紹介しながら講義する。                                 | 講義            | 予習：日本国憲法第24条の確認とそれを実現するためにどのような法制度があるかを調べて授業に臨む。(60分)                | 1      | 小林   |
| 3 | 日本における公衆衛生行政。社会保障制度の歴史の変遷  | 日本における法の概念と公衆衛生行政、社会保障の基本となる法律、法制度・施策の歴史の変遷について講義する。                                       | 講義            | 予習：テキスト、第2章「現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向」、第9章「社会福祉の歴史」を読み、内容を理解して授業に臨む。(60分) | 2      | 小林   |
| 4 | 保健医療福祉政策の動向①(母子～成人期)       | 我が国における保健医療福祉施策の動向(母子～成人期)について事前学習し、まとめてきた内容を発表し、意見交換をしたのち、まとめる。                           | 講義・演習・発表      | 予習：テキスト、第7章「社会福祉の分野とサービスC 児童家庭福祉」を読み、内容を理解して授業に臨む。(60分)              | 3      | 小林   |
| 5 | 保健医療福祉政策の動向②(精神・障害者・生活困窮者) | 我が国における保健・医療・福祉の動向と施策(精神・障害者・生活困窮者)について、事前学習し、まとめてきた内容を発表し、意見交換をしたのち、まとめる。                 | 講義・演習・発表      | 予習：テキスト、第7章「社会福祉の分野とサービスB 障害者福祉」、第6章「公的扶助」を読み、内容を理解して授業に臨む。(60分)     | 3      | 小林   |
| 6 | 保健医療福祉政策の動向③(高齢者)          | 我が国における保健・医療・福祉の動向と施策(高齢者)について、事前学習し、まとめてきた内容を発表し、意見交換をしたのち、まとめる。                          | 講義・演習・発表      | 予習：テキスト、第7章「社会福祉の分野とサービスA 高齢者福祉」、第4章「介護保障」を読み、内容を理解して授業に臨む。(60分)     | 3      | 小林   |
| 7 | 多職種連携、チーム医療                | 地域包括ケアの考え方や保健医療福祉を推進する関係機関・専門職との連携・協働について、提示した実践例を検討したのち、発表・意見交換したのちまとめる。                  | 講義・発表・グループワーク | 予習：厚生労働省のHP等から、地域包括ケアの定義、必要性に調べて授業に臨む。(60分)                          | 4      | 小林   |
| 8 | 社会的包摂と地域共社会                | 社会的包摂とはどのようなことを考え、地域共社会を実現するための法制度や法制度のはざまにある人々にどのような支援を実現していくかについて実践例を紹介しながら講義をし、意見交換をする。 | 講義・発表・グループワーク | 予習：厚生労働省のHP等から、地域共社会の定義、実現の必要性とその方法について調べて授業に臨む。(60分)                | 4      | 小林   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                             | 著者・編者 | 出版社  |
|-----|--------------------------------|-------|------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門基礎分野「健康支援と社会保障制度」[3] | 福田素生  | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート                    | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|-------------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%                     |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 授業中に提示した課題レポートの内容を評価する。 |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

試験及びレポートの評価を開示

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー | 研究室(部屋番号)          | Eメールアドレス |
|-------|---------|--------------------|----------|
| 小林 恵子 | 授業終了後   | 講師控室(西新潟中央病院キャンパス) |          |



|              |        |               |     |     |
|--------------|--------|---------------|-----|-----|
| <b>多職種連携</b> | 授業担当教員 | 平山 恵美子・坪川 麻樹子 |     |     |
|              | 補助担当教員 |               |     |     |
|              | 区分     | 専門基礎必修科目      |     |     |
|              | 年次・学期  | 2年次 後期        | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）    | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎II、V、○III、IV / A-2、3、4、5、7、B-1、2、E-1、2 |       |  |  |

#### 【授業概要】

多職種連携の背景やその概念、それを形成する保健医療福祉に携わる様々な職種について理解するとともに、組織論や医療社会学の基礎知識の学修を通して、多職種連携のあり方を学ぶ。また、その実践における課題について理解を深め、他職種との協働を促進する要素、阻害する要素について討議しながら、医療チームや地域包括ケアのメンバーとして、ケアチームの一員としての行動の理解や、チームビルディングの考え方を修得する。

#### 【実務経験】

（平山）総合病院に14年間勤務した経験を持つ教員が、この経験を生かして、本科目「多職種連携」の講義を行う。

（坪川）病院勤務13年の経験を活かし、この科目の講義を行う。

#### 【到達目標】

1. 他の専門職種への理解を深める
2. 専門職間のコミュニケーションの重要性が理解できる
3. 多職種連携の必要性を具体的に述べるができる
4. 多職種連携が必要となった時に看護職のやるべきことを具体的に述べるができる

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                   | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号  | 担当教員 |
|---|------------------------|--|------|--|---------|------|
| 1 | オリエンテーション<br>多職種連携とは何か | 1. 科目概要の説明<br>2. 多職種連携とは<br>3. 多職種連携の必要性と意義<br>4. 医療専門職の業務と役割～それぞれの専門職～                          | 講義   | 予習：シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく（30分）<br>復習：講義を振り返り、多職種連携が求められる背景とその重要性について理解を深める。（60分）  | 1・3     | 平山   |
| 2 | 多職種連携の歴史と現状            | 1. 多職種連携の始まり<br>2. 医療・保健・福祉における多職種連携<br>3. それぞれの状況における多職種連携チームの役割<br>4. 多職種連携の近年の動向と看護の役割        | 講義   | 予習：教科書の多職種連携の歴史に関連する部分を読む（30分）<br>復習：我が国の多職種連携の現状と課題及び看護の役割について理解を深める。（60分）  | 1・4     | 平山   |
| 3 | 地域包括ケアにおける地域づくり        | 1. 民間活力を利用した新たな地域づくり<br>2. 地域づくりにおける多職種連携  | 講義   | 予習：教科書の地域包括ケアにおける地域づくりに関する部分を読む。また、各自、自分の住む地域の特徴（総人口、高齢化率、ここ5年間の人口変動）を調べておく。（45分）<br>復習：「地域包括ケアが目指すもの」や、その具現化としての多職種連携について理解を深める。（60分） | 1・2・3・4 | 平山   |
| 4 | 地域づくりの実践例              | 1. 地域を支える新しいケアスタイルの創造<br>2. win-winの関係が生む地域活性化<br>3. 住民ぐるみの地域での支え合い<br>4. 住民を巻き込んでいく専門職のコラボレーション | 講義   | 予習：教科書の地域づくりの実践例に目を通す。（30分）<br>復習：「自助、互助、共助、公助」に支えられた地域の新しいケアスタイルについて理解を深める。（60分）  | 1・2・3・4 | 平山   |
| 5 | 医療事例から学ぶ多職種連携 1        | 1. 多職種連携が必要とされる事例の理解～小児医療、病棟、外来、学校保健等～<br>2. 各職種の理解（グループワーク）<br>3. 事例を巡る多職種連携の方向性と具体的活動（グループワーク） | 講義   | 予習：事例に目を通す。（30分）<br>復習：事例を個人でまとめる。（60分）  | 1・2・3・4 | 坪川   |
| 6 | 医療事例から学ぶ多職種連携 2        | 1. グループワークにて事例をまとめる（グループワーク）～小児医療、病棟、外来、学校保健等～<br>2. 発表内容の資料作成                                   | 講義   | 予習：事例を個人でまとめる。（30分）<br>復習：個人でまとめた事例の不足部分の追記。（60分）  | 1・2・3・4 | 坪川   |
| 7 | 医療事例のグループワークの発表        | 1. 発表方法の説明<br>2. 医療事例のグループワークの発表～小児医療、病棟、外来、学校保健等の事例を通して～  | 講義   | 予習：事例を個人でまとめる。（30分）<br>復習：グループでまとめた事例を振り返る。（60分）   | 1・3・4   | 坪川   |
| 8 | 多職種連携の今後の課題とまとめ        | 1. 多職種連携の今後の課題<br>2. 病棟と病棟、病院と地域、在宅医療における多職種連携チームシステム<br>3. 多職種連携教育の現在の動向<br>4. まとめ              | 講義   | 予習：教科書の多職種連携の今後の課題の部分を読む。（30分）<br>復習：講義を振り返り、学びを深める。（60分）  | 1・3・4   | 坪川   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                             | 著者・編者         | 出版社    |
|-----|--------------------------------|---------------|--------|
| 教科書 | 実践 多職種連携教育                     | 寺崎 文生 赤澤千春 監修 | 中外医学社  |
| 参考書 | モヤッとを上手に活かす多職種連携-医療事例から紐解くレシピ集 | 上原 優子, 大下 順子他 | 星和書店   |
| 参考書 | 多職種連携から統合へ向かう地域包括ケア            | 宮下 公美子        | メディカ出版 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   |      |      |            |      |        | 100% |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー        | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|--------|----------------|---------------------|------------------------------|
| 平山 恵美子 | 水曜日9:00～17:00  | 西新潟中央病院キャンパス3階（319） | emikohirayama@nupals.ac.jp   |
| 坪川 麻樹子 | 火曜日13:00～15:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（320） | makikotsubokawa@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

各授業はテキストならびに、配布されるプリント主体で行う。

【成績評価基準】 レポート評価の観点の詳細は、授業中に開示する。

# 看護倫理学

|        |          |     |     |
|--------|----------|-----|-----|
| 授業担当教員 | 平山 恵美子   |     |     |
| 補助担当教員 |          |     |     |
| 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
| 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |
|--------------|---|-------|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎ I、○II、III、IV / A-1,3,4（追加項目）A-2,B-3 | 保健師課程 |
|--------------|---|-------|

## 【授業概要】

本授業は、生命・医療倫理の諸問題や看護倫理における倫理的葛藤に対してどのように対処していったらよいのか、生命・医療倫理および看護倫理理論の基本的な知識や概念を活用し、看護職として倫理的な実践を行うための基礎を身につけることを目標とする。具体的には、臨床の複雑な状況下において、看護実践における倫理的葛藤が生じた時、確固たる拠りどころに基づいて説明付けられる能力を養うことを目指す。

## 【実務経験】

名古屋第一赤十字病院の一般外科病棟に4年間、その後金沢聖霊総合病院では重症混合病棟等の主任・看護師長として10年間勤務した経験を持つ。実務経験をもとに本科目の「看護倫理」で講義を行う。

## 【到達目標】

- 1)医療倫理の主要な概念（医療倫理原則、インフォームド・コンセント、患者の権利）について説明できる。
- 2)看護倫理の主要な概念（看護倫理原則、ケアリング、アドボカシー、看護者の倫理綱領）について説明できる。
- 3)医療・福祉の様々な看護活動の場において求められる看護倫理について説明できる。
- 4)看護実践事例の倫理的検討を行い、倫理的問題を同定し説明ができる。

## 【授業計画】

| 回 | 授業項目                    | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標番号  | 担当教員 |
|---|-------------------------|--|------|---|---------|------|
| 1 | 医療倫理学とは                 | 看護倫理の礎となる医療倫理の考え方やその発展してきた背景を知り、看護倫理の理解を深めるための基本的知識について学びます。<br>1)医療倫理とは<br>2)バイオエシックス<br>3)看護倫理の位置づけ  | 講義   | 予習：自分の身近にある倫理的問題を意識し、事例提示できるよう意見をまとめておくこと。<br>復習：配布資料の復習（30分）                                 | 1       | 平山   |
| 2 | 医療倫理の基本概念               | 看護職の立場から医療倫理の基本概念について理解を深めます。<br>1)医療倫理原則<br>2)インフォームド・コンセント<br>3)患者の権利宣言  | 講義   | 予習：米国型の医療倫理原則、インフォームド・コンセント、患者の権利に関するWMAリスボン宣言について事前に調べる（60分）<br>復習：配布資料の復習（30分）              | 1       | 平山   |
| 3 | 事例の倫理的検討…グループワーク        | グループで、倫理原則を活用し事例の問題を検討し、その後個人ワークで課題レポートに取り組みます。グループワーク・個人ワークを通して、倫理的問題を同定し説明付けられる基礎的能力を養います。「臨床現場で医療従事者に求められること」<br>ーいのは誰のものツクスコワートの場合ー<br>(1)課題レポート                             | 講義   | 予習：第2回講義において配布される事例を精読し自分なりの意見をまとめておく（60分）<br>復習：(1)課題レポートに取り組み（90分）                          | 1,4     | 平山   |
| 4 | 看護倫理                    | 我が国の看護倫理の歴史的概観を学び、生命倫理・医療倫理との繋がり理解を深め、その後1)-3)を学習し看護実践における看護倫理の意義について学びます。<br>1)看護倫理とは<br>2)看護倫理原則<br>3)看護者の倫理綱領   | 講義   | 予習：日本看護協会から出されている「看護者の倫理綱領」について調べておく。また、すでに学んだ医療倫理原則を復習しておく。（60分）<br>復習：配布資料の復習（30分）          | 1,2     | 平山   |
| 5 | ケアの倫理/ケアリング             | 従来の伝統的な倫理理論や原則性倫理を補完するものと位置づけられている倫理であるケア/ケアリングについて代表的な1)-4)の書物をおして学びます。<br>1)ミルトン・メイヤロフ「ケアの本質」<br>2)A・ビショップ<br>3)P・ベナー<br>4)ギリガン  | 講義   | 予習：基礎看護学等でこれまで学んできたケア/ケアリングについて復習しておく（30分）<br>復習：配布資料の復習（60分）                                 | 2       | 平山   |
| 6 | さまざまな看護活動と倫理①           | 臨床現場で倫理的問題が発生しやすい看護実践事例1)-2)を通して、看護職としてどうすることが善（よ）いことなのか、倫理的観点から学びます。<br>1)患者の抑制と倫理<br>2)認知症ケアと倫理  | 講義   | 予習：第5回で配布する事例を精読し、自分の考えをまとめておく（30分）<br>復習：配布資料の復習（60分）  | 1,2,3   | 平山   |
| 7 | さまざまな看護活動と倫理②           | 臨床現場で倫理的問題が発生しやすい看護実践事例3)-4)を通して、看護職としてどうすることが善（よ）いことなのか、倫理的観点から学びます。<br>3)I・C時の看護と倫理<br>4)終末期ケアと倫理  | 講義   | 予習：第6回で配布する事例を精読し、自分の考えをまとめておく（30分）<br>復習：配布資料の復習（60分）  | 1,2,3   | 平山   |
| 8 | 看護ケア場面事例の倫理的検討（グループワーク） | グループで、倫理原則＋ケアリングを活用し事例の問題及び看護職として求められる対応を検討し、その後個人ワークで課題レポートに取り組みます。グループワーク・個人ワークを通して、看護実践における倫理的問題を同定し説明付けられる基礎的能力を養います<br>「日常看護実践における倫理的問題」<br>ー日常の看護ケア場面をおして考えるー<br>(2)課題レポート | 講義   | 予習：これまでに学んだ倫理原則およびケアリングを予習し、第7回講義において配布される事例を精読し自分なりの意見をまとめておく（60分）<br>復習：(2)課題レポートに取り組み（90分） | 1,2,3,4 | 平山   |

## 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名        | 著者・編者 | 出版社 |
|-----|-----------|-------|-----|
| 教科書 | 講義プリントを配布 |       |     |

## 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート               | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|--------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 40%  |      |            |      |        | 60%                |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | (1)(2)課題レポートは、各30% |                         |     |

## 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

## 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー        | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                   |
|--------|----------------|---------------------|----------------------------|
| 平山 恵美子 | 水曜日13:00～17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（319） | emikohirayama@nupals.ac.jp |

## 【その他】

各授業は、配布されるプリント主体で行う。

【成績評価基準】 レポートの評価の観点の詳細は授業中に開示する。

|                  |        |          |     |     |
|------------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>治療過程支援技術論</b> | 授業担当教員 | 川崎 久子    |     |     |
|                  | 補助担当教員 |          |     |     |
|                  | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                  | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |  |       |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）         | 保健師課程 |  |  |
|              | II〇、III〇、/A-2-2)、A-3-1)、A-6-1)、A-6-2)、D-2-4) |       |  |  |

#### 【授業概要】

看護職者は、対象者の持つ様々な健康上の問題をより効果的に・解決するために医師の指示のもとで様々な医療行為を実施する。この科目では、治療過程にある対象者に対する看護者の役割をふまえ、対象者に安全・安楽・正確に治療過程を支援するための看護技術について学修する。無菌操作、薬物療法、呼吸療法、検査時の援助、排泄障害の援助などの技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。

#### 【実務経験】

看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。

#### 【到達目標】

- 1) 治療過程を支援する看護師の役割りを説明する。
- 2) 治療過程における安全確保の方法を説明できる。
- 3) 創傷管理の基礎的知識と看護技術の適応と方法を説明できる。
- 4) 排尿障害のアセスメントと導尿の仕組みを説明できる。
- 5) 薬物療法を基礎的知識と安全に与薬する方法を説明できる。
- 6) 検査における看護師の役割りを説明できる。
- 7) 呼吸管理の基礎的知識と看護技術の適応を説明できる。
- 8) 便秘のアセスメントと排便と浣腸の適応を説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目               | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|--------------------|---|------|--|--------|------|
| 1 | 科目ガイダンス<br>創傷管理の技術 | この科目の特徴と治療過程を支援する看護師の役割りと医療安全の確保の基礎的知識を学ぶ。<br>創傷管理の基本である無菌操作と包帯法について学ぶ。 | 講義   | 予習：感染の連鎖について復習を行う<br>復習：授業資料の見直し                             | 1・2・3  | 川崎   |
| 2 | 排尿障害を緩和する技術        | 尿閉のアセスメントと一時的導尿と持続的導尿の適応の違い、導尿の方法、留置中の管理について学ぶ。                         | 講義   | 予習：テキストの尿閉と導尿の記載内容を把握する<br>復習：授業資料の見直し                       | 1・2・4  | 川崎   |
| 3 | 薬物療法を支援する技術①       | 薬物療法の概要と内服薬・外用薬の与薬方法を学ぶ。  | 講義   | 予習：テキストの与薬の技術の記載内容を把握する<br>復習：授業資料の見直し                       | 1・2・5  | 川崎   |
| 4 | 薬物療法を支援する技術②       | 注射法に共通する知識と皮下注射。皮内注射・筋肉内注射について学ぶ。                                       | 講義   | 予習：テキストを注射に関する記載内容を把握する。<br>復習：授業資料の見直し                      | 1・2・5  | 川崎   |
| 5 | 薬物療法を支援する技術②       | 静脈内注射・点滴内静脈内注射・輸血法について学ぶ。   | 講義   | 予習：テキストを注射に関する記載内容を把握する<br>復習：授業資料の見直し                       | 1・2・5  | 川崎   |
| 6 | 検査における看護技術         | 検査における看護師の役割り、検体検査・生体検査・放射線検査の援助について学ぶ。                                 | 講義   | 予習：テキストの症状・生体機能管理技術と診察・検査・処置における技術の記載内容を把握する。<br>復習：授業資料の見直し | 1・2・6  | 川崎   |
| 7 | 呼吸療法を支える看護技術       | 呼吸のアセスメントと酸素療法、口腔・鼻腔内吸引・気管吸引・ネブライザーの技術について学ぶ。                           | 講義   | 予習：テキストの呼吸・循環を整える技術の記載内容を把握する<br>復習：授業資料の見直し                 | 1・2・7  | 川崎   |
| 8 | 排便障害を緩和する技術        | 便秘のアセスメントと排便・浣腸の適応とその技術について学ぶ。  | 講義   | 予習：テキストの浣腸と排便に関する記載内容を把握する<br>復習：授業資料の見直し                    | 1・2・8  | 川崎   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                            | 著者・編者      | 出版社       |
|-----|-------------------------------|------------|-----------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術II 基礎看護学3 | 任和子他       | 医学書院      |
| 参考書 | 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II      | 深井喜代子編集    | メジカルフレンド社 |
| 参考書 | 看護技術が見える②臨床看護技術               | 医学情報学研究所編集 | メディックメディア |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術I 基礎看護学2   | 茂野香ほる他     | 医学書院      |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験      | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|-------------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      | 20%         |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      | 授業中に行うミニテスト |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

ミニテストの結果は、点数化して返却する。

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー         | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|-------|-----------------|---------------------|------------------------------|
| 川崎 久子 | 水曜日 16：00～17：00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（323） | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

「人体の構造と機能」「感染症と微生物」「薬理学と薬剤管理」の知識を活用します。履修を前提として授業を進めるので復習をしておくこと。また、看護技術の適応を判断するためには、病態についての知識が不可欠なため、関連する知識を幅広く活用してほしい。

# 看護過程展開技術演習

|        |                        |     |     |
|--------|------------------------|-----|-----|
| 授業担当教員 | 戸田 肇・石綿 啓子・川崎 久子・大野 直子 |     |     |
| 補助担当教員 | 犬伏真実                   |     |     |
| 区分     | 専門教育必修科目               |     |     |
| 年次・学期  | 2年次 後期                 | 単位数 | 1単位 |

|              |  |       |  |
|--------------|--|-------|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）                                     | 保健師課程 |  |
|              | ◎ I、II、III、IV、○V/A-1、2、3、4、5、6、7、8、9、B-1、2、3、C-1、2、3、4、5、D-1、2、3、4、5、E-1 |       |  |

## 【授業概要】

エビデンスに基づいた看護実践と看護過程について理解した上で、情報の取り方と質、対象の状況を理解し問題を焦点化すること、問題に関する情報収集の方法、情報を分析し臨床的判断をする方法、ケアのエビデンスを見つけ検討する方法、ケアについて評価及びリフレクションの方法を講義及びグループワークを通して学ぶ。

## 【実務経験】

- （戸田）看護実践、看護学教育の経験を40余年有する。臨地の側から教育の側と共同して学生を支える実習指導者の育成に25余年責任者として取り組んできた実務経験も踏まえ「看護系人材として求められる基本的な資質・能力」を培う講義・演習を行う。
- （石綿）病院に16年間勤務した経験を持つ。
- （川崎）看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。
- （大野）看護師として急性期病院での20余年の臨床経験と専門学校専任教員の経験を持つ。

## 【到達目標】

- 1) 看護における看護過程の意義・目的・段階、クリティカルシンキングについて説明できる
- 2) 看護過程の各段階（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価）について説明できる
- 3) 看護実践方法論の概要について説明できる
- 4) 看護実践方法論を用いて事例の看護過程を展開できる

## 【授業計画】

| 回  | 授業項目      | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号      | 担当教員                      |
|----|-----------|--|------|--|-------------|---------------------------|
| 1  | 看護過程とは    | 看護過程の意義、目的、各段階、看護と看護過程、問題解決思考、クリティカルシンキングとの関連について講義する。   | 講義   | 予習：シラバスを確認する（30分）  | 1) 2)       | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 2  | 看護実践方法論   | 看護実践方法論について、主要概念、基本的看護の構成要素、常在条件、病理状態とその関連について事例を用いて講義する。学生が展開する事例を提示し、情報収集の方法、病理状態と情報の分類について講義する。                               | 講義   | 復習：提示された事例や課題について整理する（60分）                                       | 1) 2) 3)    | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 3  | 看護過程の事例展開 | 看護過程を展開する事例について、各自が実施した情報の整理をグループワークで共有・発表する。補足の講義を受けて修正する。情報の分析解釈について講義する。  | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べる（30分）<br>復習：整理した情報の修正をする                     | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 4  | 看護過程の事例展開 | 看護過程を展開する事例について、各自が実施した情報の整理をグループワークで共有・発表する。補足の講義を受けて修正する。情報の分析解釈について講義する。  | 演習   | 予習：事例の情報を整理する<br>復習：提示された事例や課題について整理する（60分）                      | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 5  | 情報の分析解釈①  | 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、病理的状態、基本的看護の構成要素（「飲食」「排泄」）の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。  | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べ、整理する（30分）<br>復習：情報の分析解釈を修正し提出する              | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 6  | 情報の分析解釈①  | 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、病理的状態、基本的看護の構成要素（「飲食」「排泄」）の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。  | 演習   | 予習：情報の分析・解釈を行う<br>復習：提示された事例や課題について修正し、整理する（60分）                 | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 7  | 情報の分析解釈②  | 基本的看護の構成要素「呼吸」「活動・姿勢」「睡眠・休息」「衣類」「体温・循環」の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。  | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べ、整理する（30分）<br>復習：情報の分析解釈を修正し提出する              | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 8  | 情報の分析解釈②  | 基本的看護の構成要素「呼吸」「活動・姿勢」「睡眠・休息」「衣類」「体温・循環」の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。  | 演習   | 予習：情報の分析・解釈を行う<br>復習：提示された事例や課題について修正し、整理する（60分）                 | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 9  | 情報の分析解釈③  | 基本的看護の構成要素「清潔」「安全」「コミュニケーション」「価値観・信仰」「生産活動・仕事」「レクリエーション」「学習」の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。関連図の作成、看護問題の明確化、優先順位の決定について講義する。 | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べ、整理する（30分）<br>復習：情報の分析解釈を修正し提出する              | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 10 | 情報の分析解釈③  | 基本的看護の構成要素「清潔」「安全」「コミュニケーション」「価値観・信仰」「生産活動・仕事」「レクリエーション」「学習」の情報整理、分析解釈をグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。関連図の作成、看護問題の明確化、優先順位の決定について講義する。 | 演習   | 予習：情報の分析・解釈を行う<br>復習：提示された事例や課題について修正し、整理する（60分）                 | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 11 | 看護問題の明確化  | 関連図をグループワークで共有・発表する。看護問題の明確化、優先順位の決定と関連図に対する補足の講義を行う。看護目標、看護計画について講義する。  | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べ、整理する（30分）<br>復習：関連図の修正、問題と優先順位の修正する 関連図を提出する | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 12 | 看護問題の明確化  | 関連図をグループワークで共有・発表する。看護問題の明確化、優先順位の決定と関連図に対する補足の講義を行う。看護目標、看護計画について講義する。  | 演習   | 予習：関連図を作成する<br>復習：提示された事例や課題について修正し、整理する（60分）                    | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 13 | 看護計画      | 看護目標、看護計画についてグループワークで共有・発表する。補足の講義を行う。実施後のリフレクションと記録方法、評価と計画との関連について講義する。  | 演習   | 予習：提示された事例や課題について調べ、整理する（30分）<br>復習：看護目標、看護計画の修正                 | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |

| 回  | 授業項目  | 授業内容   | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                                   | 到達目標番号      | 担当教員                      |
|----|-------|--|------|--|-------------|---------------------------|
| 14 | 看護計画  | 看護目標、看護計画についてグループワークで共有・発表する。実施後のリフレクションと記録方法、評価と計画との関連について講義する。 | 演習   | 予習：看護計画を作成する<br>復習：提示された事例や課題について修正し、整理する（60分） | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |
| 15 | 実施・評価 | 実施後の記録、評価と計画との関連についてグループワークで共有・発表する。                             | 演習   | 予習：実施後の記録をする<br>復習：講義・演習を振り返り、まとめる（40分）        | 1) 2) 3) 4) | 戸田<br>石綿<br>川崎<br>大野<br>他 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                                  | 著者・编者              | 出版社       |
|-----|-------------------------------------|--------------------|-----------|
| 教科書 | 看護学原論講義（1年次購入済み）<br>講義・演習プリント・資料を配布 | 薄井坦子，（戸田肇）         | 現代社       |
| 参考書 | 患者理解への看護の視点                         | 看護科学研究会・看護教育研究グループ | 日本看護協会出版会 |
| 参考書 | 看護のための人間論 ナースが視る人間論                 | 薄井坦子               | 講談社       |
| 参考書 | 看護のための疾病論 ナースが視る病気                  | 薄井坦子               | 講談社       |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート       | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------------|-------------------------|-----|
| 割合   |      |      |            |      |        | 100%       |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 看護過程展開記録用紙 |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

疑問が解消され、学修の方向性が見出せるように授業の中でフィードバックを行う。

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー                   | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|-------|---------------------------|---------------------|------------------------------|
| 戸田 肇  | 月曜日 12:30～14:00、火曜日 授業終了後 | 西新潟中央病院キャンパス2階（206） | toda@nupals.ac.jp            |
| 石綿 啓子 | 授業終了後                     | 西新潟中央病院キャンパス3階（322） | ishiwata@nupals.ac.jp        |
| 川崎 久子 | 水曜日 16:00～17:00           | 西新潟中央病院キャンパス3階（323） | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |
| 大野 直子 | 授業終了後                     | 演習室                 |                              |

#### 【その他】

【成績評価基準】 レポート評価（100点満点）のうち60点以上を合格とする。詳細は授業中に提示する。



# 治療過程支援技術演習

|        |                         |     |     |
|--------|-------------------------|-----|-----|
| 授業担当教員 | 川崎 久子・石綿 啓子・大野 直子・橋本 有紀 |     |     |
| 補助担当教員 | 澁谷 公崇・犬伏 真実             |     |     |
| 区分     | 専門教育必修科目                |     |     |
| 年次・学期  | 2年次 後期                  | 単位数 | 1単位 |

|              |   |       |
|--------------|---|-------|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>II〇、III〇、IV〇/A-2-2)、A-3-1)、A-6-1)、A-6-2)、D-2-4) | 保健師課程 |
|--------------|---|-------|

## 【授業概要】

看護職者は、対象者の持つ様々な健康上の問題をより効果的に・解決するために医師の指示のもとで様々な医療行為を実施する。この科目では、治療過程にある対象者に対する看護者の役割をふまえ、対象者に安全・安楽・正確に治療過程を支援するための看護技術について学修する。無菌操作、薬物療法、呼吸療法、検査時の援助、排泄障害の援助などの技術に関して、その技術を支える理論的知識と方法論的知識を学ぶ。

## 【実務経験】

(川崎) 看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。  
(石綿) 病院に16年間勤務した経験を持つ。  
(大野) 看護師としての臨床経験と専門学校専任教員3年の経験を持つ。

## 【到達目標】

- 1) 治療過程を支援する看護師の役割を理解して行動できる。
- 2) 治療過程における安全確保の行動がとれる。
- 3) 症状や状況をアセスメントし、看護技術の選択ができる。
- 4) 対象に治療の必要性を説明し、同意を得ることができる。

## 【授業計画】

| 回   | 授業項目                    | 授業内容  | 授業方式  | 授業外学習（予習・復習）               | 到達目標<br>番号 | 担当教員           |
|-----|-------------------------|---|-------|----------------------------|------------|----------------|
| 1   | 科目ガイダンス<br>無菌操作・滅菌手袋の着脱 | この科目の進め方と評価について理解する。<br>綿子を用いて綿球やガーゼの無菌操作を行う。滅菌手袋を無菌的に着脱を演習する。                                    | 講義・演習 | 予習：演習内容の理解<br>復習：滅菌手袋の着脱   | 1・2・3      | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 2   | 創傷管理の技術                 | 四肢を巻軸包帯法を学生相互に実施し、圧迫・支持・固定の原則を学ぶ。   | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 3-4 | 排尿障害を緩和する技術             | 陰部モデルに対して、無菌操作で一次的導尿を行う方法を実施する。   | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 5-6 | 薬物療法を支援する技術①            | 薬液の準備、6Rの確認、アンプルの取り扱い、シリンジへの薬液の充填を演習する。さらに、正確な薬液量であることを確認後、注射モデルに対して皮下注射および筋肉内注射を実施する。            | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 7   | 薬物療法を支援する技術②            | 輸液ボトルへの輸液セットの準備、留置針による血管確保、輸液セットの接続と固定を血管モデルに対して実施する。   | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>橋本 |
| 8-9 | 検査における技術                | 静脈内採血を安全に行うための方法を学び、採血モデルに対して実施する。  | 講義・演習 | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 10  | 呼吸療法を支える看護技術①           | 呼吸理学療法を学生同士で体験し、手動的な換気の改善を理解する。   | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 11  | 呼吸療法を支える看護技術②           | 酸素ボンベの取り扱い、中央配管による酸素吸入の準備、酸素流量の調節、酸素への加湿の効果を実験を通して体験する。<br>吸引モデルに対して、吸引器を用いて、適切な圧力で口腔・鼻腔内吸引を実施する。 | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 12  | 排尿障害を緩和する技術             | プライバシーと安全に配慮して、グリセリン浣腸を陰部モデルに実施する。  | 演習    | 予習：演習内容の理解<br>復習：事後課題の提出   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 13  | 看護技術の患者への適応①            | 事例に対して、アセスメントを行い、支援の方法を検討する。  | PBL   | 予習：メンバーで検討<br>復習：メンバーで検討   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 14  | 看護技術の患者への適応②            | 事例に対して、アセスメントを行い、支援の方法を具体的に検討する。  | PBL   | 予習：メンバーで検討<br>復習：メンバーで検討   | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |
| 15  | 看護技術の患者への適応③            | 事例に対して、アセスメントを行い、支援の方法を具体的に演習する。<br>(シミュレーターを用いた状況設定に援助を行う)                                       | 演習    | 予習：メンバーで検討<br>復習：課題レポートの提出 | 1・2・3・4    | 川崎<br>石綿<br>大野 |

## 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                             | 著者・編者      | 出版社       |
|-----|--------------------------------|------------|-----------|
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術II 基礎看護技術3 | 任和子他       | 医学書院      |
| 参考書 | 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II       | 深井喜代子編集    | メジカルフレンド社 |
| 参考書 | 看護技術が見える②臨床看護技術                | 医学情報学研究所編集 | メディックメディア |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術I 基礎看護学2    | 茂野香ほる他     | 医学書院      |

## 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート      | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他           |
|------|------|------|------------|------|--------|-----------|-------------------------|---------------|
| 割合   | 50%  |      |            |      |        | 30%       |                         | 20%           |
| 備考   |      |      |            |      |        | 演習の事前事後課題 |                         | PBL課題に基づくレポート |

## 【課題に対するフィードバック方法】

理解の不足があると思われる内容については、授業中に解説を加えていく。

## 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー         | 研究室（部屋番号）            | Eメールアドレス                     |
|-------|-----------------|----------------------|------------------------------|
| 川崎 久子 | 水曜日 16:00~17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階 (323) | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |
| 石綿 啓子 | 授業終了後           | 西新潟中央病院キャンパス3階 (322) | ishiwata@nupals.ac.jp        |
| 大野 直子 | 授業終了後           | 演習室                  |                              |
| 橋本 有紀 | 授業終了後           | 演習室                  |                              |

## 【その他】

「人体の構造と機能」「感染症と微生物」「薬理学と薬剤管理」の知識を活用します。履修を前提として授業を進めるので復習をしておくこと。  
身体に侵襲のある看護技術の演習が多いため、事前学修を十分に行ってから参加すること。ユニフォームを着用しての演習となるため、必ず持参すること。

## 基礎看護学実習II

|  |        |  |     |     |
|--|--------|--|-----|-----|
|  | 授業担当教員 | 戸田 肇・川崎 久子・石綿 啓子・野原 真理・小山 歌子・古地 順子・平山 恵美子・成澤 幸子・中垣 紀子・定方 美恵子・日下 修一・坪川 麻樹子・明神 一浩・酒井 禎子・大野 直子・西山 和代・山本 淳子・五十嵐 真理・諸橋 麻紀・巳亦 圭子・ブロード 裕子・橋本 有紀・齋藤 智子 |     |     |
|  | 補助担当教員 |  |     |     |
|  | 区分     | 専門教育必修科目   |     |     |
|  | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 2単位 |

|              |   |       |  |  |
|--------------|---|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目(中項目)  | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎ I、II、III、IV、○ V/A-1、2、3、4、5、6、7、8、9、B-1、2、3、C-1、2、3、4、5、D-1、2、3、4、5、E-1、F-1、2 |       |  |  |

### 【授業概要】

初めて対象となる患者を受け持ち、看護過程を展開する実習である。看護の観点から対象者を統合的に捉え、人間的な心のこもった関心を注ぎ、その人のもてる力に働きかけ、健康的な生活が実現できるよう日常生活援助を創造的に工夫しながら実践し、評価する。これらの過程を通して、看護者としての自己を見つめ、看護実践能力のコアを修得する。

### 【実務経験】

- (戸田) 看護実践、看護学教育の経験を40余年有する。臨地の側から教育の側と共同して学生を支える実習指導者の育成に25余年責任者として取り組んできた実務経験も踏まえ「看護系人材として求められる基本的な資質・能力」を培う実習指導を行う。  
 (川崎) 看護師として、急性期病院に20年勤務の経験を持ち、その経験を活用して授業を展開する。  
 (石綿) 病院に16年間勤務した経験を持つ。  
 (大野) 看護師として急性期病院での20余年の臨床経験と専門学校専任教員の経験を持つ。

### 【到達目標】

- 1) 看護する目的で対象者を見つめ、対象の事実の中から意味のある事実を捉えることができる。
- 2) 捉えた事実から対象者の全体像を広げ、日常生活力を重ね、対象者の現象像を描くことができる。
- 3) 描いた対象者の現象像の意味を考え、対象特性を把握し、看護の方向性を想い描くことができる。
- 4) 把握した対象者の状況や状態や反応を重ね、相手の位置に移って感情を読み取ることができる。
- 5) 対象者のもてる力を引き出すには何が必要かを判断し、安全・安楽・自立の優先順位とその手段を考えながら働きかけることができる。
- 6) 意図的な働きかけに対する対象者の反応を観察して自己の実践を評価することができる。
- 7) 自己の看護実践を振り返り、その特徴から評価し、学修課題を明確にすることができる。

### 【授業計画】

| 回    | 授業項目    | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習(予習・復習)                               | 到達目標番号                  | 担当教員                      |
|------|---------|---|------|--|-------------------------|---------------------------|
| 1~5  | 病棟実習1週目 | 実習1日目: 病棟実習/病院・病棟オリエンテーション・受持患者決定・挨拶・情報収集・看護師と受持患者の看護に参加等/カンファレンス<br>実習2日目: 病棟実習/カンファレンス<br>実習3日目: 学内実習/全体像・対象特性・看護の方向性<br>実習4日目: 病棟実習/カンファレンス<br>実習5日目: 病棟実習/カンファレンス | 実習   | 予習: 実習の準備と実習記録の作成(60分)<br>復習: 実習記録の整理(30分) | 1) 2) 3) 4)<br>5) 6)    | 戸田<br>川崎<br>石綿<br>大野<br>他 |
| 6~10 | 病棟実習2週目 | 実習6日目: 病棟実習/カンファレンス<br>実習7日目: 病棟実習/カンファレンス<br>実習8日目: 病棟実習/カンファレンス<br>実習9日目: 学内実習/まとめ(振り返り)<br>実習10日目: 学内実習/まとめ(振り返り)  | 実習   | 予習: 実習の準備と実習記録の作成(60分)<br>復習: 実習記録の整理(30分) | 1) 2) 3) 4)<br>5) 6) 7) | 戸田<br>川崎<br>石綿<br>大野<br>他 |

### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                        | 著者・編者 | 出版社 |
|-----|---------------------------|-------|-----|
| 教科書 | 基礎看護学実習II実習要項<br>臨地実習共通要項 |       |     |
| 参考書 | 看護過程展開技術演習の授業資料一式         |       |     |

### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他          |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|--------------|
| 割合   |      |      |            |      |        |      |                         | 100%         |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         | 実習目標に沿って評価する |

### 【課題に対するフィードバック方法】

### 【連絡先】

| 氏名      | オフィスアワー             | 研究室(部屋番号)            | Eメールアドレス                     |
|---------|---------------------|----------------------|------------------------------|
| 戸田 肇    | 授業終了後               | 西新潟中央病院キャンパス2階(206)  | toda@nupals.ac.jp            |
| 川崎 久子   | 水曜日 16:00~17:00     | 西新潟中央病院キャンパス3階(323)  | hisako-kawasaki@nupals.ac.jp |
| 石綿 啓子   | 講義終了後               | 西新潟中央病院キャンパス3階(322)  | ishiwata@nupals.ac.jp        |
| 野原 真理   | 水曜日11:00~13:00      | 西新潟中央病院キャンパス3階(314)  | marinohara@nupals.ac.jp      |
| 小山 歌子   |                     | 西新潟中央病院キャンパス3階(317)  | koyama@nupals.ac.jp          |
| 古地 順子   | 火・水・金曜日12:10~17:00  | 西新潟中央病院キャンパス3階(318)  | kochi@nupals.ac.jp           |
| 平山 恵美子  | 水曜日13:00~17:00      | 西新潟中央病院キャンパス3階(319)  | emikohirayama@nupals.ac.jp   |
| 成澤 幸子   | 平日: 17:00~19:00     | 西新潟中央病院キャンパス2階(213)  | narisawa@nupals.ac.jp        |
| 中垣 紀子   | 水曜日13時~17時          | 西新潟中央病院キャンパス3階(321)  | n-nakagaki@nupals.ac.jp      |
| 定方 美恵子  | 水・木曜日 12時30分~13時    | 西新潟中央病院キャンパス1階(学部長室) | sadakata@nupals.ac.jp        |
| 日下 修一   | 火曜日・金曜日 10:30~13:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階(316)  | s-kusaka@nupals.ac.jp        |
| 坪川 麻樹子  | 火曜日13:00~15:00      | 西新潟中央病院キャンパス3階(320)  | makikotsubokawa@nupals.ac.jp |
| 明神 一浩   | 月・木曜日 12:30~17:00   | 西新潟中央病院キャンパス2階(212)  | k-myoujin@nupals.ac.jp       |
| 酒井 禎子   |                     | 西新潟中央病院キャンパス3階(315)  | yoshikosakai@nupals.ac.jp    |
| 大野 直子   | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| 西山 和代   | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| 山本 淳子   | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| 五十嵐 真理  | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| 諸橋 麻紀   | 火・木・金曜日 13時~17時     | 西新潟中央病院キャンパス2階(215)  | morohashi@nupals.ac.jp       |
| 巳亦 圭子   | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| ブロード 裕子 | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |
| 橋本 有紀   | 実習終了後               | 西新潟中央病院キャンパス         |                              |



**【その他】**

「看護学原論」「ヘルスアセスメント演習」「看護過程展開技術演習」「援助的人間関係論」「看護の基本技術」「生活支援技術論」「生活支援技術演習」など既習科目を復習して実習に臨むこと。

持ち込まない・持ち出さない・拡げないの観点から健康管理には十分留意すること。

【成績評価基準】実習目標に沿って評価（100点）のうち60点以上を合格とする。

|           |        |          |     |     |
|-----------|--------|----------|-----|-----|
| 公衆衛生看護学概論 | 授業担当教員 | 野原 真理    |     |     |
|           | 補助担当教員 |          |     |     |
|           | 区分     | 専門教育選択科目 |     |     |
|           | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 2単位 |

|              |                                      |  |  |  |
|--------------|--------------------------------------|--|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程  |  |  |
|              |                                      | ◎ I、○ II、V/A-1,2(追加項目) A-5, B-1,2,3, C-2, D4,5,6, E1.2 |  |  |

#### 【授業概要】

公衆衛生看護は、公衆衛生を基盤にした看護活動であり、地域に住むすべての人々を対象とし、健康レベルやQOLの向上を目指し、住民自身が主体的に取り組めるよう専門的な支援を行う。公衆衛生看護学の理念、歴史的背景や地域保健活動の変遷等を踏まえ、地域を基盤とした公衆衛生看護の対象の捉え方、活動の場、活動方法に焦点をあてながら、多様化する社会現象と健康課題に対応する保健師の役割について学修する。

#### 【実務経験】

行政保健師として実務経験をもつ教員が、対象となる地域住民と看護職の役割について講義・演習を行う。

#### 【到達目標】

- 1) 公衆衛生看護学の特徴とプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念について説明できる。
- 2) 個人・家族・集団・地域を対象とした看護領域であることを理解し、説明できる。
- 3) 社会的背景と公衆衛生看護学の変遷の関連について説明できる。
- 4) 地域で生活する人々の健康課題について考えることができ、説明できる。
- 5) 地域の健康課題と保健計画について理解し、説明できる。
- 6) 公衆衛生看護活動における集団的支援・個別的支援について理解し、説明できる。
- 7) 公衆衛生看護活動における現状の問題を踏まえて今後の課題について説明できる。

#### 【授業計画】

| 回  | 授業項目                                 | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                        | 到達目標<br>番号  | 担当教員 |
|----|--------------------------------------|---|------|-------------------------------------|-------------|------|
| 1  | 公衆衛生看護学の概要                           | 公衆衛生看護の定義や理念、目的や対象、活動の場・公衆衛生看護活動の法的根拠について講義する。                              | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)          | 野原   |
| 2  | 公衆衛生看護学の基本となる概念                      | 健康の定義、疾病予防（一次、二次、三次予防）の概念、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて講義する。                    | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)          | 野原   |
| 3  | わが国の健康政策と保健活動                        | 健康を左右する条件、ソーシャルキャピタル、わが国の健康政策の変遷、健康日本21、健康増進法について講義する。                      | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 4)       | 野原   |
| 4  | 保健師活動の倫理的問題                          | 保健師の活動と倫理的問題、情報社会における倫理と保護について講義する。   | 演習   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1)          | 野原   |
| 5  | 対象と活動の概要                             | 公衆衛生看護の対象の特徴、個人、家族、集団（グループ）、組織、地域を活動の対象とする捉え方について講義する。                      | 演習   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 2)          | 野原   |
| 6  | 保健師が自治体に所属する意味                       | 保健所、市町村における保健師の活動、保健所と市町村保健センターの法的位置づけ、役割・機能、医療施設と社会福祉施設における保健師の活動について講義する。 | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 2)       | 野原   |
| 7  | 社会的背景と健康課題                           | 人口構成及び疾病構造の変化、経済や産業構造の変化と健康課題について講義する。                                      | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 3) 4)       | 野原   |
| 8  | 生活環境と健康課題                            | 地球環境、生活環境の変化と健康への影響、自然災害と健康・健康課題解決のための資源について講義する。                           | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 3) 4)       | 野原   |
| 9  | 地域診断に基づくPDCAサイクル（1）                  | 公衆衛生看護活動の展開の基本について講義する（ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ）                            | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 5) 6)    | 野原   |
| 10 | 地域診断に基づくPDCAサイクル（2）                  | 保健計画の策定と実践、評価について講義する（プリシード・プロシードモデル、コミュニティアズパートナーモデル）。                     | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 5) 6)    | 野原   |
| 11 | 健康危機管理とリスクマネジメント                     | 健康危機管理とリスクマネジメントについて講義する。   | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 4) 5)       | 野原   |
| 12 | わが国の公衆衛生看護活動の歴史                      | わが国における公衆衛生・衛生行政の歴史の変遷、わが国の公衆衛生看護活動の歴史について講義する。                             | 演習   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 3) 4)       | 野原   |
| 13 | 諸外国の公衆衛生看護活動の歴史                      | 諸外国の公衆衛生看護活動の歴史、諸外国の保健師教育・規則について講義する。                                       | 演習   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 3) 4)       | 野原   |
| 14 | 国際保健と国際協力、公衆衛生看護の展望                  | 国際保健の活動の対象と場、国際協力・多文化共生社会における健康課題とについて講義する。                                 | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 1) 6) 7)    | 野原   |
| 15 | 学校保健システムの看護の展開方法<br>産業保健システムと看護の展開方法 | 学校保健活動における保健師と養護教諭の連携と、産業保健活動における産業看護職と行政保健師の連携した活動について講義する。                | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | 2) 4) 6) 7) | 野原   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                             | 著者・編者  | 出版社      |
|-----|--------------------------------|--------|----------|
| 教科書 | 『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論（第6版）』      | 標美奈子・他 | 医学書院     |
| 教科書 | 国民衛生の動向2024/2025（2024年8月に発刊予定） |        | 厚生労働統計協会 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 100% |      |            |      |        |      |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー        | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                |
|-------|----------------|---------------------|-------------------------|
| 野原 真理 | 水曜日11:00~13:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（314） | marinohara@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

国民衛生の動向は、2024年8月に発刊される新しいものを購入すること。【成績評価基準】試験100点満点のうち60点以上を合格とする。

|                |        |   |     |     |
|----------------|--------|---|-----|-----|
| <b>在宅看護論実習</b> | 授業担当教員 | 小山 歌子・明神 一浩・戸田 肇・石綿 啓子・野原 真理・古地 順子・平山 恵美子・成澤 幸子・中垣 紀子・定方 美恵子・日下 修一・大野 直子・西山 和代・山本 淳子・橋本 有紀・加藤 君子・諸橋 麻紀・巳亦 圭子・ブロード 裕子・岩崎 富美子・齋藤 智子・岡崎 美穂・須貝 亜希子・ |     |     |
|                | 補助担当教員 |   |     |     |
|                | 区分     | 専門教育必修科目  |     |     |
|                | 年次・学期  | 2年次 後期  | 単位数 | 2単位 |

|              |  |       |  |
|--------------|--|-------|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目(中項目)<br>◎ I、II、○IV、V/A-1,2,3,4,5,6,7.B-1,2,3.C-1,2.D-1,4,5,6.E-1,2.F-1,2 | 保健師課程 |  |
|--------------|--|-------|--|

#### 【授業概要】

地域で生活する人々とその家族を対象に、健康と生活を支える訪問看護ステーションや小規模多機能施設での生活場面の見学を通し、各施設の機能と看護職の役割を理解する。また、対象となる人々のライフステージや健康レベル、価値観などの多様性を理解する。健康と生活を支える地域の社会資源や職種を理解するとともに、地域・在宅看護の基盤となるその人らしい生活やQOLの維持・向上のために必要な地域包括ケアシステムや多職種連携における看護職の役割など、今後必要な学修について考えるきっかけとする。

#### 【実務経験】

(小山) 行政保健師、地域保健課長としての実務経験を活かし、本科目の講義を行う。  
(明神) 臨床17年、訪問看護ステーション3年の経験と、看護専門学校2年、大学非常勤講師2年の教育経験を持つ。

#### 【到達目標】

1. 在宅で生活する療養者と家族を生活の主体者として理解する
2. 対象の尊厳を守る看護を考える
3. 対象となる人々のライフステージや健康レベル、価値観など多様性を理解する。
4. 地域で療養する人とその家族の状況と援助の実際を理解する
5. 在宅介護の維持・向上に必要な家族に対する生活支援を理解する
6. 在宅療養を支える保健医療福祉制度やサービスを理解する
7. 地域で療養する人が望む生活を支えるための社会資源の活用と多職種との連携を理解する

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                              | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習(予習・復習)                                 | 到達目標番号    | 担当教員     |
|---|-----------------------------------|---|------|--|-----------|----------|
| 1 | 1日目<br>ガイダンス<br>学習計画立案            | 実習施設ガイダンス<br>訪問看護を受ける利用者情報に基づく学習                      | 実習   | 予習:訪問看護ステーションと小規模多機能施設の役割について<br>復習:訪問看護について | 1.2       | 小山<br>明神 |
| 2 | 2~9日目<br>訪問看護ステーション実習<br>小規模多機能施設 | 実際に訪問する利用者に対する利用者情報収集と看護展開<br>小規模多機能施設の利用者に対する実習を展開する | 実習   | 予習:実習記録<br>復習:よく日の実習について                     | 3.4.5.6.7 | 小山<br>明神 |
| 3 | 10日目<br>学習のまとめ                    | 学びの再構築  | 実習   | 復習:実習記録                                      | 3.4.5.6.7 | 小山<br>明神 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                               | 著者・編者 | 出版社       |
|-----|----------------------------------|-------|-----------|
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ「地域療養を支えるケア」地域・在宅看護論① | 臺有佳他  | メディカ出版    |
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ「地域療養を支える技術」地域・在宅看護論② | 臺有佳他  | メディカ出版    |
| 教科書 | 写真でわかる訪問看護                       | 押川真喜子 | インターメディアカ |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他  |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|------|
| 割合   |      |      |            |      |        |      |                         | 100% |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         | 実習記録 |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名      | オフィシアワー              | 研究室(部屋番号)            | Eメールアドレス                   |
|---------|----------------------|----------------------|----------------------------|
| 小山 歌子   | 月・金曜日12:30~17:00     | 西新潟中央病院キャンパス3階(317)  | koyama@nupals.ac.jp        |
| 明神 一浩   | 月・木曜日 12:30~17:00    | 西新潟中央病院キャンパス2階(212)  | k-myoujin@nupals.ac.jp     |
| 戸田 肇    | 水曜日12:30~14:00、授業終了後 | 西新潟中央病院キャンパス2階(206)  | toda@nupals.ac.jp          |
| 石綿 啓子   | 講義終了後                | 西新潟中央病院キャンパス3階(322)  | ishiwata@nupals.ac.jp      |
| 野原 真理   | 水曜日11:00~13:00       | 西新潟中央病院キャンパス3階(314)  | marinohara@nupals.ac.jp    |
| 古地 順子   | 火・水・金曜日12:10~17:00   | 西新潟中央病院キャンパス3階(318)  | kochi@nupals.ac.jp         |
| 平山 恵美子  | 水曜日13:00~17:00       | 西新潟中央病院キャンパス3階(319)  | emikohirayama@nupals.ac.jp |
| 成澤 幸子   | 平日:17:00~19:00       | 西新潟中央病院キャンパス2階(213)  | narisawa@nupals.ac.jp      |
| 中垣 紀子   | 水曜日13時~17時           | 西新潟中央病院キャンパス3階(321)  | n-nakagaki@nupals.ac.jp    |
| 定方 美恵子  | 火 12時30分~14時         | 西新潟中央病院キャンパス1階(学部長室) | sadakata@nupals.ac.jp      |
| 日下 修一   | 火曜日・金曜日 10:30~13:00  | 西新潟中央病院キャンパス3階(316)  | s-kusaka@nupals.ac.jp      |
| 大野 直子   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| 西山 和代   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| 山本 淳子   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| 橋本 有紀   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| 加藤 君子   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| 諸橋 麻紀   | 火・木・金曜 13時~17時       | 西新潟中央病院キャンパス2階(215)  | morohashi@nupals.ac.jp     |
| 巳亦 圭子   | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |
| ブロード 裕子 | 実習終了後                | 西新潟中央病院キャンパス         |                            |

|                          |        |          |     |     |
|--------------------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>急激な健康破綻をきたした成人の看護</b> | 授業担当教員 | 古地 順子    |     |     |
|                          | 補助担当教員 |          |     |     |
|                          | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                          | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 2単位 |

|              |  |       |
|--------------|--|-------|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎IIIⅣV、Ⅴ/A-1,2,3,4,5,6,7,B-2,3,C-1,2,3,4,5,D-1,2,3,4,5,6,E-2,3 | 保健師課程 |
|--------------|--|-------|

**【授業概要】**

急激な発症あるいは疾病の急性増悪やけが、手術などの生体侵襲により急激な健康破綻をきたした成人とその家族の特徴を理解し、危機的状況を乗り越え、生活を再構築するために必要な看護について学修する。生体侵襲が人体に及ぼす影響および対象者とその家族の心理・社会的危機について理解し、生命の維持や健康の回復に向けた看護の基礎的知識を修得する。

**【実務経験】**

大学院に12年間勤務した経験を持つ。実務経験をもとに本科目の各授業において具体的事例を用いるとともに看護の実践的課題にも言及する内容の講義を行う。

**【到達目標】**

- 1) 急激な健康破綻、生命の危機的状況をもたらす生体侵襲と人体への影響について説明できる。
- 2) 急激な健康破綻をきたした成人とその家族の体験と反応および健康問題の特徴を説明できる。
- 3) 急激な健康破綻をきたした成人とその家族に対する看護の役割を説明できる。
- 4) 呼吸・循環・脳神経・代謝系における生体情報の観察から生命の危機的状況を判断できる。
- 5) 急激な健康破綻をきたした成人とその家族に対する日常生活援助の根拠が説明できる。
- 6) 治療・検査機器および生命維持装置の目的と看護上の問題について説明できる。
- 7) 急激な健康破綻をきたした成人とその家族の理解を促進するために必要な理論について説明できる。

**【授業計画】**

| 回  | 授業項目                              | 授業内容   | 授業方式             | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号               | 担当教員 |
|----|-----------------------------------|--|------------------|--|----------------------|------|
| 1  | 授業計画、病期とそれに特徴的な看護                 | 本科目の授業計画、予習と復習の仕方について、そして本授業で扱うテーマ、これは無数にある健康障害/疾患や外傷、手術などのうち代表的なものであること、本授業と「成人看護技術演習」との関連性についても説明します。また、急激な健康破綻をきたした成人とその家族の特徴とそれを把握するための視点について具体例をもとに学修します。 | 講義               | 予習：教科書急性期看護Ⅰの第1部急性期看護概論の項を読んでください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                            | 1) 2) 3) 7)          | 古地   |
| 2  | 循環器系の健康障害を有する対象者（急性心筋梗塞）への看護①     | 急性心筋梗塞という診断による緊急入院となり、経皮的冠動脈インターベンション（PCI）の施術を受けた40歳代男性患者の状況について学修します。   | 講義               | 予習：循環器、心臓の解剖・生理を図解とともにノートにまとめてください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                           | 1) 2) 3) 4)          | 古地   |
| 3  | 循環器系の健康障害を有する対象者（急性心筋梗塞）への看護②     | 急性心筋梗塞患者の検査と治療法、特にバイタルサイン測定と心電図検査、経皮的冠動脈インターベンションの実施方法、PCI後の心臓リハビリテーションとそれらに必要な看護、退院後の日常生活支援について学修します。   | 講義               | 予習：教科書急性期看護Ⅰの第X章事例で考える救急看護 1.激しい胸痛の項を読んでください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                 | 2) 3) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 4  | 呼吸器系の健康障害を有する対象者（気管支喘息の急性増悪）への看護① | 小児期から気管支喘息により治療を受けていた30歳代女性患者が呼吸器感染症により急性増悪した状況について、気管支喘息の病態生理とその観察ポイントおよび看護について学修します。   | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：呼吸器、肺の解剖・生理を図解とともにノートにまとめてください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                            | 1) 2) 3) 4)          | 古地   |
| 5  | 呼吸器系の健康障害を有する対象者（気管支喘息の急性増悪）への看護② | 気管支喘息患者の検査と治療法、肺機能検査、酸素吸入や人工呼吸など呼吸を補助する治療や感染症に対する治療とそれらに必要な看護、退院後の日常生活支援について学修します。   | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：教科書急性期看護Ⅱの第X章事例で考える救急看護 3.急性呼吸不全の項を読んでください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                | 2) 3) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 6  | 手術を受ける患者の（手術前・手術中）看護①             | 人が手術を受けるということがもつ意味を考えようとして、術前看護として術前オリエンテーション、術前の身体・心理面のアセスメント、術前の身体の準備、そして手術室看護として手術室環境、麻酔導入時の看護、手術中の看護、手術室における看護師の役について学修します。                                | 講義               | 予習：教科書急性期看護Ⅰの第2部 周手術期看護第1章から第III章の項を読んでください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                  | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 古地   |
| 7  | 手術を受ける患者の（手術後）看護②                 | 術後看護として、術直後の看護、術後疼痛の生体への影響とその管理方法、早期離床の目的と方法、創傷治癒過程、ドレーン管理、術後合併症について、手術による生体変化を理解し、異常の早期発見ができ術後の患者が順調に経過し、回復するために必要な援助方法について学修します。                             | 講義               | 予習：教科書急性期看護Ⅰの第2部 周手術期看護第IV章の項を読んでください。(45分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(45分)                        | 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) | 古地   |
| 8  | 脳神経系の健康障害を有する対象者（くも膜下出血）への看護①     | くも膜下出血という診断による緊急入院となり、血管内治療（コイル塞栓術）の施術を受けた60歳代女性患者の状況について、くも膜下出血の病態生理とその観察ポイントおよび看護について学修します。  | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：脳神経系の解剖・生理を図解とともにノートにまとめてください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                             | 1) 2) 3) 4)          | 古地   |
| 9  | 脳神経系の健康障害を有する対象者（くも膜下出血）への看護②     | くも膜下出血患者の検査と治療法、特に意識状態の観察スケール、CT、MRI、脳血管造影、腰椎穿刺の実施方法とその観察ポイントおよび看護、リハビリテーションおよび退院後の日常生活支援について学修します。  | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：教科書急性期看護Ⅱの第X章事例で考える救急看護2.激しい頭痛の項を読んでください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                  | 2) 3) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 10 | 消化器系の健康障害を有する対象者（直腸がん）への看護①       | 直腸がんの診断により、低位前方切除術と人工肛門造設手術のために入院となった50歳代男性患者の状況について、直腸がんの病態生理とその観察ポイントおよび看護について学修します。   | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：消化器系、大腸・直腸の解剖・生理を図解とともにノートにまとめてください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                       | 1) 2) 3) 4)          | 古地   |
| 11 | 消化器系の健康障害を有する対象者（直腸がん）への看護②       | 直腸がん患者の検査と治療法、直腸鏡および病変組織の採取、大腸内視鏡検査、注腸X線検査、腹部CT検査、超音波検査とその観察ポイントおよび看護、ストマケアと退院後の日常生活支援について学修します。   | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：教科書急性期看護Ⅱの第VI章事例で考える周手術期看護6.排泄機能の再確立（1）一低位前方切除術の項を読んでください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分) | 2) 3) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |
| 12 | 感覚器系の健康障害を有する対象者（熱傷）への看護①         | 交通事故による車両火災で熱傷を負った20歳代女性の状況について、熱傷の病態生理とその観察ポイントおよび看護について学修します。  | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：感覚器系、皮膚の解剖・生理を図解とともにノートにまとめてください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                          | 1) 2) 3) 4)          | 古地   |
| 13 | 感覚器系の健康障害を有する対象者（熱傷）への看護②         | 熱傷患者の検査と治療法、炎症や脱水、腎機能など全身の状態を把握するための血液検査や尿検査、熱傷ショック期・熱傷感染期・社会復帰準備期それぞれにおける治療法とその観察ポイントおよび看護、退院後の日常生活支援について学修します。   | アクティブラーニング・ジグソー法 | 予習：教科書急性期看護Ⅰの第X章事例で考える救急看護7.熱傷の項を読んでください。(30分)<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。(60分)                     | 2) 3) 4) 5) 6) 7)    | 古地   |

| 回  | 授業項目                  | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標<br>番号        | 担当<br>教員 |
|----|-----------------------|---|------|---|-------------------|----------|
| 14 | 生命危機状態の対象者（心肺停止）への看護① | わが国における救急医療の現状について、救急医療の歴史と動向、救急医療体制、プレホスピタルケア、救急医療と関連法令、救急医療における患者の特徴とその看護について学修します。                             | 講義   | 予習：教科書急性期看護Ⅱの第Ⅱ章救急医療における看護の項を読んでください。（45分）<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。（45分）        | 2) 3) 5) 7)       | 古地       |
| 15 | 生命危機状態の対象者（心肺停止）への看護② | 救急患者に対するアセスメントとして、緊急度と重症度の判断、全身状態のアセスメント、一次救命処置と二次救命処置、心肺蘇生のプロトコール、一次救命処置（BLS）、二次救命処置（ALS）その他の救急処置とその看護について学修します。 | 講義   | 予習：教科書急性期看護Ⅱの第Ⅳ章救命救急処置—心肺脳蘇生と生命維持の項を読んでください。（45分）<br>復習：授業内容をノートにまとめてください。（45分） | 1) 2) 3) 4) 6) 7) | 古地       |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                                 | 著者・編者         | 出版社 |
|-----|------------------------------------|---------------|-----|
| 教科書 | 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 急性期看護Ⅱ 救急看護 改訂第2版 | 編集: 林直子/佐藤まゆみ | 南江堂 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 60%  |      |            |      |        | 40%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー            | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス           |
|-------|--------------------|---------------------|--------------------|
| 古地 順子 | 火・水・金曜日12:10~17:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（318） | kochi@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

各授業は教科書および随時配布する資料を主体とする。

【成績評価基準】 レポート評価の観点の詳細は授業中に開示する。定期試験ならびにレポート評価（計100点満点）のうち60点以上を合格とする。



|                 |        |                   |     |     |
|-----------------|--------|-------------------|-----|-----|
| <b>老年看護学実践論</b> | 授業担当教員 | 成澤 幸子・酒井 禎子・橋本 有紀 |     |     |
|                 | 補助担当教員 |                   |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目          |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 後期            | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III、○V / A-2,5,6,7,B,C,D,E,F        |       |  |  |

#### 【授業概要】

老年看護学概論で学習した高齢者看護の基本的な知識、および老年の疾病と治療の知識をもとに、生活機能及び健康障がい有するあらゆる健康段階にある高齢者とその家族の特徴を理解し、アセスメントの視点を学ぶ。また、個々の高齢者とその家族のセルフケア能力を高めることができ、主体的かつよりよい生活を営むための具体的な看護方法を学ぶ。

#### 【実務経験】

(成澤) 新潟大学医歯学総合病院の精神科、心臓血管外科、循環器・内分泌・血液内科、整形外科で看護師、新潟大学保健学研究科で成人看護学教育の経験を有している。  
(酒井) 新潟市民病院の呼吸器・血液内科で看護師、新潟県立看護大学で成人看護学教育の経験を有している。  
(橋本) 臨床経験13年、教育経験専門学校看護学科専任教員として7年「在宅看護論」の科目を講義する。

#### 【到達目標】

1. 高齢者の生活機能を整える看護の知識と技術を習得する。
2. 高齢者のあらゆる健康段階における特徴について説明し、看護の特徴について説明できる。
3. 治療処置、各経過別看護における高齢者ケアの特徴について説明できる。
4. 国際生活機能分類（ICF）について理解し、その特徴について説明できる。
5. ICFを用いた看護の必要性について事例を通してアセスメント、計画立案することができる。
6. 行った看護の評価方法について学習し、記載することができる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                      | 授業内容  | 授業方式  | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標<br>番号 | 担当教員           |
|---|---------------------------|---|-------|---|------------|----------------|
| 1 | 科目履修ガイダンス<br>高齢者と病期の特徴と看護 | 科目履修ガイダンス<br>老年看護学概論、老年の疾病と治療の授業の想起含む                                   | 講義    | 予習：疾病の特徴について復習して授業に臨む（30分）<br>復習：あらゆる健康段階と看護についてまとめる（30分）               | 1.2        | 成澤             |
| 2 | 老年看護と看護過程 1               | 1) 国際生活機能分類と看護<br>2) 高齢者フィジカルアセスメント<br>3) 高齢者の健康状態アセスメント<br>4) 高齢者の看護過程 | 講義    | 予習：看護過程とは、フィジカルアセスメントについて復習しておく（30分）<br>復習：高齢者とフィジカルアセスメントについてまとめる（30分） | 3.4.5      | 成澤             |
| 3 | 老年看護と看護過程 2               | 1) 事例による高齢者看護過程<br>①提示事例の情報<br>アセスメントガイドに基づき分類・整理を行う<br>②アセスメント方法について   | 講義    | 予習：ICFについて復習しておく（20分）<br>復習：情報の分類を行う（40分）                               | 3.4.5      | 成澤<br>酒井<br>橋本 |
| 4 | 老年看護と看護過程 3               | アセスメント、関連図  | 講義    | 予習：情報の分類とアセスメントの一部を行っておく（20分）<br>復習：アセスメントを終え、関連図を描く（40分）               | 3.4.5      | 成澤<br>酒井<br>橋本 |
| 5 | 老年看護と看護過程 4               | 看護問題、看護課題   | 講義    | 予習：関連図を記載しておく（30分）<br>復習：看護問題・課題を作成し、長期目標を記述する（30分）                     | 3.4.5      | 成澤<br>酒井<br>橋本 |
| 6 | 老年看護と看護過程 5               | 看護計画立案  | 講義    | 予習：看護計画を用紙に沿って記載しておく（20分）<br>復習：看護計画を完成させておく（40分）                       | 3.4.5      | 成澤<br>酒井<br>橋本 |
| 7 | 老年看護と看護過程 6               | 評価方法について<br>立案した看護計画の一部をグループ単位で実施し、評価する。                                | 講義・演習 | 予習：看護計画の一部を実践できるように計画書に記載する（30分）<br>復習：実施したことを評価し記載する（30分）              | 3.4.5      | 成澤<br>酒井<br>橋本 |
| 8 | まとめ                       | 発表<br>看護過程ファイルの提出   | 講義    | 予習：これまでの看護過程を振り返り、各自の記録をまとめて提出できるようにしておく。（60分）                          | 6          | 成澤<br>酒井<br>橋本 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                           | 著者・編者            | 出版社        |
|-----|------------------------------|------------------|------------|
| 教科書 | 老年看護学①ナースングラフィカ<br>高齢者の健康と障害 | 堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編 | 株式会社メディカ出版 |
| 参考書 | 系統看護学講座専門分野II<br>老年看護学       | 北川公子他著           | 医学書院       |
| 参考書 | 老年看護学②ナースングラフィカ<br>高齢者看護の実践  | 堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編 | 株式会社メディカ出版 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

#### 【連絡先】

| 氏名    | オフィスアワー        | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                  |
|-------|----------------|---------------------|---------------------------|
| 成澤 幸子 | 平日：17:00～19:00 | 西新潟中央病院キャンパス2階（213） | narisawa@nupals.ac.jp     |
| 酒井 禎子 |                | 西新潟中央病院キャンパス3階（315） | yoshikosakai@nupals.ac.jp |
| 橋本 有紀 | 授業終了後          | 西新潟中央病院キャンパス        |                           |

|                 |        |                     |     |     |
|-----------------|--------|---------------------|-----|-----|
| <b>小児看護学実践論</b> | 授業担当教員 | 坪川 麻樹子・中垣 紀子・五十嵐 真理 |     |     |
|                 | 補助担当教員 |                     |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目            |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 後期              | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|              | ◎III、○V / A-2,3,6 C-2,3,4,5 D-1,3,4  |       |  |  |

#### 【授業概要】

健康課題・障害及び入院が、小児と家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解する。また、発達段階により小児が陥りやすい健康課題（症状）・障害の経過の特徴を踏まえたアセスメントの視点、発達段階に応じた看護方法、診療に伴う援助技術をグループ学習等を通して学ぶ。

#### 【実務経験】

- (坪川) 病院で約9年間、小児看護に携わっていた。その実務経験をもとに、本科目の講義を行う。  
(中垣) 小児専門病院で27年間、小児看護に携わっていた。この実務経験をもとに、本科目の講義を行う。  
(五十嵐) 混合病棟ならびに救急部・集中治療部に入室する子どもと家族の看護に10年間携わる。看護基礎教育において小児看護の教育に携わった経験は18年。

#### 【到達目標】

1. 小児の各発達段階にみられる日常的な健康問題と看護を理解する。
2. 入院生活をしている子どもへのケアの基本となる援助的アプローチが理解できる。
3. 小児各期の特徴を踏まえたヘルスアセスメントの技術について学習する。
4. 小児期に特徴的な診療（治療・処置・検査・診察）上の看護援助を理解する。
5. 子どもの健康課題が、成長発達や生活に与える影響を理解する。
6. 健康課題を持つ子どもの看護について、保健医療・福祉支援機関をふまえて学習し、小児看護のあり方を考察する。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目                 | 授業内容  | 授業方式       | 授業外学習（予習・復習）  | 到達目標<br>番号 | 担当教員            |
|---|----------------------|---|------------|---|------------|-----------------|
| 1 | 子どものアセスメントに必要な援助技術   | 授業ガイダンス、入院環境の理解と小児期の特徴的な診療への看護<br>各発達段階をふまえた生活援助技術（バイタルサイン測定） | 講義         | 予習：教科書の「子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護」「子どものアセスメント」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる | 1, 2, 3    | 中垣              |
| 2 | 子どもの検査・処置体験とプレパレーション | 子どもにとっての検査・処置体験と実際の看護について<br>様々な検査・処置とプレパレーションについて            | 講義         | 予習：教科書「検査・処置を受ける子どもの看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                   | 2, 3, 4    | 坪川              |
| 3 | 手術を受ける子どもと家族への看護     | 周手術期の特徴と子ども・家族への看護について  | 講義         | 予習：教科書「周手術期の子どもと家族の看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                    | 2, 3, 4    | 坪川              |
| 4 | 急性期にある子どもと家族への看護     | 急性期の特徴と子ども・家族への看護について   | 講義         | 予習：「急性期にある子どもと家族への看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                     | 3, 4, 5    | 五十嵐             |
| 5 | 慢性期にある子どもと家族への看護     | 慢性期の特徴と子ども・家族への看護について   | 講義         | 予習：教科書「慢性期にある子どもと家族の看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                   | 3, 4, 5    | 坪川              |
| 6 | 小児がんをもつ子どもと家族への看護    | 小児がんの特徴と子ども・家族への看護について  | 講義         | 予習：教科書「終末期にある子どもと家族の看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                   | 3, 4, 5    | 坪川              |
| 7 | 障がいのある子どもと家族への看護     | 障がいのある子ども特徴と子ども・家族への看護について                                    | 講義         | 予習：教科書「障害のある子どもと家族の看護」を読んでおく<br>復習：授業で学んだことをまとめる                    | 3, 4, 5    | 中垣              |
| 8 | 小児看護における看護過程         | 紙上事例を用いて看護過程の展開をする  | 講義・グループワーク | 予習：今までの学びを確認しておく<br>復習：小児における看護の特徴についてまとめる                          | 1~6        | 坪川<br>中垣<br>五十嵐 |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名               | 著者・編者 | 出版社  |
|-----|------------------|-------|------|
| 教科書 | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 | 奈良間美保 | 医学書院 |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション<br>試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート                    | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|----------------|------|--------|-------------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 70%  |      |                |      |        | 30%                     |                         |     |
| 備考   |      |      |                |      |        | 最終日に配布した紙上事例の看護についてまとめる |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー         | 研究室（部屋番号）           | Eメールアドレス                     |
|--------|-----------------|---------------------|------------------------------|
| 坪川 麻樹子 | 火曜日 13:00~15:00 | 西新潟中央病院キャンパス3階（320） | makikotsubokawa@nupals.ac.jp |
| 中垣 紀子  | 水曜日13時~17時      | 西新潟中央病院キャンパス3階（321） | n-nakagaki@nupals.ac.jp      |
| 五十嵐 真理 | 授業終了後           | 西新潟中央病院キャンパス        |                              |

|                 |        |          |     |     |
|-----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>母性看護学実践論</b> | 授業担当教員 | 定方 美恵子   |     |     |
|                 | 補助担当教員 |          |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |  |       |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目）<br>◎III、○V/C-3、D-4、E-1、 | 保健師課程 |  |  |
|--------------|--|-------|--|--|

#### 【授業概要】

妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象について、身体的、心理的、社会的変化と特徴、家族の機能と発達について教授する。対象の特徴について理解するとともに、健康状態をアセスメントし、健康を保持するための看護支援、新しい家族を迎える人々に対する看護支援について考える。妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常からの逸脱と看護、特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援と看護について講義する。

#### 【実務経験】

病院で6年間の実務経験、看護教員として38年間保健医療機関で実習指導を行った経験を持つ。この経験を生かして、本科目「母性看護学実践論」の講義を行う。

#### 【到達目標】

- 1) 妊娠・分娩・産褥の生理的な経過および身体的、心理的、社会的変化と適応の過程を説明できる。
- 2) 妊娠中の日常生活を過ごすための看護と、出産・育児の準備に向けた支援の実際を説明できる。
- 3) 妊娠期の異常（異所性妊娠、妊娠維持期間の異常、多胎、妊娠に伴う異常、合併症を有する妊娠、妊娠期の感染症）の概要と管理について説明できる。
- 4) 分娩の経過と産婦と胎児の健康状態のアセスメントについて説明できる。
- 5) 分娩期の産婦および家族のニーズに応じた看護について説明できる。
- 6) 分娩期の異常と管理・処置ならびに看護について説明できる。
- 7) 産褥期の身体的変化、心理的適応、母親としての発達課題、家族の機能と発達課題について説明できる。
- 8) 産褥期の母親と家族への看護について説明できる。
- 9) 母乳育児の特徴、乳汁分泌メカニズム、新生児の生理機能と発達について理解し、母乳育児を行う母親への看護を説明できる。
- 10) 産褥期に特有な正常逸脱の状態とその看護について説明できる。
- 11) 新生児の生理的特徴とアセスメント、ならびに看護について説明できる。
- 12) 早産児、低出生体重児の病態、新生児に見られる疾患を理解し看護の要点を説明できる。
- 13) 特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援を説明できる。

#### 【授業計画】

| 回 | 授業項目   | 授業内容  | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）   | 到達目標番号  | 担当教員 |
|---|--|---|------|--|---------|------|
| 1 | 妊娠・分娩・産褥の生理的経過と身体・心理・社会的変化                   | 妊娠・分娩・産褥期における看護の役割を説明する。妊娠・分娩・産褥の生理的経過、および身体・心理・社会的変化と適応の過程を理解できるように説明するとともに、妊娠期の異常の概要と管理について講義する。  | 講義   | 予習：本科目で使用するテキストにある、妊婦の身体の正常な変化、胎児の器官形成と発育の流れを理解して講義に臨む。(60分)<br>復習：講義プリントとテキストを用い、生理的変化、胎児の器官形成の理解を深める。(30分) | 1       | 定方   |
| 2 | 妊娠中の身体・心理・社会的変化のアセスメントと看護                    | 妊婦健康診査の実際と、妊娠期における身体・心理・社会的変化と適応の過程のアセスメントの視点をもとに、健康診査の項目・方法を講義する。母親となる支援、家族を形成するための支援を説明するとともに、妊娠期の健康を維持するためのセルフマネジメント（活動、栄養、清潔等）、出産と子育て準備の看護について講義する。 | 講義   | 予習：妊娠期の健康診査の項目、検査の目的について調べる。(30分)<br>復習：妊娠期のセルフマネジメントの内容について理解を深める。(60分)                                     | 2.3     | 定方   |
| 3 | 分娩の生理と分娩経過と看護                                | 分娩期の経過と産婦と胎児の健康状態のアセスメント、正常から逸脱した場合の異常と管理について説明する。分娩期の産婦及び家族のニーズに応じた看護を理解し、どのような看護が求められているかを講義する。   | 講義   | 予習：分娩の三要素について調べる。(30分)<br>復習：分娩の経過と胎児の健康状態のアセスメントの理解を深める。(60分)   | 4.5     | 定方   |
| 4 | 産褥期の身体的変化、心理的適応の過程、母親の発達課題と看護                | 産褥期の身体的変化、心理的適応、母親としての発達課題、家族の機能と発達課題について解説する。産褥期の母親への復古促進への看護、母親と家族への心理社会的適応への看護、母乳育児の特性と支援について講義する。   | 講義   | 予習：産褥期の身体的変化並びに乳汁分泌のメカニズムについて予習をして臨む。(30分)<br>復習：産褥期の身体的変化のアセスメントとその看護について理解を深める。(90分)                       | 7.8     | 定方   |
| 5 | 新生児の生理的特徴と正常逸脱時の看護と母乳育児支援                    | 新生児の生理的特徴とアセスメントの視点、観察の方法と特に出生直後のケア、早期新生児期の看護を説明する。また、早産児、低出生体重児の病態・疾患と管理・看護の概要を講義する。   | 講義   | 予習：新生児の生理的特徴について調べる。(30分)<br>復習：出生直後のケア、早期新生児期の看護について理解を深める。(60分)  | 9.11.12 | 定方   |
| 6 | 妊娠から産褥期の異常に関する医学的管理と看護                       | 妊娠期の異常（異所性妊娠、妊娠維持期間の異常、多胎、妊娠高血圧症候群・妊娠悪阻などの妊娠に伴う異常、合併症を有する妊娠、感染症等）、産褥期に特有な正常逸脱の状態と看護について講義する。  | 講義   | 予習：妊娠期の異常について調べる。(30分)<br>復習：妊娠期と産褥期の異常について、病態、管理の理解を深める。(60分)   | 6.10    | 定方   |
| 7 | 妊娠・分娩・産褥期の看護と課題の考察（1）                        | 第1回目から第6回目までの復習で考察した課題をまとめ、発表と学びの共有を行う。   | 講義   | 予習：課題を分担し、発表できるように資料を準備する。(60分)<br>復習：発表者の内容を評価するとともに、自分の資料への自己評価を加える。(30分)                                  | 2.5.8   | 定方   |
| 8 | 妊娠・分娩・産褥期の看護と課題の考察（2）<br>特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援 | 第1回目から第6回目までの復習で考察した課題をまとめ、発表と学びの共有を行う。<br>後半には、特殊なニーズをもつ妊産婦と家族について取り上げ、支援の概要を講義する。   | 講義   | 予習：課題を分担し、発表できるように資料を準備する。(60分)<br>復習：発表者の内容を評価するとともに、自分の資料への自己評価を加える。(30分)                                  | 13      | 定方   |

#### 【教科書・参考書】

| 種別  | 書名                          | 著者・編者              | 出版社    |
|-----|-----------------------------|--------------------|--------|
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ「母性看護学② 母性看護の実践」 | 小林康江、中込さと子、荒木奈緒 編集 | メディカ出版 |
| その他 | 講義プリントを配布                   |                    |        |

#### 【成績評価方法・基準】

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート                | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|---------------------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%                 |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        | 復習の課題の資料をまとめて、発表する。 |                         |     |

#### 【課題に対するフィードバック方法】

レポートの集計結果を定期試験期間後に開示

#### 【連絡先】

| 氏名     | オフィスアワー        | 研究室（部屋番号）            | Eメールアドレス              |
|--------|----------------|----------------------|-----------------------|
| 定方 美恵子 | 火・水 12時30分～14時 | 西新潟中央病院キャンパス1階（学部長室） | sadakata@nupals.ac.jp |

#### 【その他】

各授業は配布されるプリント主体で行う。

【成績評価基準】 レポート評価の観点の詳細は授業中に開示する。レポート評価（100点満点）のうち60点以上を合格とする。

|                 |        |          |     |     |
|-----------------|--------|----------|-----|-----|
| <b>精神看護学実践論</b> | 授業担当教員 |          |     |     |
|                 | 補助担当教員 |          |     |     |
|                 | 区分     | 専門教育必修科目 |     |     |
|                 | 年次・学期  | 2年次 後期   | 単位数 | 1単位 |

|              |                                      |       |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|
| 看護学部<br>看護学科 | DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目（中項目） | 保健師課程 |  |  |
|--------------|--------------------------------------|-------|--|--|

**【授業概要】**

精神機能の障害が及ぼす日常生活および身体への影響について、看護の視点から考える。地域精神保健福祉対策・精神障害者福祉について理解するとともに、地域で生活する当事者・家族を支える社会資源について学び、それを維持するために必要なサポートシステムについて学ぶ。

**【到達目標】**

- 1.地域精神保健福祉について学ぶ
- 2.地域生活を支えるための社会資源を理解する
- 3.地域生活を支えるための多職種連携について学ぶ
- 4.地域包括ケアについて理解し、家族支援の方法について学ぶ
- 5.当事者のエンパワメントに関わるシステムを理解する

**【授業計画】**

| 回 | 授業項目       | 授業内容                           | 授業方式 | 授業外学習（予習・復習）                        | 到達目標番号 | 担当教員 |
|---|------------|--------------------------------|------|-------------------------------------|--------|------|
| 1 | 地域精神保健福祉とは | 日本の地域精神保健福祉対策・精神障害者福祉          | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②     |      |
| 2 | 地域精神保健活動   | 地域精神保健活動の実際（精神保健福祉センターの活動）     | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②     |      |
| 3 | 社会資源       | 地域生活を支えるための社会資源を知る             | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②     |      |
| 4 | 社会的側面の対象理解 | 心理社会的側面からの生きづらさと適応             | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②③    |      |
| 5 | 退院支援       | 退院支援とCBT（認知行動療法）               | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ②③④⑤   |      |
| 6 | 多職種連携      | 地域生活を支えるための多職種連携の在り方を学ぶ        | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②③④⑤  |      |
| 7 | 家族支援       | 当事者を支える家族を支援する                 | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②③④⑤  |      |
| 8 | 当事者支援      | 当事者のエンパワメント（ピアサポート・セルフヘルプグループ） | 講義   | 予習：テキストの予習（60分）<br>復習：授業ノートの復習（60分） | ①②③④⑤  |      |

**【教科書・参考書】**

| 種別  | 書名                         | 著者・編者 | 出版社      |
|-----|----------------------------|-------|----------|
| 教科書 | 新体系看護学全書 精神看護学概論/精神保健（第5版） | 岩崎弥生  | メジカルフレンド |
| 教科書 | 新体系看護学全書 精神障害を持つ人の看護（第5版）  | 千葉理恵  | メジカルフレンド |

**【成績評価方法・基準】**

| 評価方法 | 定期試験 | 中間試験 | シミュレーション試験 | 技能試験 | その他の試験 | レポート | 観察記録<br>授業態度<br>授業への貢献度 | その他 |
|------|------|------|------------|------|--------|------|-------------------------|-----|
| 割合   | 80%  |      |            |      |        | 20%  |                         |     |
| 備考   |      |      |            |      |        |      |                         |     |

**【課題に対するフィードバック方法】**

**【連絡先】**

|    |         |           |          |
|----|---------|-----------|----------|
| 氏名 | オフィスアワー | 研究室（部屋番号） | Eメールアドレス |
|----|---------|-----------|----------|